

U/Cサーバ 10.5.1
オペレーションマニュアル

株式会社 広告EDIセンター

注意事項

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は、予告なしに変更する場合があります。
- 本書の内容に不備がある場合は、ご連絡ください。

本書に掲載されている製品およびサービス等の名称は、各社の商標または登録商標です。

変更履歴

版	更新日	変更内容
1	2024/01/30	新規作成

1.	はじめに	8
2.	U/Cサーバの基本操作	9
2.1.	各画面の種類	9
2.2.	ウィンドウの操作	10
2.3.	ダイアログの操作	11
2.4.	特殊な入力や選択	12
2.4.1.	タブ	12
2.4.2.	ラジオボタン	12
2.4.3.	チェックボックス	12
2.4.4.	コンボボックス	12
2.4.5.	日付入力または選択	13
2.4.6.	値を増減するボタン	13
3.	SystemManager	14
3.1.	SystemManagerの主な機能	14
3.2.	SystemManagerへのログイン	15
3.3.	SystemManagerの接続先設定	17
3.3.1.	接続先設定を登録するには	17
3.3.2.	登録されている接続先を変更するには	17
3.3.3.	登録されている接続先を削除するには	17
3.4.	ユーザ設定	18
3.4.1.	ユーザを登録するには	18
3.4.2.	登録されているユーザを変更するには	20
3.4.3.	登録されているユーザを削除するには	21
3.5.	広告取引EDIシステムへの通信設定	22
3.5.1.	通信設定を変更するには	22
3.6.	メールサーバ設定	24
3.6.1.	メールサーバ設定を変更するには	24
3.7.	ログインID設定	26
3.7.1.	ログインIDを登録するには	26
3.7.2.	登録されているログインIDを変更するには	27
3.7.3.	登録されているログインIDを削除するには	28
3.8.	システムスケジュール設定	29
3.8.1.	クリーンアップ	29
3.8.2.	バックアップ	31
3.8.3.	リポート	33
3.8.4.	スケジュール適用	35
3.8.5.	休日適用	36
4.	TaskManager	38
4.1.	TaskManagerの主な機能	38
4.2.	TaskManagerへのログイン	39
4.3.	TaskManagerの接続先の設定	41
4.3.1.	接続先設定を登録するには	41

4.3.2.	登録されている接続先を変更するには.....	41
4.3.3.	登録されている接続先を削除するには.....	41
4.4.	情報区分の設定.....	42
4.4.1.	使用する情報区分を設定するには.....	43
4.5.	パートナーの設定.....	44
4.5.1.	パートナー情報を検索するには.....	44
4.5.2.	パートナー情報を登録するには.....	45
4.5.3.	登録されているパートナー情報の変更をするには.....	46
4.5.4.	登録されているパートナー情報の削除をするには.....	47
4.5.5.	パートナー情報のインポート・エクスポート.....	48
4.6.	休日設定.....	51
4.6.1.	初期登録される休日.....	51
4.6.2.	休日の設定方法.....	52
4.6.3.	定例休日を登録するには.....	52
4.6.4.	定例休日を削除するには.....	53
4.6.5.	定例休日の営業日、非営業日を切り替えるには.....	53
4.6.6.	休日カレンダーを参照するには.....	53
4.6.7.	休日カレンダーから営業日、非営業日を切り替えるには.....	54
4.6.8.	休日カレンダーをリセットするには.....	56
4.7.	スケジュール情報の設定.....	57
4.7.1.	スケジュール情報を検索するには.....	57
4.7.2.	スケジュール情報を登録するには.....	58
4.7.3.	登録されているスケジュール情報の変更をするには.....	61
4.7.4.	登録されているスケジュール情報の削除をするには.....	61
4.7.5.	登録されているスケジュール情報の抑止をするには.....	62
4.7.6.	登録されているスケジュール情報の抑止解除をするには.....	63
4.7.7.	休日カレンダーを見る.....	63
4.7.8.	ファイル転送プログラムに関する情報を設定するには.....	64
4.8.	送受信スケジュールの処理結果を見る.....	68
4.8.1.	トランザクションを検索するには.....	69
4.8.2.	トランザクションの詳細を見るには.....	71
4.9.	送受信データの状況を見る.....	73
4.9.1.	送受信データを検索するには.....	74
4.9.2.	送受信データの詳細を見るには.....	76
4.10.	スケジュールの起動状況を見る.....	80
4.10.1.	スケジュール状況を検索するには.....	81
4.10.2.	スケジュール状況の詳細を見るには.....	83
4.11.	TaskManagerのその他の機能.....	86
4.11.1.	表示内容を最新の状態にする.....	86
4.11.2.	未送信・未配信データ件数の自動取得.....	86
4.11.3.	表示の更新頻度を設定する.....	87
4.11.4.	データリカバリの指示.....	88
4.11.5.	システム保守.....	88

5.	スケジュールの起動と停止	89
5.1.	システムスケジュール	89
5.1.1.	システムスケジュールを起動するには.....	89
5.1.2.	システムスケジュールを停止するには.....	89
5.2.	ユーザスケジュール	90
5.2.1.	ユーザスケジュールを起動するには	90
5.2.2.	ユーザスケジュールを停止するには	90
6.	データのリカバリ	91
6.1.	広告取引EDIシステムにデータが送信されなかったとき.....	91
6.2.	業務システムにデータが配信されなかったとき	94
6.3.	EDIデータを広告取引EDIシステムに再送信したいとき	97
6.4.	EDIデータを業務システムに再配信したいとき	100
6.5.	送受信処理の結果を業務システムに再通知したいとき	103
6.6.	送受信スケジュールを緊急に実行したいとき.....	106
6.7.	特定のデータファイルを送信したいとき.....	108
6.8.	特定のEDIデータを再度受信したいとき	109
6.8.1.	着信済のデータが存在するかを広告取引EDIシステムに問い合わせる	109
6.8.2.	データを選択して受信	111
7.	システム保守	113
7.1.	バックアップ	113
7.1.1.	バックアップを自動で実行するには	113
7.1.2.	バックアップを手動で実行するには	113
7.2.	リストア.....	114
7.2.1.	リストアを実行するには.....	114
7.2.2.	リストア実行時の注意点.....	116
7.3.	クリーンアップ	116
7.3.1.	クリーンアップを実行するには.....	116
7.3.2.	クリーンアップの削除対象.....	116
7.4.	不要な送受信データの削除	117
7.4.1.	不要な送受信データを削除するには	117
7.4.2.	不要データの削除に関する注意事項	117
7.5.	スケジュールの抑止	118
7.5.1.	スケジュール状況でスケジュールの抑止を行うには	118
7.5.2.	スケジュール状況でスケジュールの抑止解除を行うには.....	121
7.6.	イベントログ出力.....	123
7.6.1.	イベントログ出力情報について	123
7.6.2.	イベントログメッセージ集.....	123
8.	ユーザとログインIDの関係	124
8.1.	ユーザの定義	124
8.2.	ログインIDの定義と種別.....	124
9.	メッセージリファレンス	125

9.1.	画面出力エラーメッセージ.....	125
9.2.	送受信・システムスケジュールメッセージ	129
9.2.1.	エラーステータスメッセージ	129
9.2.2.	警告ステータスメッセージ	135
10.	U/Cサーバの手動起動と停止	136
10.1.	U/Cサーバの手動起動	136
10.1.1.	サービスの起動	136
10.1.2.	プロセスの起動.....	137
10.2.	U/Cサーバの手動停止	138
10.2.1.	プロセスの停止.....	138
10.2.2.	サービスの停止	139
11.	コマンドでの送受信スケジュール実行	140
11.1.	starttranコマンド.....	140
11.1.1.	コマンドを実行するには.....	140
11.1.2.	オプション機能を使用するには.....	141
11.1.3.	エラーメッセージが表示されるときには	142

1.はじめに

U/Cサーバは広告会社と新聞社及び放送局の間で各種の取引データを電子的に交換できるソフトウェアです。
本書は、U/Cサーバのシステム設定、及びユーザ設定の方法と運用機能の操作手順を記述しています。

2.U/Cサーバの基本操作

U/Cサーバの画面各部の名称と必要な基本操作を説明します。

2.1.各画面の種類

画面の種類は大きく分けて「ウィンドウ」と「ダイアログ」があります。

- ウィンドウ
アプリケーションを立ち上げて最初に立ち上がる画面です。
処理選択メニュー及び複数データの照会などに使用され、画面の最大化や最小化または、サイズを変更することができます。本書では「～画面」または「～ウィンドウ」と、表記しています。
- ダイアログ
ウィンドウからの操作で表示される画面です。画面によって、ポップアップまたはスクロールで表示されます。
設定、実行の指示、データの選択などで使用され、画面の最大化や最小化または、サイズ変更はできません。本書では「～ダイアログ」と、表記しています。

2.3.ダイアログの操作



図 2-2 ダイアログの各部の名称と機能

① タイトルバー

ダイアログのタイトルが表示されます。

② 閉じるボタン

[閉じる]ボタンはそのダイアログを閉じることができます。設定の内容は保存されません。

③ コマンドボタン

クリックするとボタンに従った操作が実行されます。

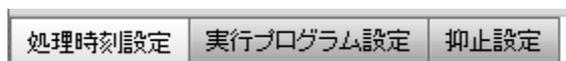
ポップアップで表示されるダイアログの場合、[閉じる]ボタンが表示されており、クリックすると画面が閉じられます。

2.4. 特殊な入力や選択

データの入力や選択で単にテキストを入力するもの以外の特殊なものについて説明します。

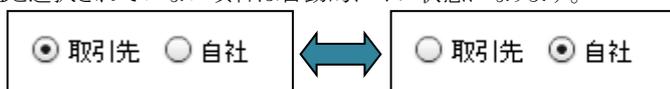
2.4.1. タブ

選択したいタブをマウスでクリックすると、それに該当する項目の画面が表示されます。本書では「～タブ」と表記しています。



2.4.2. ラジオボタン

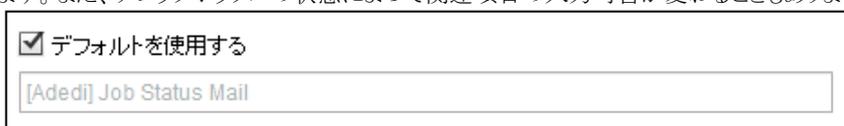
複数の選択肢の中からひとつだけを選択する様な場合に使います。選択のオプションボタンをマウスでクリックします。クリックすると選択されていない項目は自動的にオフ状態になります。



2.4.3. チェックボックス

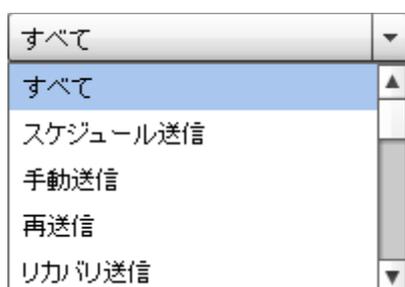
「する／しない」の様な二つの状態を切り替える場合や、複数の項目について選択する場合に使います。選択のチェックボックスをマウスでクリックします。

「する／しない」の様な二つの状態を切り替える場合、チェックボックスが の状態は「する」を表し、 の状態は「しない」を表します。また、チェックボックスの状態によって関連項目の入力可否が変わることもあります。



2.4.4. コンボボックス

ドロップダウンしたリストから項目を選択するのがコンボボックスです。▼ボタンまたはテキスト部分をクリックすると、リストがドロップダウンして表示されます。リストの項目をクリックすると選択されます。一部にはテキスト部分に入力ができるものもあります。



2.4.5.日付入力または選択

日付の指定をする場合はキーボードから直接入力または、カレンダーより選択する方法があります。直接入力する場合は の様に日付部分にキーボード入力します。YYYY/MM/DDの書式で入力してください。カレンダーより選択する場合は  ボタンをクリックします。以下の様なカレンダーが表示されます。日付をマウスでクリックして選択します。



 または  ボタンで前後の月のカレンダーを表示することができます。

2.4.6.値を増減するボタン

入力ボックスに  がついているものは、ボタンをクリックすることによって値を自動で増減することができます。値を直接、キーボードから入力することもできます。



3.SystemManager

3.1.SystemManagerの主な機能

SystemManagerの主な機能は以下の通りです。

表 3-1 SystemManagerの主な機能

アイコン	画面名	説明
	ユーザ設定	U/Cサーバで送受信を行うユーザIDとその接続情報を設定します。 設定方法は「3.4.ユーザ設定」を確認してください。
	ログイン設定	U/CサーバのSystemManager、TaskManagerにログインするログインID、パスワードを登録します。 設定方法は「3.7.ログインID設定」を確認してください。
	通信設定	U/Cサーバの広告取引EDIシステムへの通信に関する情報を設定します。 設定方法は「3.5.広告取引EDIシステムへの通信設定」を確認してください。
	メールサーバ設定	U/Cサーバの処理状況に関するメールを送信するメールサーバの情報を設定します。 設定方法は「3.6.メールサーバ設定」を確認してください。
	システムスケジュール設定	システム保守(クリーンアップ、バックアップ、スケジュール適用、休日適用、リポート)に関するスケジュールを設定します。 設定方法は「3.8. システムスケジュール設定」を確認してください。
	バックアップ	U/Cサーバ内のマスタ・実績情報のバックアップを手動で実行します。 操作方法は「7.1.バックアップ」を確認してください。
	リストア	U/Cサーバのバックアップファイルをリストアし、バックアップ取得時の状態に戻します。 操作方法は「7.2.リストア」を確認してください。

3.2. SystemManagerへのログイン

SystemManagerへ初めてログインする場合、ログインする前に接続先設定を登録する必要があります。初めてログインする場合には、接続先設定を登録してからログインしてください。

接続先設定の登録は「3.3.1.接続先設定を登録するには」を確認してください。

1. Windowsのスタート画面またはデスクトップで[SystemManager]アイコンをクリックし、SystemManagerを起動します。



図 3-1 SystemManagerアイコン

2. 「ログイン」画面が表示されたら、以下の項目を入力します。

図 3-2 SystemManager ログイン画面

表 3-2 項目入力内容(ログイン画面)

項目名	内容
接続先	接続先を選択します。
ログインID	接続先のログインIDを入力します。
パスワード	接続先のパスワードを入力します。
パスワードを保存する	パスワードを保存するときチェックします。 チェックすると次回のログイン時にログインID、パスワードが表示されます。

U/Cサービインストール時に、以下のログインID・パスワードが初期値として登録されます。初めてログインする場合には以下の値を入力してください。

- ・ ログインID:「ucs_admin」
 - ・ パスワード:「password」
- ※ ログイン後に「ログインID設定」画面から管理者IDのパスワードを変更してください。
- ※ 変更手順は「3.7.2.登録されているログインIDを変更するには」を確認してください。

3. [ログイン]ボタンをクリックしてログインすると、「メインメニュー」画面が表示されます。SystemManagerの各アイコン、画面の説明は「表 3-1 SystemManagerの主な機能エラー! 参照元が見つかりません。」を確認してください。



図 3-3 SystemManager メインメニュー画面

3.3. SystemManagerの接続先設定

SystemManagerの「ログイン」画面で[接続先設定]ボタンをクリックすると、[接続先設定]ダイアログが表示されます。

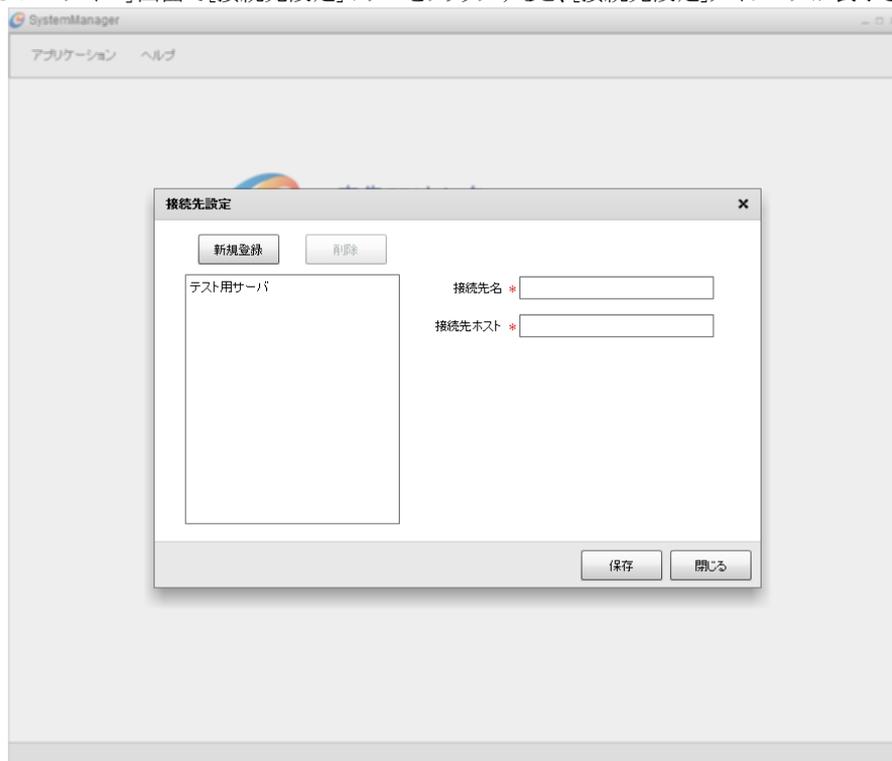


図 3-4 接続先設定ダイアログ

3.3.1. 接続先設定を登録するには

1. [新規登録]ボタンをクリックします。「接続先名」、「接続先ホスト」項目がクリアされます。
2. 各項目を設定し、[保存]ボタンをクリックしてください。

表 3-3 項目入力内容(接続先設定)

項目名	内容
接続先名	登録する接続先サーバを識別する名称です。 任意の値を設定してください。
接続先ホスト	接続先サーバのアドレスです。 ポート番号をアドレスの後ろに:(半角コロン)で区切って記述してください。 通常通りインストールした場合、ポート番号は必ず8080となります。 例) 同端末のU/Cサーバに接続する場合は「localhost:8080」のように設定します。

3.3.2. 登録されている接続先を変更するには

1. 一覧に表示されている接続先をクリックし、「接続先名」、「接続先ホスト」を表示します。
2. 変更する項目を入力した後、[保存]ボタンをクリックしてください。

3.3.3. 登録されている接続先を削除するには

1. 一覧に表示されている接続先をクリックし、「接続先名」、「接続先ホスト」を表示します。
2. [削除]ボタンをクリックしてください。

3.4. ユーザ設定

SystemManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[ユーザ設定]アイコンをクリックすると「ユーザ設定」画面が表示されます。U/Cサーバのユーザ登録やユーザに関する接続者情報、データ保管情報、業務通知情報が設定できます。

U/Cサーバにおけるユーザの定義は「8. ユーザとログインIDの関係」を確認してください。

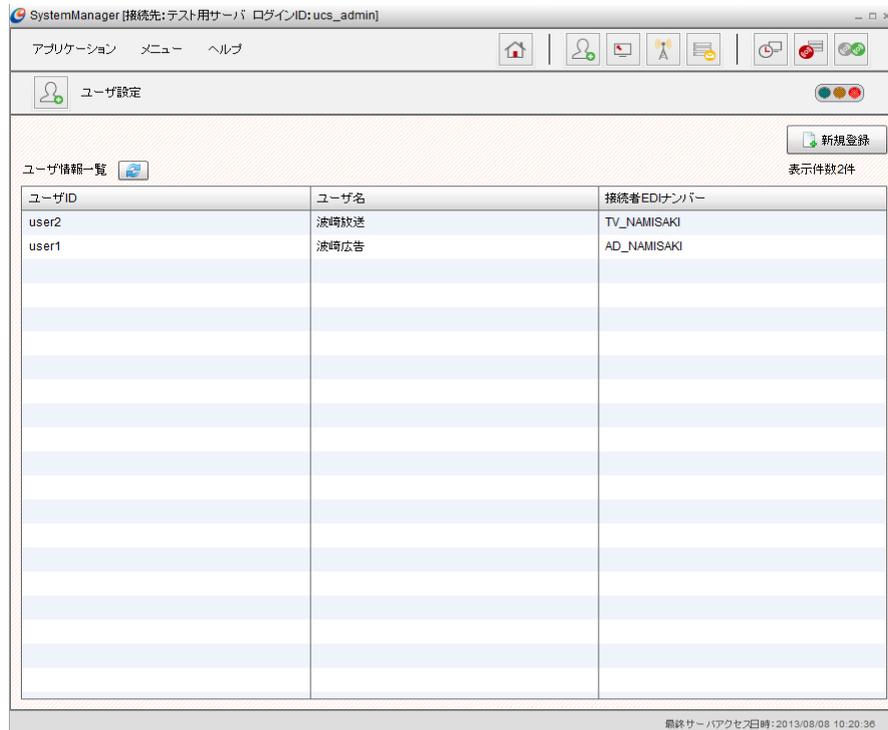


図 3-5 ユーザ設定画面

3.4.1. ユーザを登録するには

1. 「ユーザ設定」画面で[新規登録]ボタンをクリックすると[ユーザ情報登録]ダイアログが表示されます。

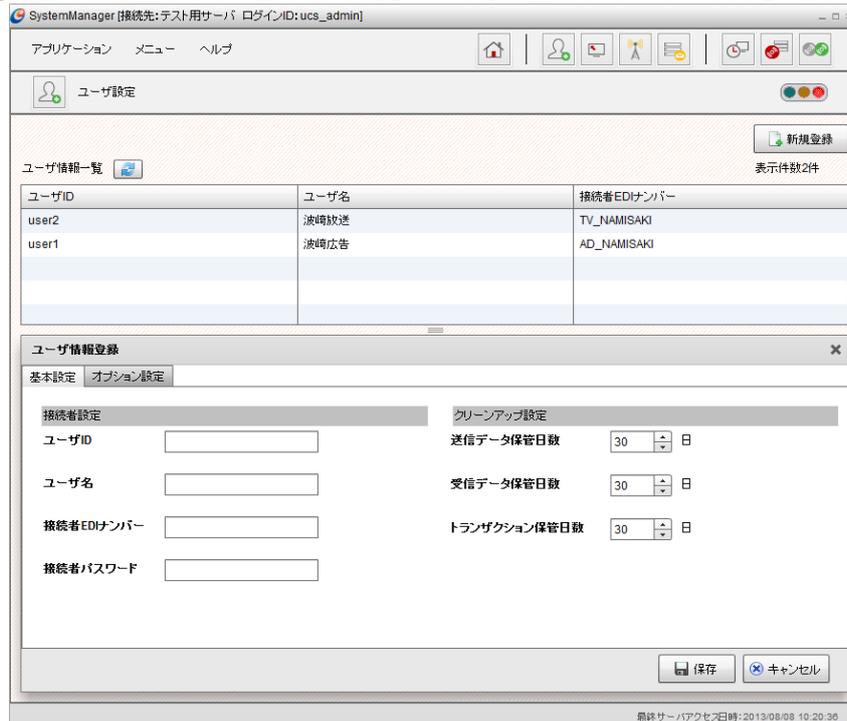


図 3-6 ユーザ設定画面(ユーザ情報登録) 基本設定タブ

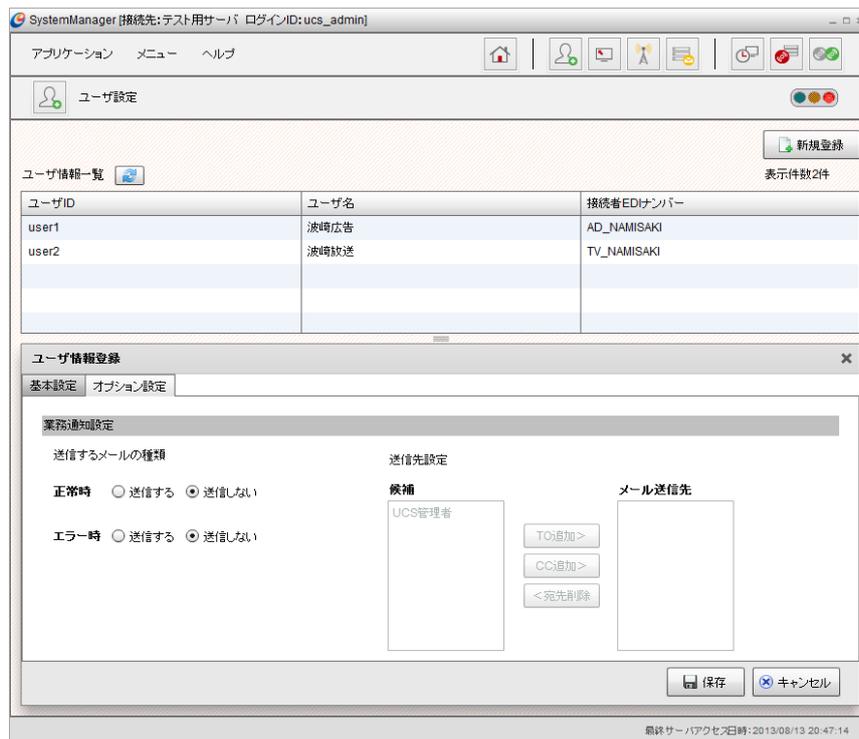


図 3-7 ユーザ設定画面(ユーザー情報登録) オプションタブ

2. [基本設定]タブで接続先設定及びクリーンアップ設定の項目を入力します。[オプション]タブで業務通知設定の項目を入力します。

表 3-4 項目入力内容(ユーザー設定)

項目名	内容
接続者設定	
ユーザID	登録するユーザIDを半角英数字で入力します。
ユーザ名	ユーザ名を入力します。
接続者EDIナンバー	広告取引EDIシステムに接続するためのEDIナンバーを入力します。 ¹
接続者パスワード	広告取引EDIシステムに接続するためのパスワードを入力します。
クリーンアップ設定	
送信データ保管日数	登録するユーザに関連する送信データの保管日数を入力します。
受信データ保管日数	登録するユーザに関連する受信データの保管日数を入力します。
トランザクション保管日数	登録するユーザに関連する処理のトランザクション情報の保管日数を入力します。
業務通知設定	
送信するメールの種類	登録するユーザに関連する処理について業務通知メールを送信するタイミング(正常時、エラー時)を入力します。
送信先設定	業務通知メールを受信するログインIDを指定します。 各ログインIDにメールアドレスが設定できます。ログインIDの設定については、「3.7.ログインID設定」を確認してください。

3. 入力した内容を登録する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して登録を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

¹ 接続者EDIナンバー、接続者パスワードが不明な場合には、広告取引EDIサポートデスクへお問い合わせください。

3.4.2.登録されているユーザを変更するには

1. 「ユーザ設定」画面で一覧に表示されているユーザを選択すると、[ユーザ情報参照]ダイアログが表示されます。

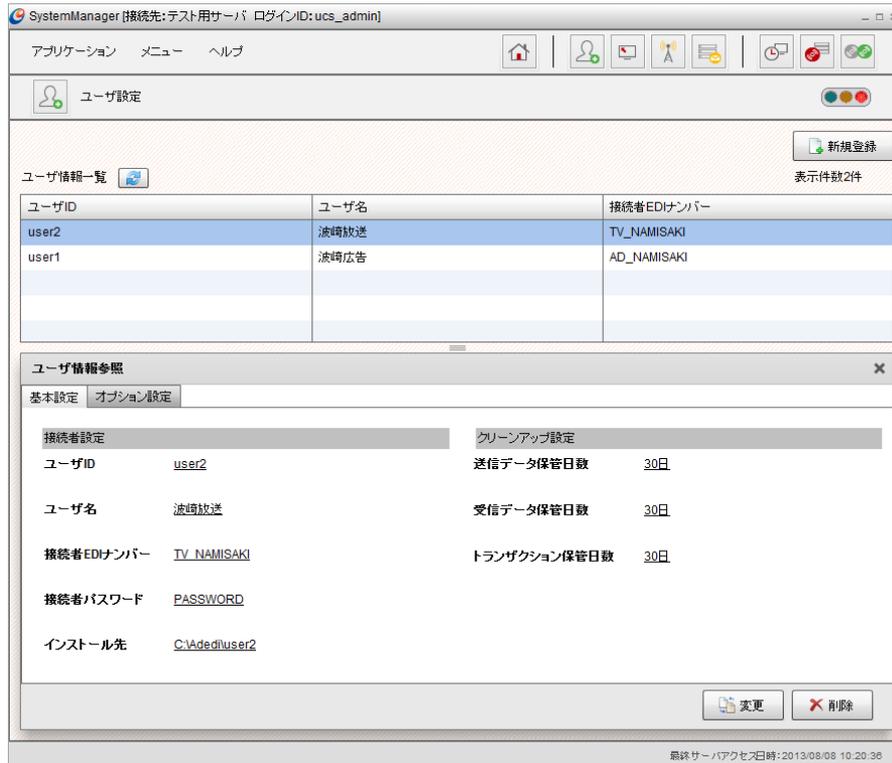


図 3-8 ユーザ設定画面(ユーザ情報参照)

2. [変更]ボタンをクリックすると、[ユーザ情報更新]ダイアログが表示されますので、項目を編集します。

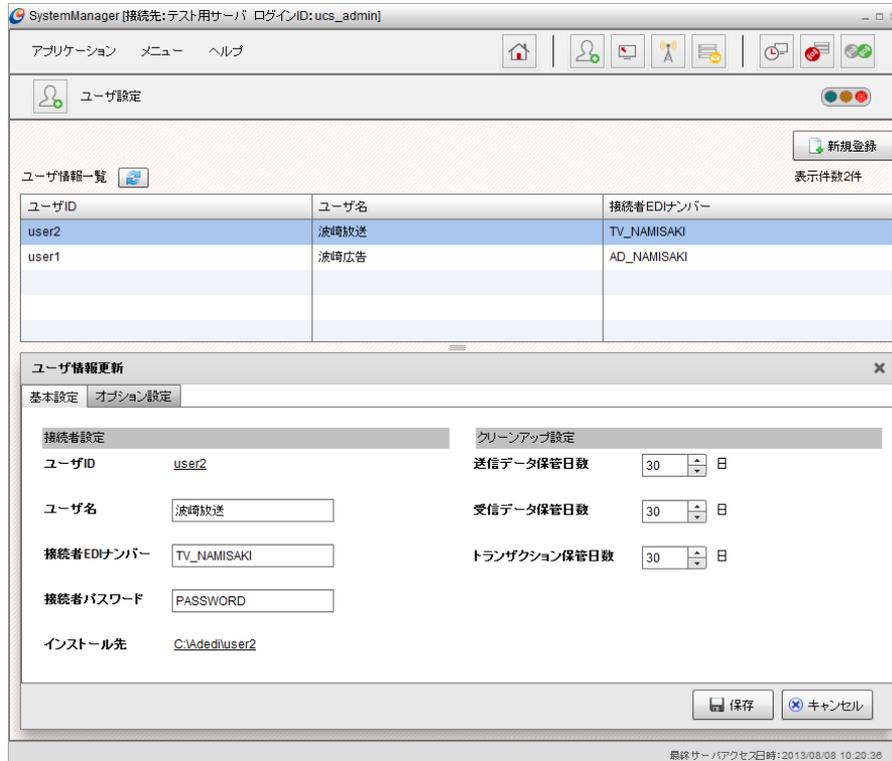


図 3-9 ユーザ設定画面(ユーザ情報更新)

3. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

3.4.3.登録されているユーザを削除するには

1. 一覧に表示されているユーザを選択すると、[ユーザ情報参照]ダイアログが表示されます。

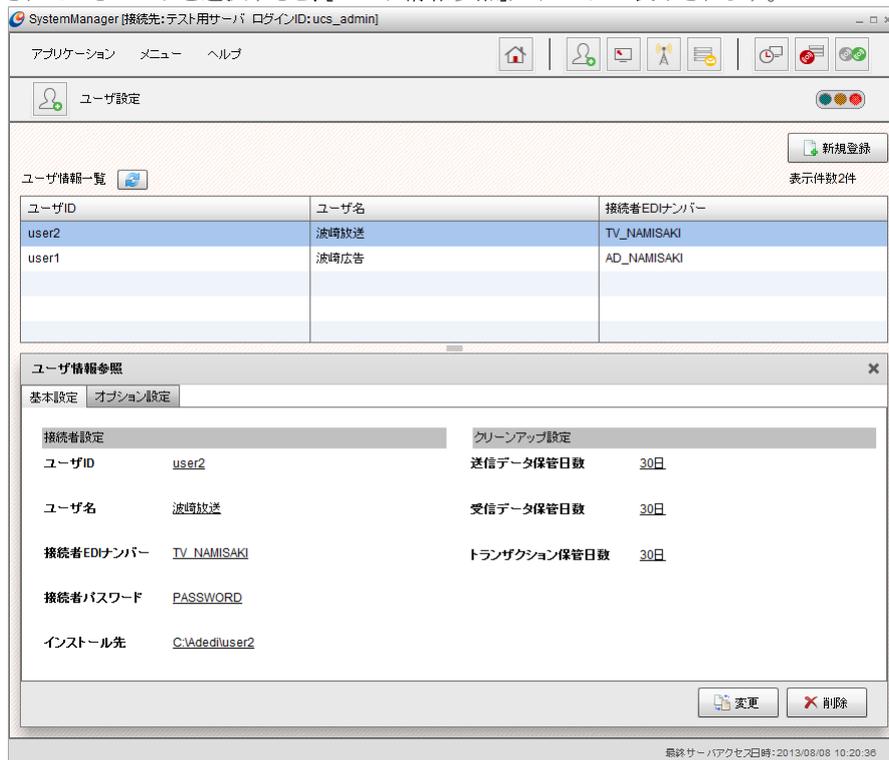


図 3-10 ユーザ設定画面(ユーザ情報参照)

2. [削除]ボタンをクリックしてユーザを削除します。
3. 削除対象ユーザに関連した実績データ(送受信データ、トランザクション等)が存在する場合は、以下の画面が表示されます。

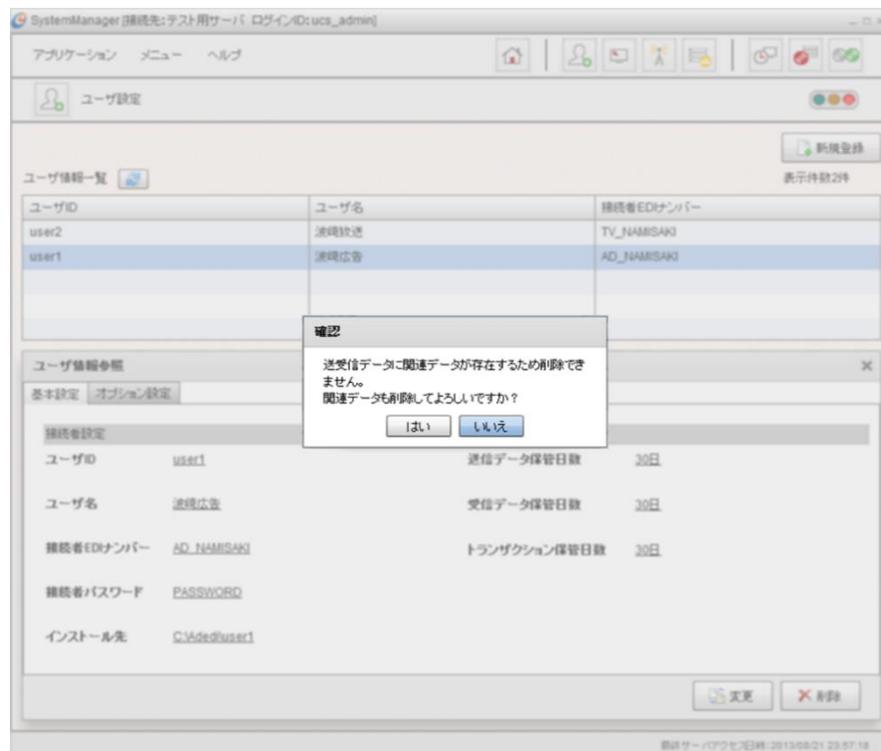


図 3-11 ユーザ設定画面(ユーザ強制削除)

4. 関連データとともに削除する場合は、[はい]をクリックします。ユーザの削除を中止する場合は、[いいえ]をクリックします。

3.5. 広告取引EDIシステムへの通信設定

SystemManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[通信設定]アイコンをクリックすると、「通信設定」画面が表示されます。¹ 広告取引EDIシステムへの接続情報、及びProxyサーバの情報が設定できます。

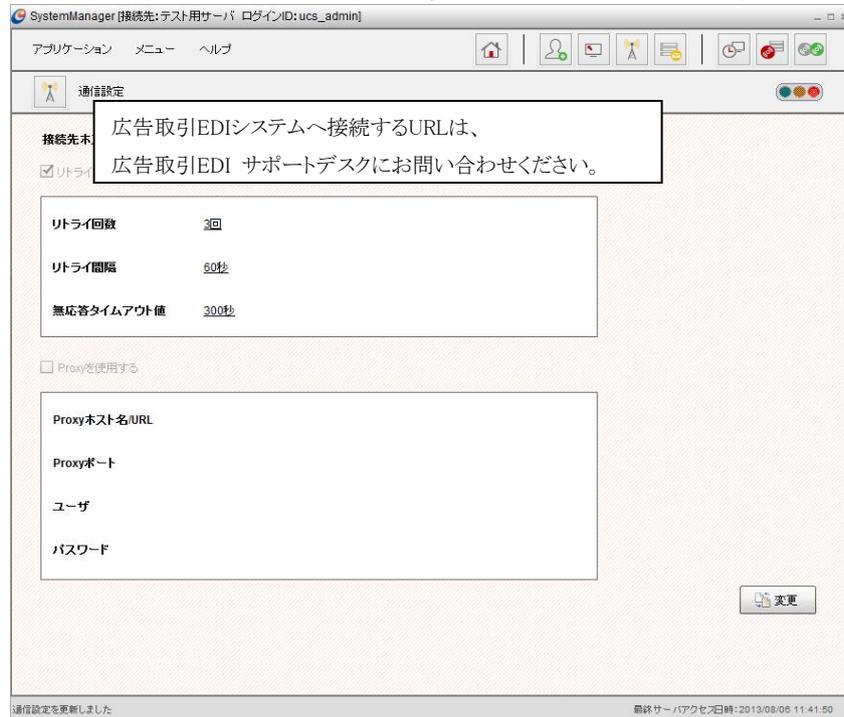


図 3-12 通信設定画面

3.5.1. 通信設定を変更するには

1. 「通信設定」画面で[変更]ボタンをクリックします。

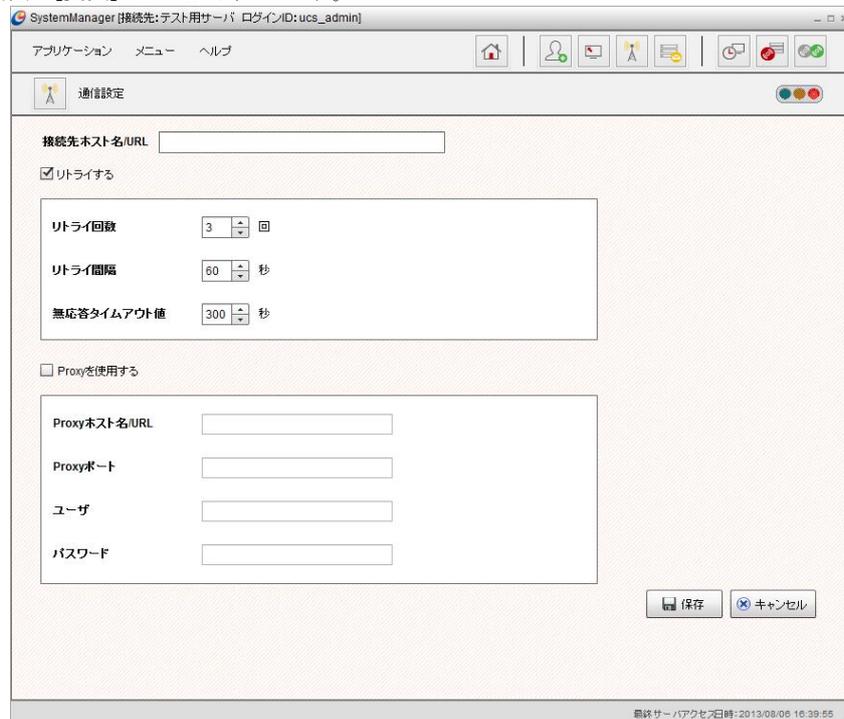


図 3-13 通信設定画面(通信設定更新)

¹ インストール直後は、「通信設定参照」画面が表示されず、直接「通信設定変更」画面が表示されます。

2. 以下の項目を編集します。

表 3-5 項目入力内容(通信設定)

項目名	内容
接続先ホスト名/URL	広告取引EDIシステムへ接続するURLを入力します。 URLについては広告取引EDIサポートデスクまでお問い合わせください。
リトライする	チェックした場合、接続エラー時は「リトライ間隔」で「リトライ回数」分、接続を再試行します。 チェックがない場合、接続エラーとなった時点で、処理を終了します。
リトライ回数	リトライの再試行回数を指定します。 「リトライする」にチェックが入っている場合のみ有効です。
リトライ間隔	リトライの再試行間隔をn秒で指定します。 「リトライする」にチェックが入っている場合のみ有効です。
無応答タイムアウト値	通信中に必要な応答が返ってこなかった場合にタイムアウトとする時間をn秒で指定します。 デフォルトは300秒で設定されています。
Proxyを使用する	U/Cサーバから広告取引EDIシステムへの接続でProxyサーバを使用する場合はチェックします。
Proxyホスト名/URL	使用するProxyサーバのホスト名またはURLを入力します。 「Proxyを使用する」にチェックが入っている場合のみ有効です。
Proxyポート	Proxyサーバの接続ポートを入力します。 「Proxyを使用する」にチェックが入っている場合のみ有効です。
ユーザ	Proxyサーバ接続時に認証が必要な場合は、認証用のユーザを入力します。 Proxyサーバの認証方式がNTLM認証 ¹ の場合はドメインを¥(バックスラッシュ)で区切って記述してください。 例)ドメイン=test.co.jp ユーザ=user1の場合は、「test.co.jp¥user1」のように設定してください。 「Proxyを使用する」にチェックが入っている場合のみ有効です。
パスワード	Proxyサーバ接続時に認証が必要な場合は、認証用のパスワードを入力します。 「Proxyを使用する」にチェックが入っている場合のみ有効です。

3. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

¹ NTLM認証とはWindows NTで採用されたログオン時の標準認証方式であり、ユーザ名、パスワード、およびドメインをホストに渡して認証するユーザ認証方式です。U/CサーバではProxyサーバの認証方式として、NTLM認証の他にBasic認証とDigest認証に対応しております。

3.6.メールサーバ設定

SystemManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[メールサーバ設定]アイコンをクリックすると、「メールサーバ設定」画面が表示されます。¹ 業務通知メールを送信するための情報が設定できます。

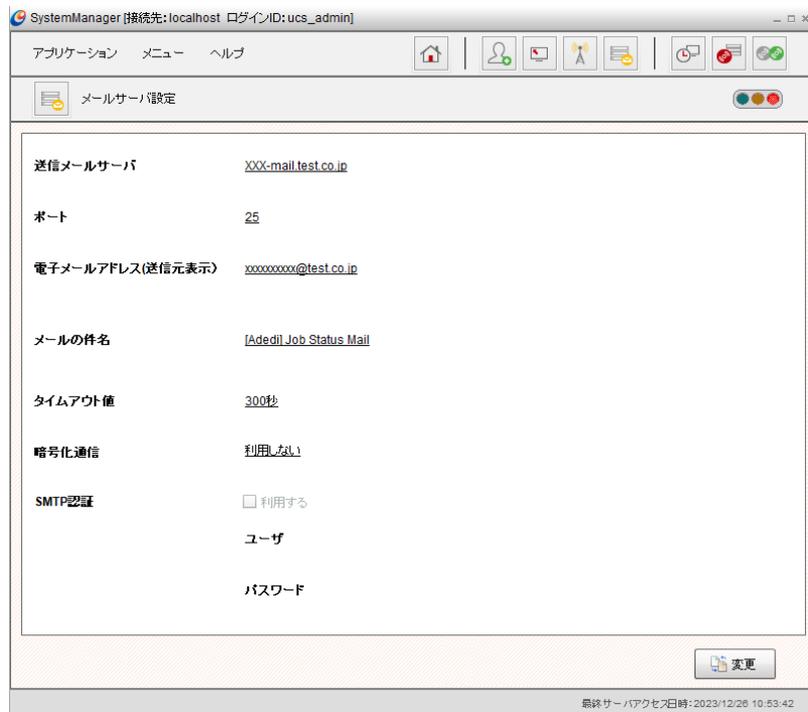


図 3-14 メールサーバ設定

3.6.1.メールサーバ設定を変更するには

1. 「メールサーバ設定」画面で[変更]ボタンをクリックします。

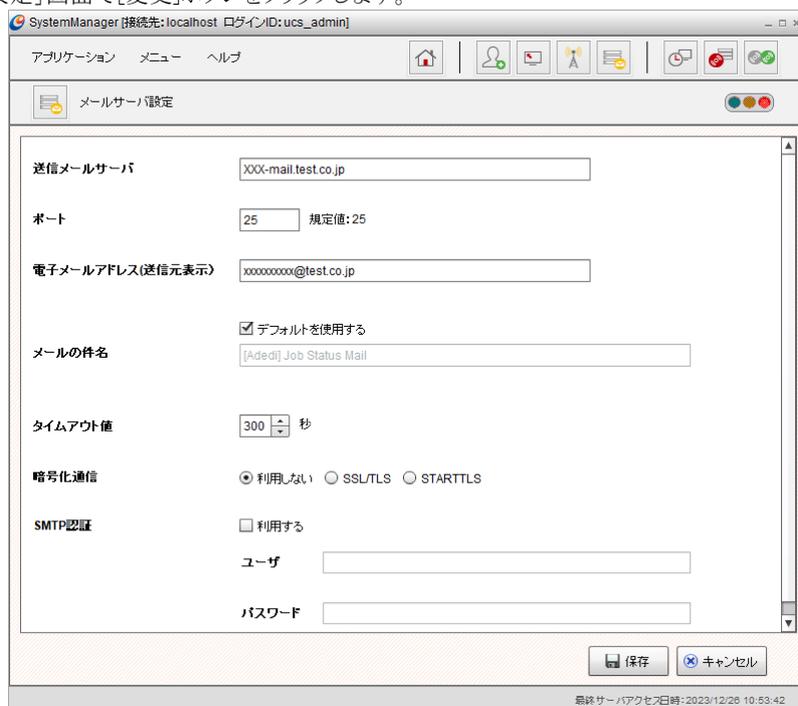


図 3-15 メールサーバ設定(メールサーバ情報更新)

¹ インストール直後は、「メールサーバ情報参照」が表示されず、直接「メールサーバ情報更新」が表示されます。

2. 以下の項目を入力します。

表 3-6 項目入力内容(メールサーバ設定)

項目名	内容
送信メールサーバ	メール送信用のサーバのアドレスまたはURLを入力します。 U/Cサーバの業務通知メールを送信する場合に使用します。
ポート	送信メールサーバへの接続ポートを入力します。
電子メールアドレス (送信元表示)	U/Cサーバからの業務通知メールを受信した際に、表示される差出人のアドレスを入力します。
メールの件名	U/Cサーバからの業務通知メールを受信した際に、表示される件名を入力します。 「デフォルトを使用する」をチェックした場合は、デフォルトの件名で送信されます。デフォルトの件名は「[Adedi] Job Status Mail」です。
タイムアウト値	送信メールサーバへの接続を開始し、応答が返ってくるまでの待機時間を入力します。 入力した秒数を経過した場合、接続を中断します。
暗号化通信	メール送信時の通信の暗号化方式を指定します。 方式は「利用しない(暗号化なし)」、「SSL/TLS」、「STARTTLS」から選択してください。
SMTP認証	メールサーバとのユーザ認証を有効にします。 利用する場合は「利用する」にチェックを入れた上で、メールサーバに登録されているユーザ情報を「ユーザ」、「パスワード」に入力してください。

3. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

- ※ 暗号化通信はいずれもTLSv1.2を使用します。
- ※ 暗号化通信に「STARTTLS」を設定してメールを送信した際、通信先のメールサーバがSTARTTLSに対応していない場合、通信エラーとして扱います。U/Cでは平文(暗号化なし)での送信への切り替えは行いません。
- ※ SMTP認証はPLAIN形式を採用しています。認証情報は暗号化通信に「SSL/TLS」か「STARTTLS」を設定することで暗号化します。

3.7. ログインID設定

SystemManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[ログイン設定]アイコンをクリックすると、「ログイン設定」画面が表示されます。SystemManager、及びTaskManagerへログインするためのIDを設定できます。

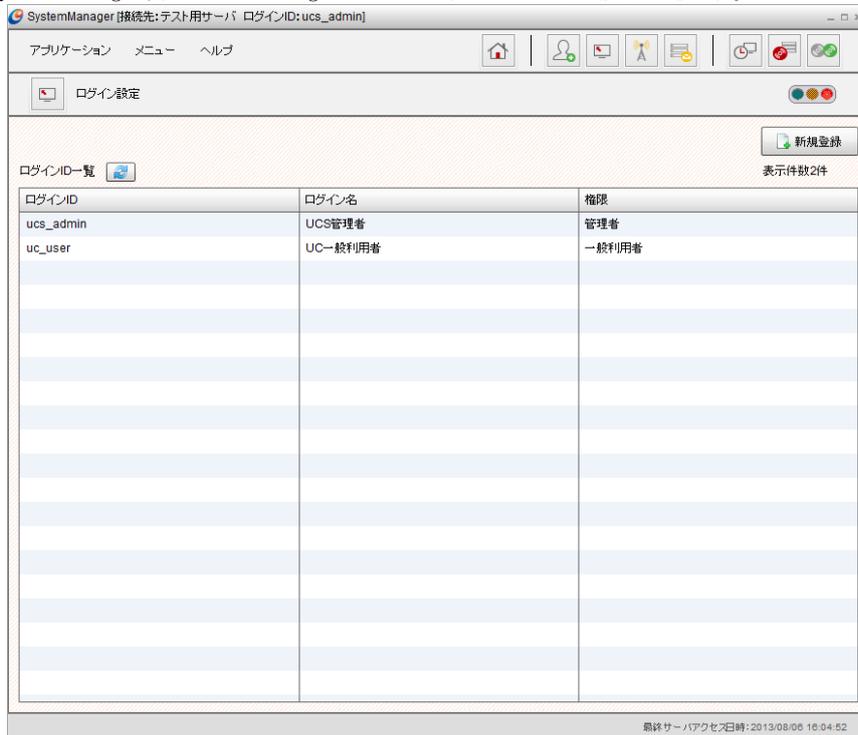


図 3-16 ログイン設定画面

3.7.1. ログインIDを登録するには

1. [新規登録]ボタンをクリックすると[ログインID情報登録]ダイアログが表示されます。

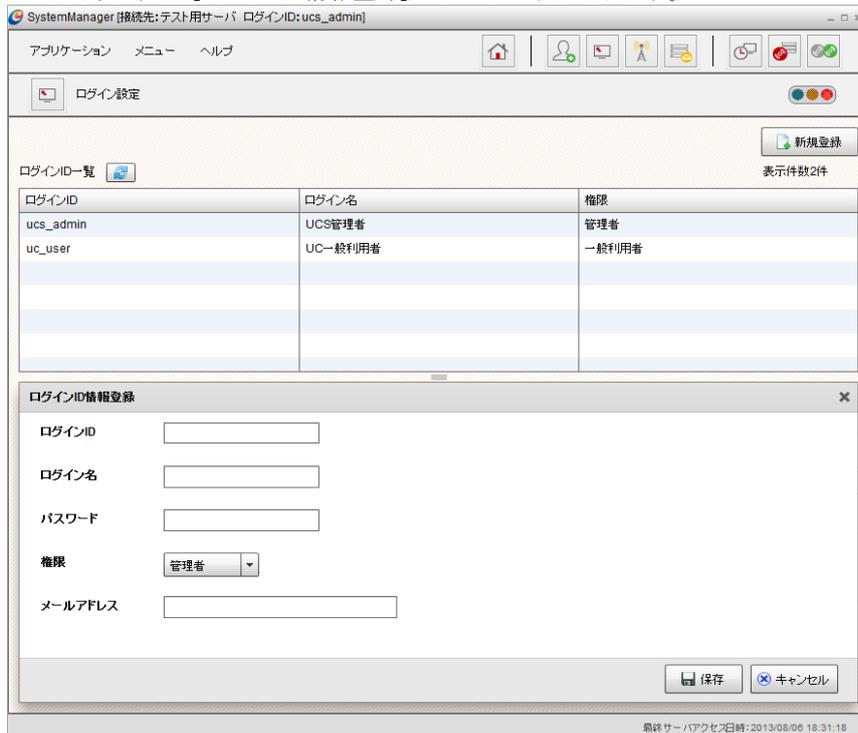


図 3-17 ログイン設定画面(ログインID情報登録)

- 以下の項目を入力します。

表 3-7 項目入力内容(ログインID)

項目名	内容
ログインID	ログインIDを入力します。
ログイン名	ログイン名を入力します。
パスワード	ログイン時に必要なパスワードを入力します。
権限	ログインIDの権限を入力します。 権限は以下から選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> 管理者 一般利用者 権限ごとに操作できる内容が変わります。 詳細は「8.ユーザとログインIDの関係」を確認してください。
メールアドレス	業務通知メールを受信するメールアドレスを入力します。

- 入力した内容を登録する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して登録を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

3.7.2.登録されているログインIDを変更するには

- 「ログイン設定」画面で一覧から変更するログインIDを選択すると、「ログインID情報参照」ダイアログが表示されます。

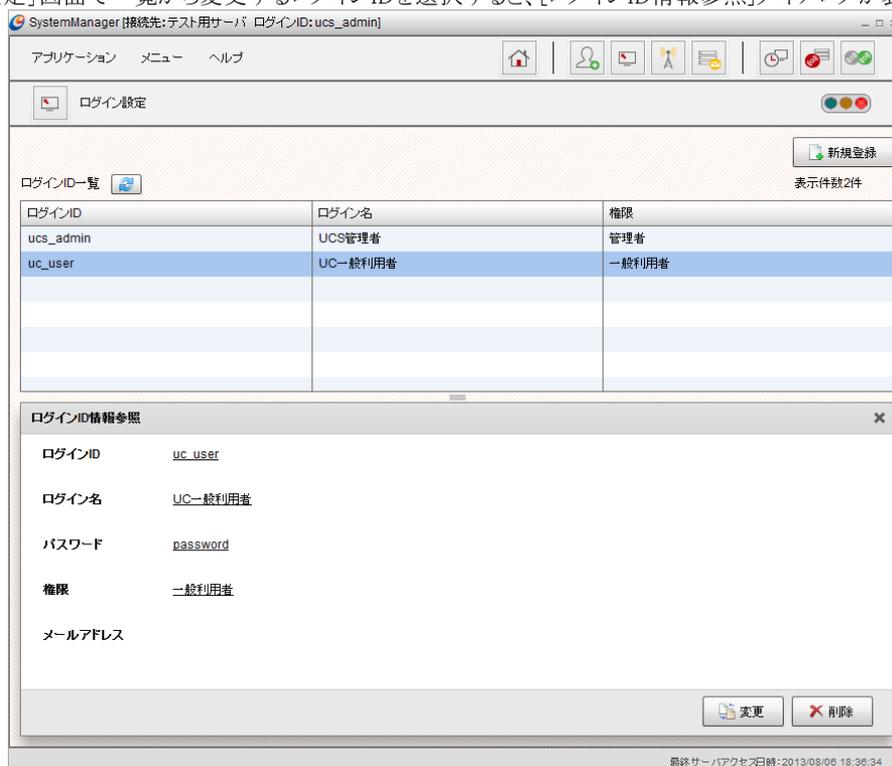


図 3-18 ログイン設定画面(ログインID情報参照)

2. [変更]ボタンをクリックすると、[ログインID情報更新]ダイアログが表示されますので、項目を編集します。

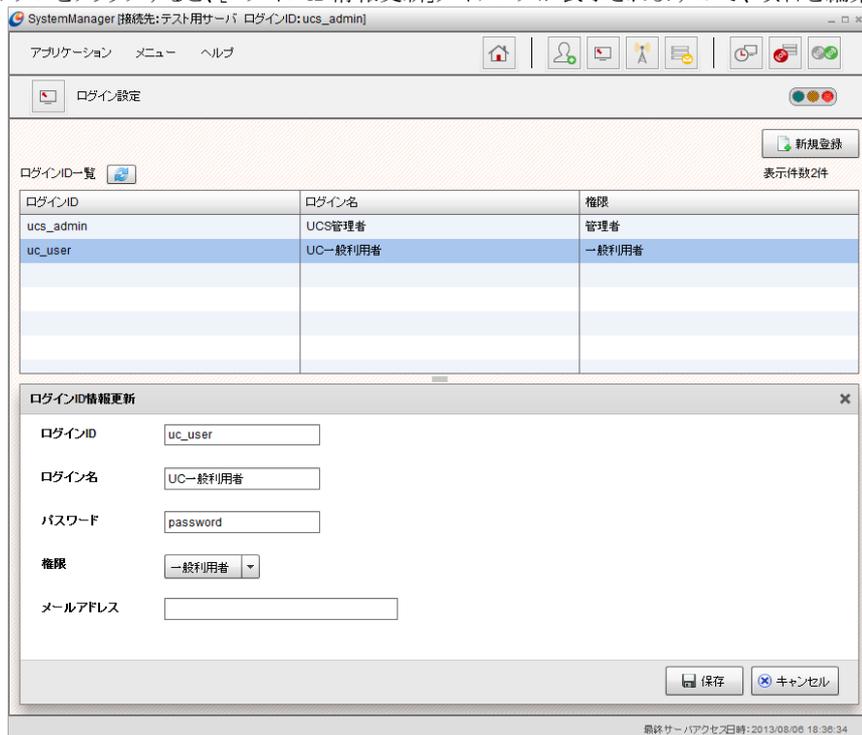


図 3-19 ログイン設定画面(ログインID情報更新)

3. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

3.7.3.登録されているログインIDを削除するには

1. 「ログイン設定」画面で一覧から変更するログインIDを選択すると、[ログインID情報参照]ダイアログが表示されます。

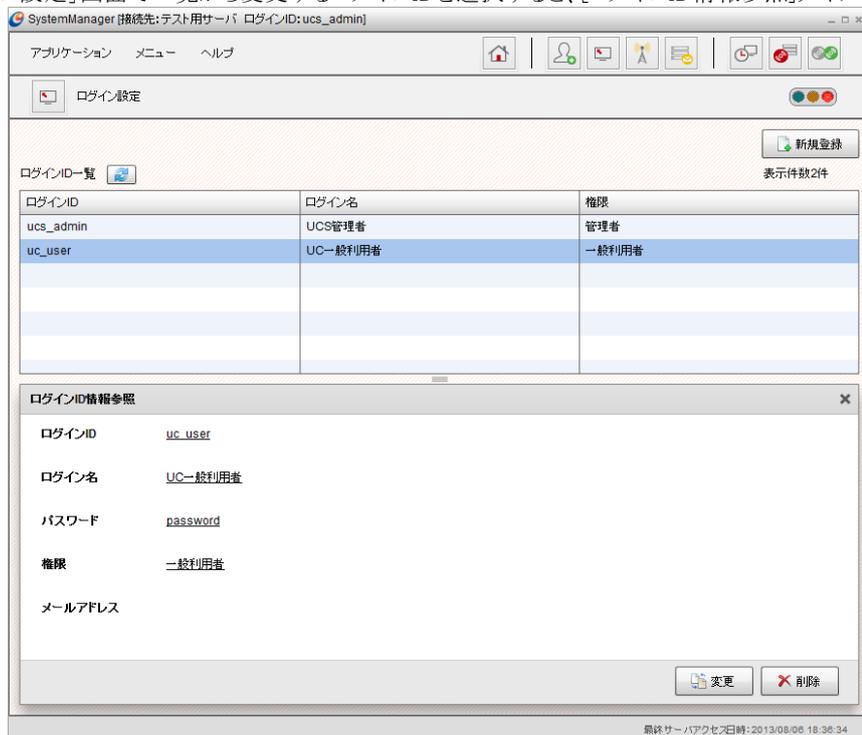


図 3-20 ログイン設定画面(ログインID情報参照)

2. [削除]ボタンをクリックしてログインIDを削除します。

3.8. システムスケジュール設定

SystemManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[システムスケジュール設定]アイコンをクリックすると、「システムスケジュール設定」画面が表示されます。

システムスケジュールでは、以下の保守機能についてスケジュールを登録できます。

- ・ クリーンアップ
- ・ バックアップ
- ・ リポート
- ・ スケジュール適用
- ・ 休日適用

スケジュール適用と休日適用についてはデフォルトでスケジュールが登録されています。ご利用社様ごとの運用形態に合わせて、スケジュールの変更をおこなってください。

3.8.1. クリーンアップ

保管期限を過ぎた実績情報、業務データファイル、ログファイルの削除、及びデータベースの最適化処理を行います。実績情報、及び業務データファイルの保管期限はユーザごとに設定できます。設定の手順は「3.3. ユーザ設定」を確認してください。

クリーンアップのスケジュールは「システムスケジュール設定」画面の[クリーンアップ]タブから設定します。

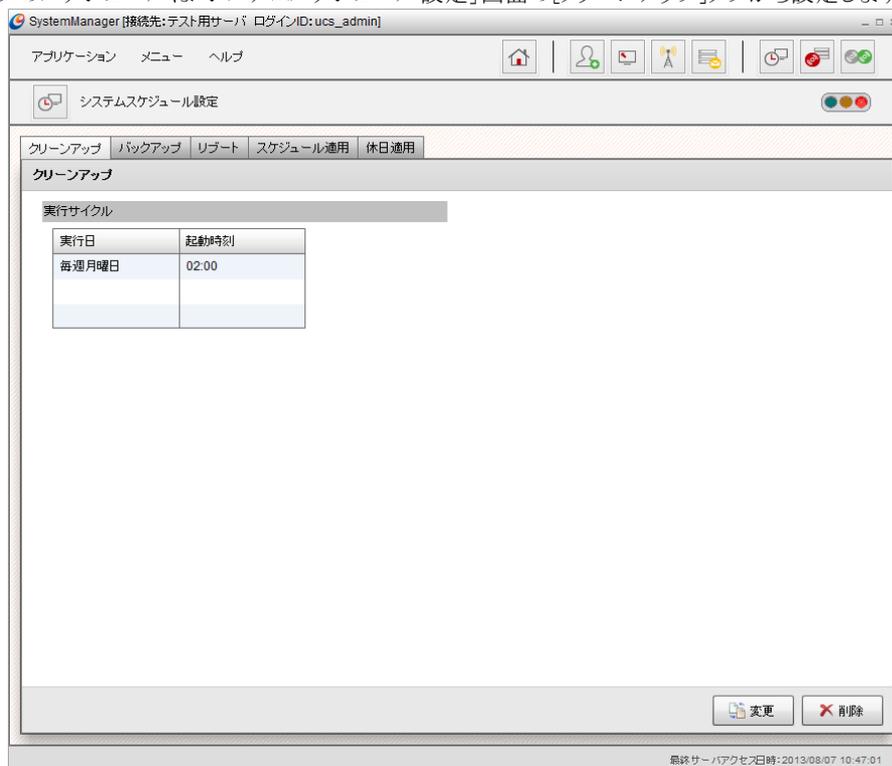


図 3-21 システムスケジュール設定 クリーンアップタブ

3.8.1.1. クリーンアップのスケジュールを登録・変更するには

1. 「システムスケジュール設定」画面で[クリーンアップ]タブを選択します。¹

¹スケジュールが未登録の場合は、[変更]ボタンクリック後の画面が直接表示されます。

2. [変更]ボタンをクリックします。

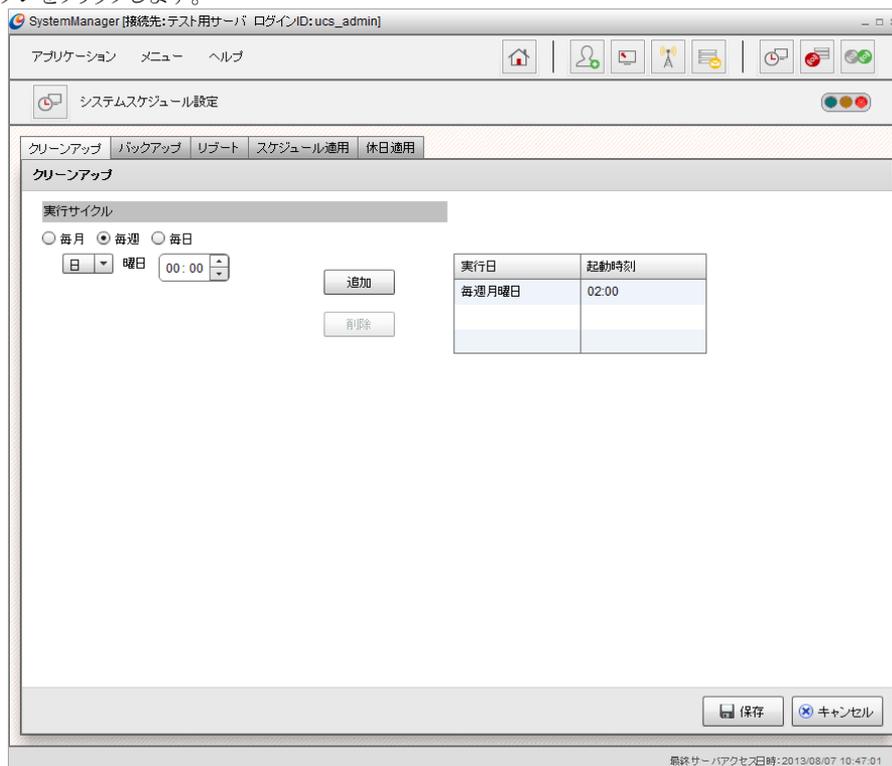


図 3-22 システムスケジュール設定 クリーンアップタブ

3. 実行サイクルを入力します。
スケジュールを追加したい場合は、実行サイクルを設定し、[追加]ボタンをクリックすると、一覧にスケジュールが追加されます。スケジュールを削除したい場合は、一覧に表示されているスケジュールを選択して、[削除]ボタンをクリックすると、一覧からスケジュールが削除されます。

表 3-8 項目入力内容(クリーンアップ)

項目名	内容
実行サイクル	
毎月	毎月、指定された日の時刻にクリーンアップが実行されます。 ¹
毎週	毎月、指定された曜日の時刻にクリーンアップが実行されます。
毎日	毎日、指定された時刻にクリーンアップが実行されます。

※ 実行サイクルが異なるスケジュールを登録することはできません。

※ 同じ実行サイクル内であれば、複数登録できます。

例) × 「毎月 3日 10:00」と「毎週 金曜 10:00」

○ 「毎月 3日 10:00」と「毎月 20日 10:00」

4. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

3.8.1.2.クリーンアップのスケジュールを削除するには

1. 「システムスケジュール設定」画面で[クリーンアップ]タブを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックすると、登録されているクリーンアップのスケジュールが全て削除されます。

¹ 登録されたスケジュールを適用する際にありえない日付になった場合は、その月の最終日として登録されます。
例)「毎月 31日」で登録した場合、2月31日 → 2月28日(うるう年の場合は2月29日)となります。

3.8.2.バックアップ

U/Cサーバに登録されているマスタ情報、実績情報、業務データファイルのバックアップを行います。バックアップはシステム全体で行います。ユーザごとのバックアップはできません。バックアップのスケジュールは「システムスケジュール設定」画面の[バックアップ]タブから設定します。

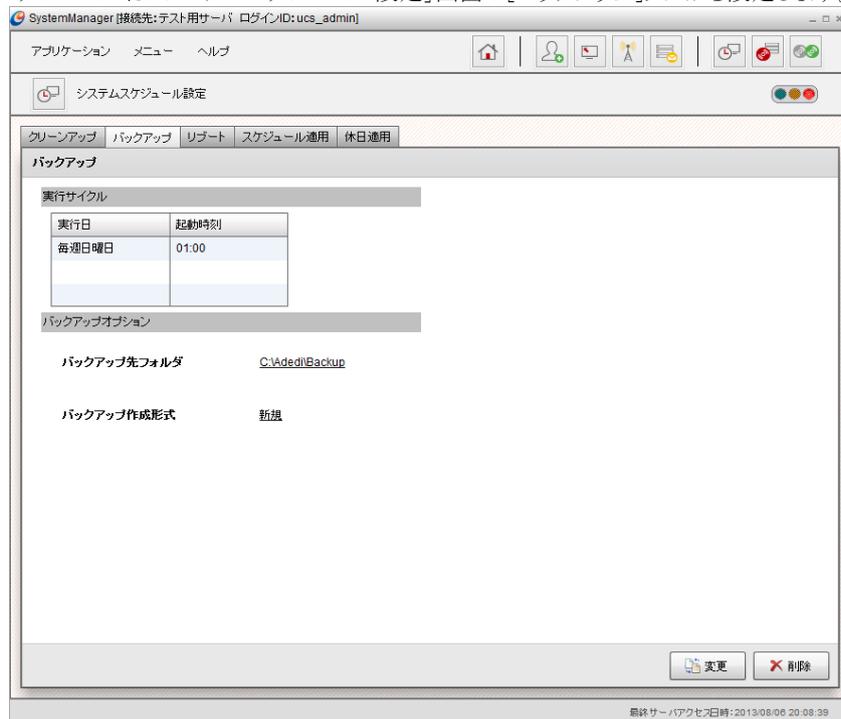


図 3-23 システムスケジュール設定 バックアップタブ

3.8.2.1.バックアップのスケジュールを登録・変更するには

1. 「システムスケジュール設定」画面で[バックアップ]タブを選択します。¹
2. [変更]ボタンをクリックします。

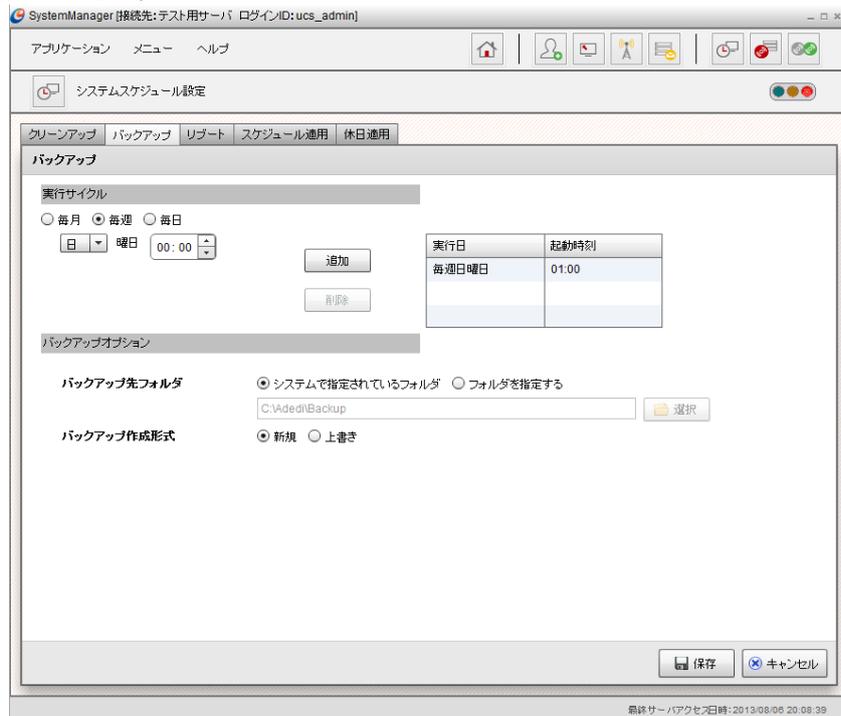


図 3-24 システムスケジュール設定 バックアップタブ

¹スケジュールが未登録の場合は、[変更]ボタンクリック後の画面が直接表示されます。

3. 実行サイクルとバックアップオプションを入力します。
スケジュールを追加したい場合は、実行サイクルを設定し、[追加]ボタンをクリックすると、一覧にスケジュールが追加されます。スケジュールを削除したい場合は、一覧に表示されているスケジュールを選択して、[削除]ボタンをクリックすると、一覧からスケジュールが削除されます。

表 3-9 項目入力内容(バックアップ)

項目名	内容
実行サイクル	
毎月	毎月、指定された日の時刻にバックアップが実行されます。 ¹
毎週	毎月、指定された曜日の時刻にバックアップが実行されます。
毎日	毎日、指定された時刻にバックアップが実行されます。
バックアップ先フォルダ	
システムで指定されているフォルダ	デフォルトで指定されているフォルダにバックアップします。 デフォルトのバックアップ先は「%UCS_HOME%\Backup」です。 ²
フォルダを指定する	指定したバックアップ先フォルダにバックアップします。 フォルダパスを直接入力するか、[選択]ボタンをクリックしてフォルダの参照ダイアログから選択できます。 ※ SystemManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。
バックアップ作成形式	
新規	「バックアップ先フォルダ」に日時単位でバックアップファイル(YYYYMMDDHHMM.zip)が作成されます。
上書き	「バックアップ先フォルダ」に毎回同名のバックアップファイル(AdediBackup.zip)が作成されます。また以前のバックアップ内容は上書きされます。

※ 実行サイクルが異なるスケジュールを登録することはできません。

※ 同じ実行サイクル内であれば、複数登録できます。

例) × 「毎月 3日 10:00」と「毎週 金曜 10:00」

○ 「毎月 3日 10:00」と「毎月 20日 10:00」

4. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

3.8.2.2.バックアップのスケジュールを削除するには

1. 「システムスケジュール設定」画面で[バックアップ]タブを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックすると、登録されているバックアップのスケジュールが全て削除されます。

¹ 登録されたスケジュールを適用する際にありえない日付になった場合は、その月の最終日として登録されます。
例) 「毎月 31日」で登録した場合、2月31日 → 2月28日(うるう年の場合は2月29日)となります。

² 「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

3.8.3.リブート

U/CサーバをOSから再起動します。リブートのスケジュールは「システムスケジュール設定」画面の[リブート]タブから行います。

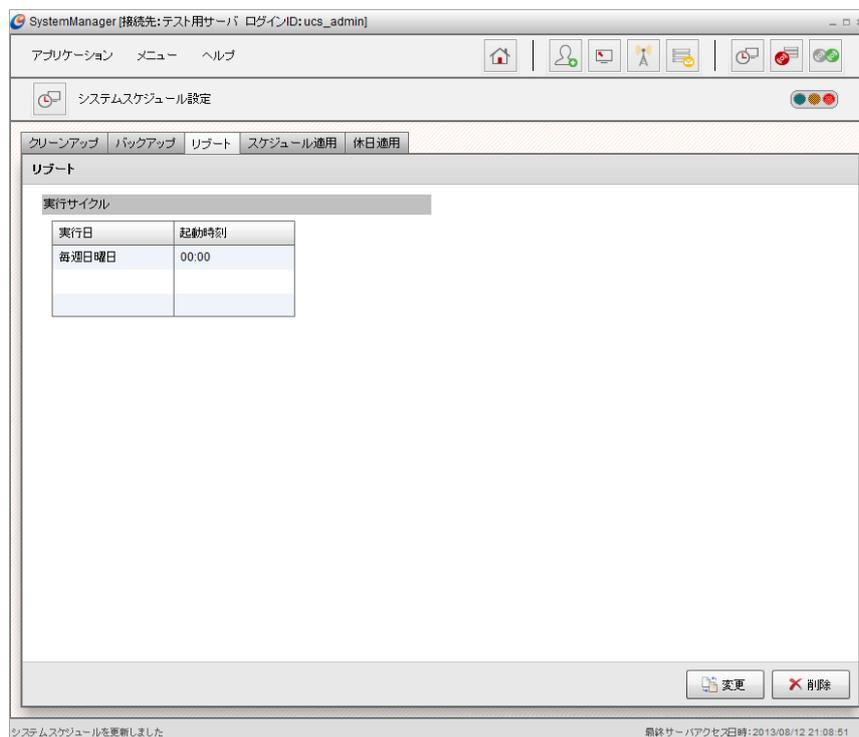


図 3-25 システムスケジュール設定 リポートタブ

3.8.3.1.リブートのスケジュールを登録・変更するには

1. 「システムスケジュール設定」画面で、[リブート]タブを選択します。¹
2. [変更]ボタンをクリックします。

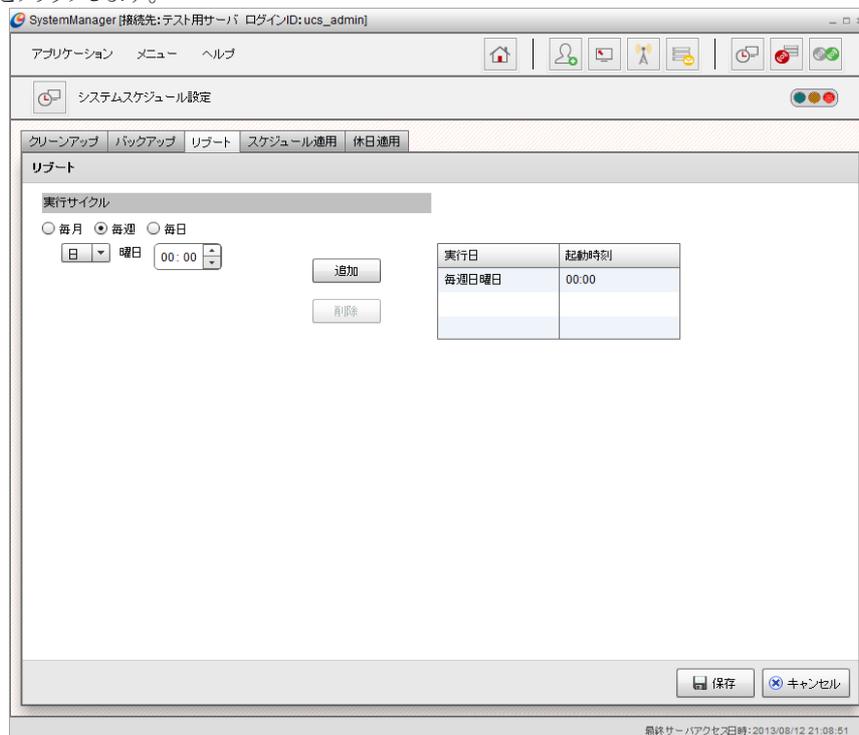


図 3-26 システムスケジュール設定 リポートタブ

¹スケジュールが未登録の場合は、[変更]ボタンクリック後の画面が直接表示されます。

3. 実行サイクルを入力します。
スケジュールを追加したい場合は、実行サイクルを設定し、[追加]ボタンをクリックすると、一覧にスケジュールが追加されます。スケジュールを削除したい場合は、一覧に表示されているスケジュールを選択して、[削除]ボタンをクリックすると、一覧からスケジュールが削除されます。

表 3-10 項目入力内容(レポート)

項目名	内容
実行サイクル	
毎月	毎月、指定された日の時刻にレポートが実行されます。 ¹
毎週	毎月、指定された曜日の時刻にレポートが実行されます。
毎日	毎日、指定された時刻にレポートが実行されます。

※ 実行サイクルが異なるスケジュールを登録することはできません。

※ 同じ実行サイクル内であれば、複数登録できます。

例) × 「毎月 3日 10:00」と「毎週 金曜 10:00」

○ 「毎月 3日 10:00」と「毎月 20日 10:00」

4. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

3.8.3.2.レポートのスケジュールを削除するには

1. 「システムスケジュール設定」画面で、[レポート]タブを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックすると、登録されているレポートのスケジュール全てが削除されます。

¹ 登録されたスケジュールを適用する際にありえない日付になった場合は、その月の最終日として登録されます。
例) 「毎月 31日」で登録した場合、2月31日 → 2月28日(うるう年の場合は2月29日)となります。

3.8.4.スケジュール適用

登録されているスケジュールをもとに1週間分のスケジュールを展開します。初期値として「毎日2:00」のスケジュールが登録されています。スケジュール適用についてはスケジュールの全削除ができません。必ず1件以上登録してください。スケジュール適用のスケジュールは「システムスケジュール設定」画面の[スケジュール適用]タブから設定できます。

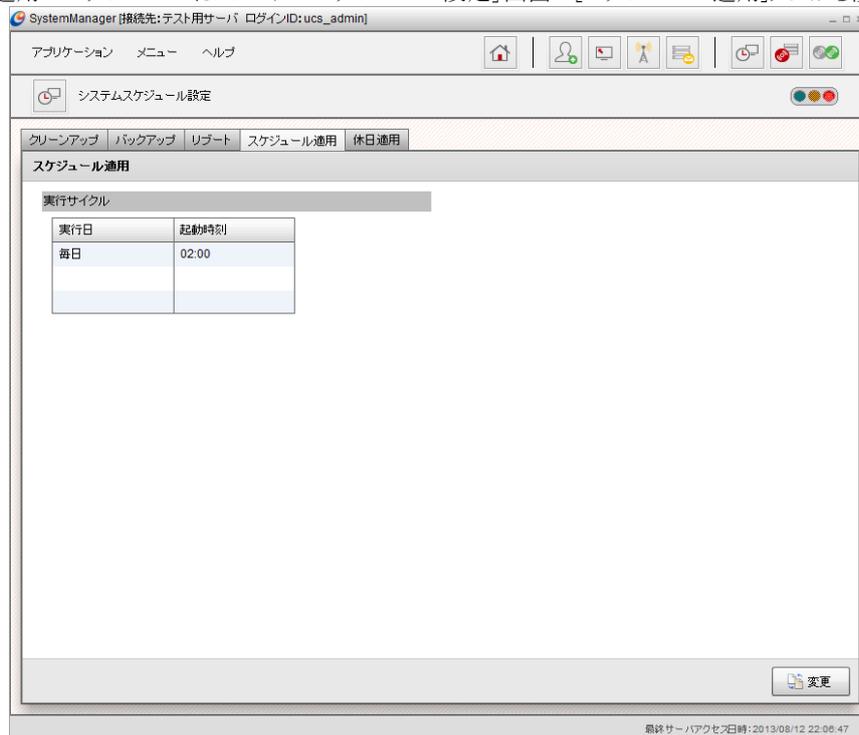


図 3-27 システムスケジュール設定 スケジュール適用タブ

3.8.4.1.スケジュール適用のスケジュールを変更するには

1. 「システムスケジュール設定」画面で、[スケジュール適用]タブを選択します。
2. [変更]ボタンをクリックします。

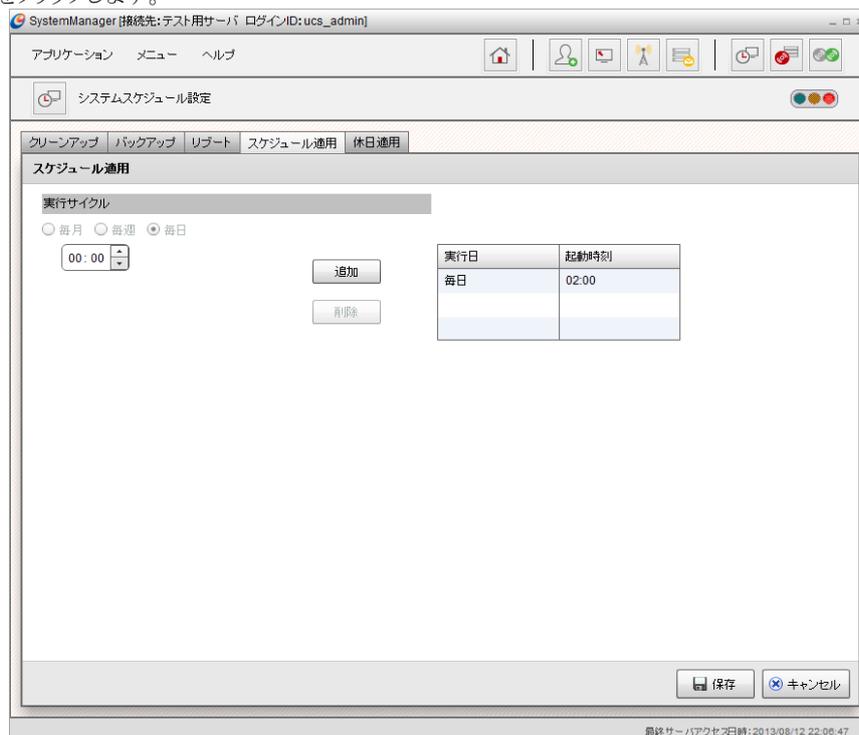


図 3-28 システムスケジュール設定 スケジュール適用タブ

3. 実行サイクルを入力します。スケジュールを追加したい場合は、実行サイクルを設定し、[追加]ボタンをクリックすると、一覧にスケジュールが追加されます。スケジュールを削除したい場合は、一覧に表示されているスケジュールを選択して、[削除]ボタンをクリックすると、一覧からスケジュールが削除されます。

表 3-11 項目入力内容(スケジュール適用)

項目名	内容
実行サイクル	
毎日	毎日、指定された時刻にスケジュール適用が実行されます。

※ スケジュール適用の実行サイクルは「毎日」のみとなります。「毎月」「毎週」の指定はできません。

4. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

3.8.5.休日適用

登録されている休日設定をもとに1年分の休日を展開します。初期値として「毎週金曜日 00:00」のスケジュールが登録されています。

休日適用についてはスケジュールの全削除ができません。必ず1件以上登録してください。

休日適用のスケジュールは「システムスケジュール設定」画面の[休日適用]タブから設定できます。

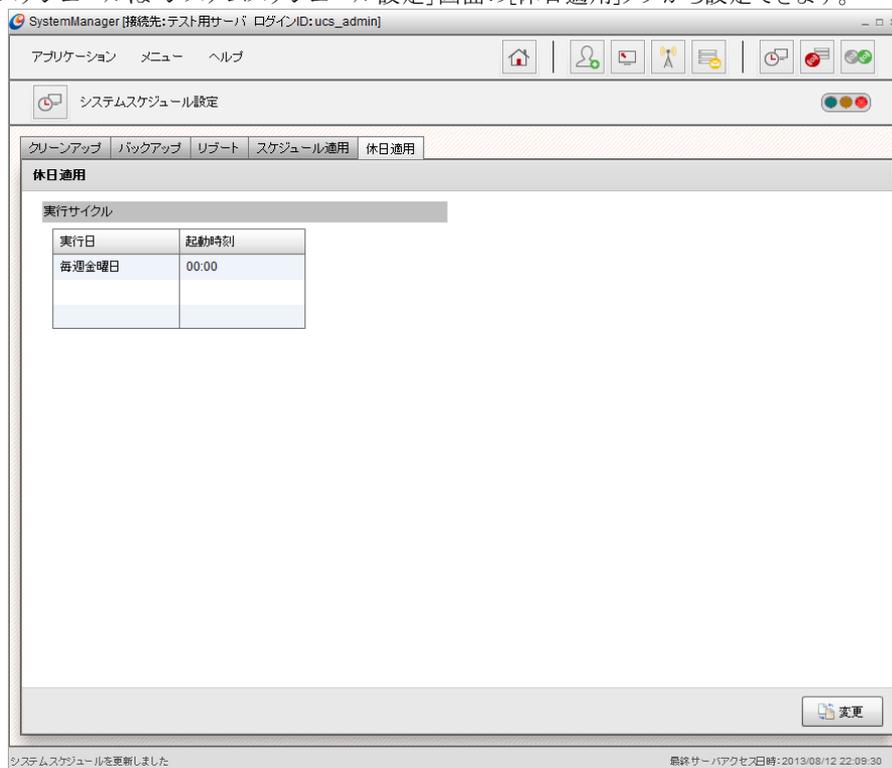


図 3-29 システムスケジュール画面 休日適用タブ

3.8.5.1.休日適用のスケジュールを変更するには

1. 「システムスケジュール設定」画面で、[休日適用]タブを選択します。
2. [変更]ボタンをクリックします。

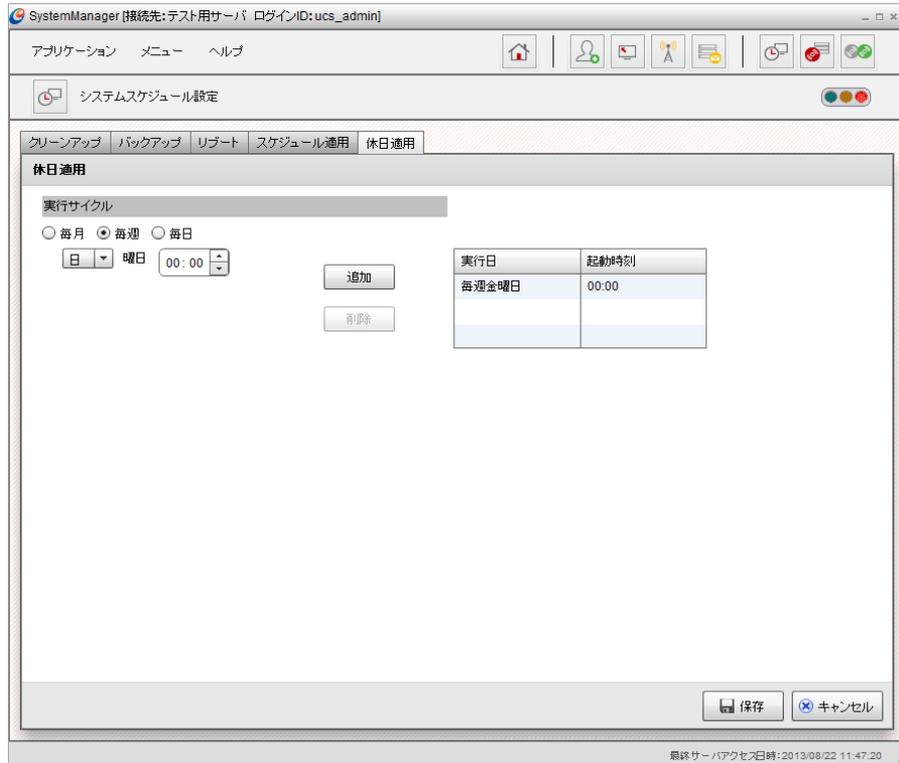


図 3-30 システムスケジュール設定 休日適用タブ

3. 実行サイクルを入力します。スケジュールを追加したい場合は、実行サイクルを設定し、[追加]ボタンをクリックすると、一覧にスケジュールが追加されます。スケジュールを削除したい場合は、一覧に表示されているスケジュールを選択して、[削除]ボタンをクリックすると、一覧からスケジュールが削除されます。

表 3-12 項目入力内容(休日適用)

項目名	内容
実行サイクル	
毎月	毎月、指定された日の時刻に休日適用が実行されます。 ¹
毎週	毎月、指定された曜日の時刻に休日適用が実行されます。
毎日	毎日、指定された時刻に休日適用が実行されます。

※ 実行サイクルが異なるスケジュールを登録することはできません。

※ 同じ実行サイクル内であれば、複数登録できます。

例) × 「毎月 3日 10:00」と「毎週 金曜 10:00」

○ 「毎月 3日 10:00」と「毎月 20日 10:00」

4. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

¹ 登録されたスケジュールを適用する際にありえない日付になった場合は、その月の最終日として登録されます。
例) 「毎月 31日」で登録した場合、2月31日 → 2月28日(うるう年の場合は2月29日)となります。

4.TaskManager

4.1.TaskManagerの主な機能

TaskManagerの主な機能は以下の通りです。

表 4-1 TaskManagerの主な機能

アイコン	画面名	説明
	トランザクション	送受信スケジュールやシステムスケジュール、また各処理の手動実行の処理結果を見ることができます。
	送受信データ	送受信を行った結果を見ることができます。さらに、U/Cサーバに取込済みのデータの再処理を行うことができます。
	スケジュール状況	スケジュールの処理結果を見ることができます。
	問い合わせ選択受信	広告取引EDIシステムのメールボックスに到着している自社宛のデータを選択して受信することができます。相手側からの要求等で緊急に特定のデータを確認する場合や、受信する場合に使用します。事前に広告取引EDIシステムへの問合せ操作が必要です。
	特定ファイル送信	業務システムから取引データを集信しないで、特定のファイルを送信することができます。
	スケジュール設定	スケジューラにより起動される送受信処理等のスケジュールを設定します。
	休日設定	スケジューラの非稼働日となる休日を設定します。
	パートナー設定	自社、取引先のパートナー情報を設定します。
	情報区分設定	情報区分ごとに使用可否を設定します。

4.2. TaskManagerへのログイン

登録したユーザでTaskManagerへ初めてログインする場合、ログインする前に接続先設定を登録する必要があります。初めてログインする場合には、接続先設定を登録してからログインしてください。

接続先設定の登録は「4.3.1.接続先設定を登録するには」を確認してください。

1. Windowsのスタート画面またはデスクトップで[TaskManager]アイコンをクリックし、TaskManagerを起動します。



図 4-1 TaskManagerアイコン

2. 「ログイン」画面が表示されたら、以下の項目を入力します。

図 4-2 TaskManager ログイン画面

表 4-2 項目入力内容(ログイン画面)

項目名	内容
接続先	接続先を選択します。
ログインID	接続先のログインIDを入力します。 ログインIDにはSystemManagerで登録したログインIDを設定します。 ログインIDの登録は「3.7.ログインID設定」を確認してください。
パスワード	接続先のパスワードを入力します。 指定したログインIDに応じたパスワードを設定します。
パスワードを保存する	パスワードを保存するときチェックします。 チェックすると次回のログイン時にログインID、パスワードが表示されます。

3. [ログイン]ボタンをクリックしてログインすると、「メインメニュー」画面が表示されます。TaskManagerの各アイコン、画面の説明は「表 4-1 TaskManagerの主な機能」を確認してください。

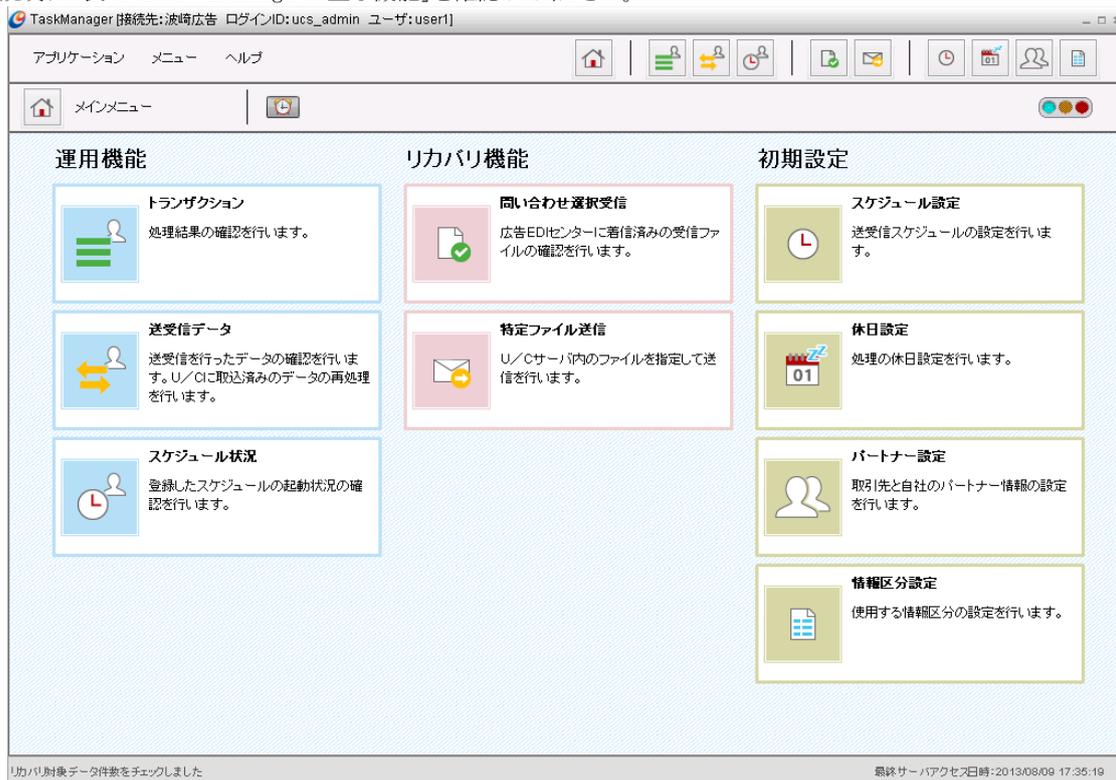


図 4-3 TaskManager メインメニュー画面

4.3.TaskManagerの接続先の設定

TaskManagerの「ログイン」画面で[接続先設定]ボタンをクリックすると、[接続先設定]ダイアログが表示されます。

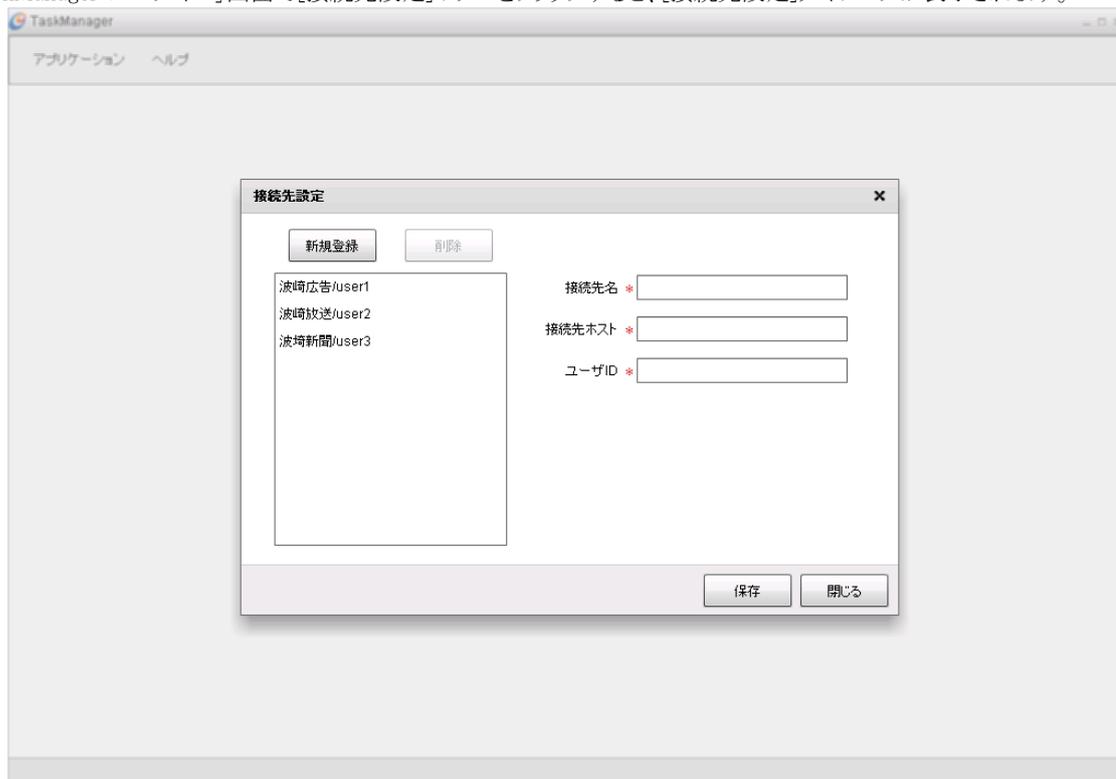


図 4-4 接続先設定ダイアログ

4.3.1.接続先設定を登録するには

1. [新規登録]ボタンをクリックします。「接続先名」、「接続先ホスト」、「ユーザID」項目がクリアされます。
2. 各項目を設定し、[保存]ボタンをクリックしてください。

表 4-3 項目入力内容(接続先設定)

項目名	内容
接続先名	接続先名を入力します。
接続先ホスト	接続先ホストを入力します。 ポート番号をアドレスの後ろに:(半角コロン)で区切って記述してください。 例) 同端末のU/Cサーバに接続する場合は「localhost:8080」のように設定します。
ユーザID	接続先のユーザIDを入力します。 ユーザIDはシステムマネージャで登録したユーザIDを指定します。 ユーザの登録については「3.3.ユーザ設定」を確認してください

4.3.2.登録されている接続先を変更するには

1. 一覧に表示されている接続先をクリックし、「接続先名」、「接続先ホスト」、「ユーザID」を表示します。
2. 変更する項目を入力した後、[保存]ボタンをクリックしてください。

4.3.3.登録されている接続先を削除するには

1. 一覧に表示されている接続先をクリックし、「接続先名」、「接続先ホスト」、「ユーザID」を表示します。
2. [削除]ボタンをクリックしてください。

4.4. 情報区分の設定

TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[情報区分設定]アイコンをクリックすると「情報区分設定」画面が表示されます。情報区分ごとに使用可否を設定します。

- ・ [情報区分]タブには全ての情報区分が一覧表示されます。
- ・ [BPID]タブには全ての業務区分が一覧表示されます。
- ・ 業務区分選択のツリーが表示されます。情報区分一覧の内容を業務区分ごとに変更できます。

TaskManager (接続先:波崎広告 ログインID:ucs_admin ユーザ:user1)

アプリケーション メニュー ヘルプ

情報区分設定

情報区分 BPID

情報区分一覧 表示件数40件

使用	BPID名	情報区分名	情報区分コード	レコード長
✓	新聞広告11	申込・新規	0101	3433
✓	新聞広告11	申込・変更	0102	3433
✓	新聞広告11	申込・中止	0103	3433
✓	新聞広告11	申込・受付	0104	3894
✓	新聞広告11	割付	0201	2710
✓	新聞広告11	請求・予定	0401	11165
✓	新聞広告11	請求・請求	0402	11165
✓	新聞広告11	請求・修正	0403	11165
✓	新聞広告11	請求・合計	0404	1691
✓	新聞広告12	申込・新規	0101	3433
✓	新聞広告12	申込・変更	0102	3433
✓	新聞広告12	申込・中止	0103	3433
✓	新聞広告12	申込・受付	0104	3894
✓	新聞広告12	割付	0201	2710
✓	新聞広告12	送稿・予定情報	0301	58171
✓	新聞広告12	送稿・申込照合情報	0302	32671
✓	新聞広告12	送稿・送稿情報	0303	58171

最終サーバーアクセス日時:2013/08/09 17:37:24

図 4-5 情報区分設定画面 情報区分タブ

TaskManager (接続先:波崎広告 ログインID:ucs_admin ユーザ:user1)

アプリケーション メニュー ヘルプ

情報区分設定

情報区分 BPID

BPID一覧 表示件数4件

BPID名	BPIDコード
新聞広告11	NEWS0011
新聞広告12	NEWS0012
テレビアナログ	WAVE0010
テレビデジタル	WAVE0020

最終サーバーアクセス日時:2013/08/09 17:37:24

図 4-6 情報区分設定画面 BPIDタブ

4.4.1.使用する情報区分を設定するには

1. 情報区分一覧を表示して[変更]ボタンをクリックします。

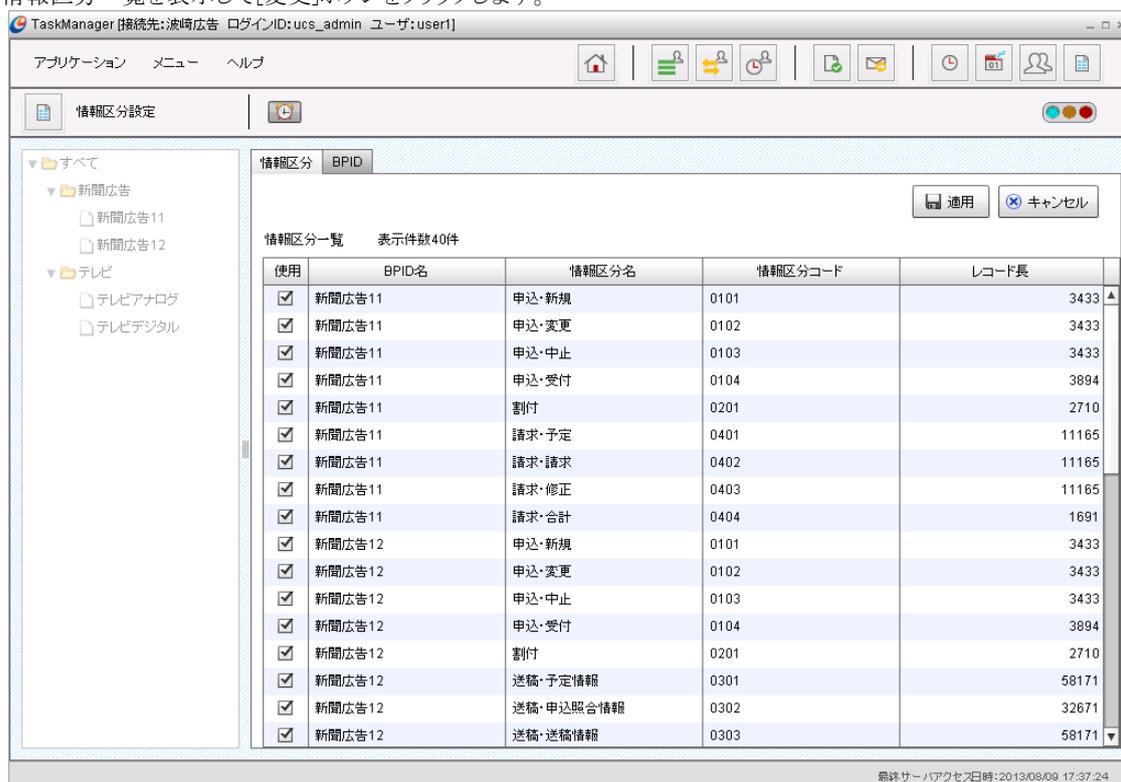


図 4-7 情報区分設定画面 情報区分タブ

2. 情報区分の使用可否を選択します。
デフォルトは全て「使用」にチェックが入っています。

表 4-4 項目入力内容(情報区分)

項目名	内容
使用	使用する情報区分をチェックします。

3. 選択した内容で変更する場合は、[適用]ボタンをクリックします。
入力した内容を破棄して変更を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4.5. パートナーの設定

TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの [パートナー設定] アイコンをクリックすると「パートナー設定」画面が表示されます。自社、取引先のパートナー情報を設定します。

- ・ 「パートナー情報一覧」にすべてのパートナー情報が一覧表示されます。
- ・ 検索条件を指定できます。

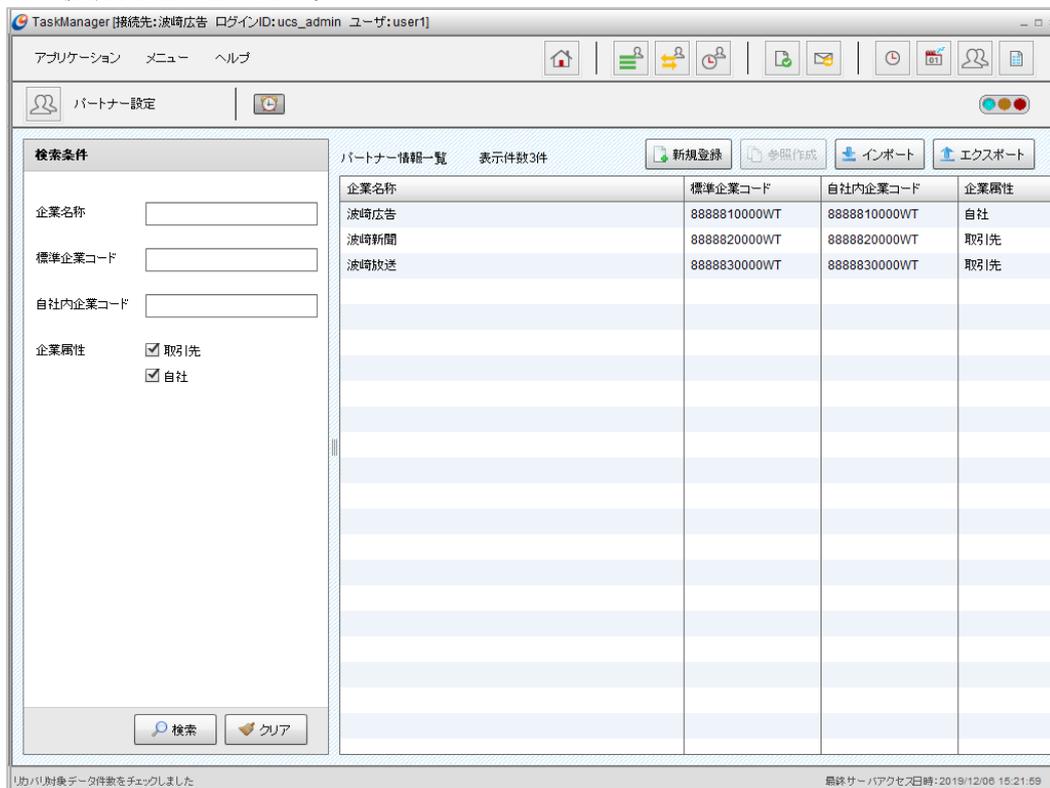


図 4-8 パートナー設定画面

4.5.1. パートナー情報を検索するには

検索する項目に条件を入力した後、[検索] ボタンをクリックしてください。
[クリア] ボタンで入力した検索条件を元に戻します。

4.5.2. パートナー情報を登録するには

1. パートナー情報の登録は一から新規登録する方法と、既存パートナー情報を参照して登録する方法があります。どちらも [パートナー情報登録] ダイアログを表示して登録します。
 - ・ 一から新規登録する場合は [新規登録] ボタンをクリックしてください。
 - ・ 既存パートナー情報を参照して登録する場合は、一覧のパートナー情報を選択後 [参照作成] ボタンをクリックしてください。

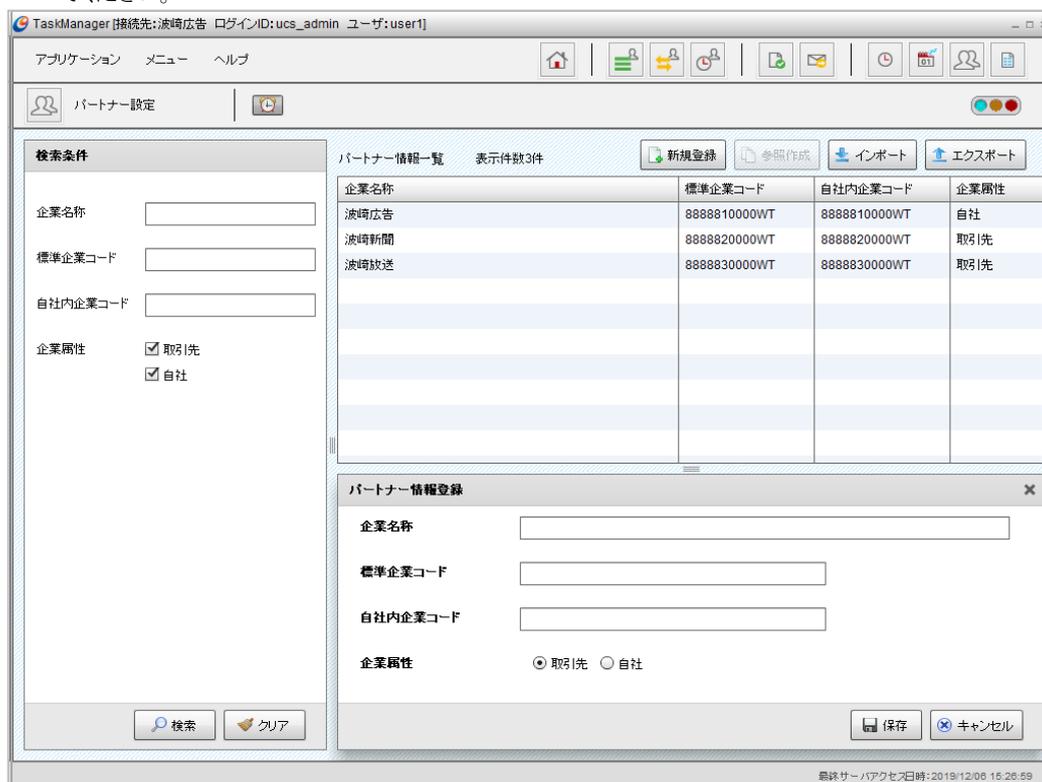


図 4-9 パートナー設定画面(パートナー情報登録)

2. 項目を入力します。

表 4-5 項目入力内容(パートナー設定)

項目名	内容
企業名称	企業名を入力します。
標準企業コード	CII標準メッセージで使用する企業コードを入力します。
自社内企業コード	業務システム内で使用する企業コードを入力します。
企業属性	「取引先」または「自社」を指定します。

3. 入力した内容で登録する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して登録を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4.5.3.登録されているパートナー情報の変更をするには

1. 一覧に表示されているパートナー情報をクリックし、[パートナー情報参照]ダイアログを表示します。

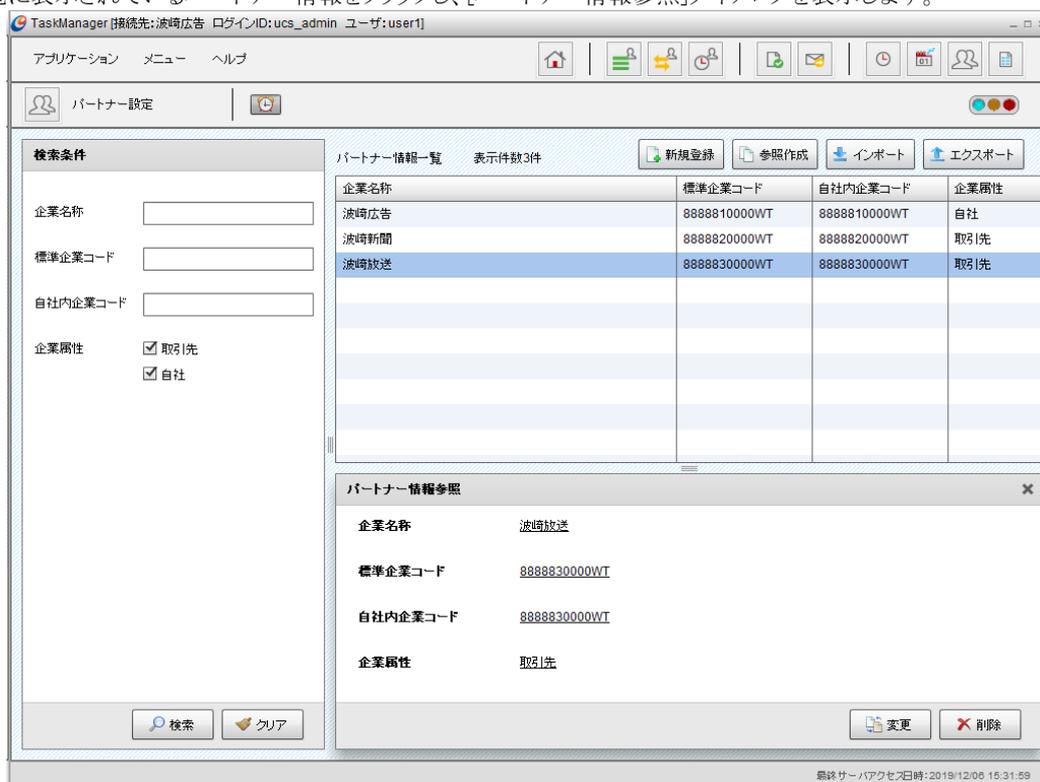


図 4-10 パートナー設定画面(パートナー情報参照)

2. [変更]ボタンをクリックし、[パートナー情報更新]ダイアログを表示します。

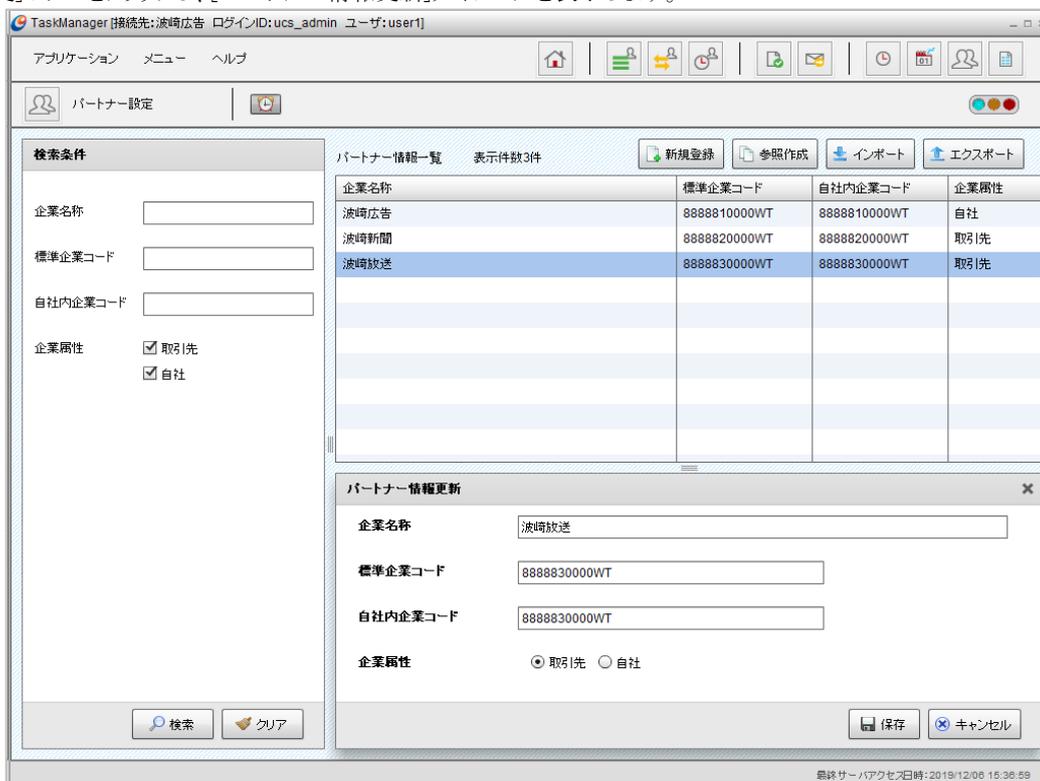


図 4-11 パートナー設定画面(パートナー情報更新)

3. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4.5.4.登録されているパートナー情報の削除をするには

1. 一覧に表示されているパートナー情報をクリックし、[パートナー情報参照]ダイアログを表示します。

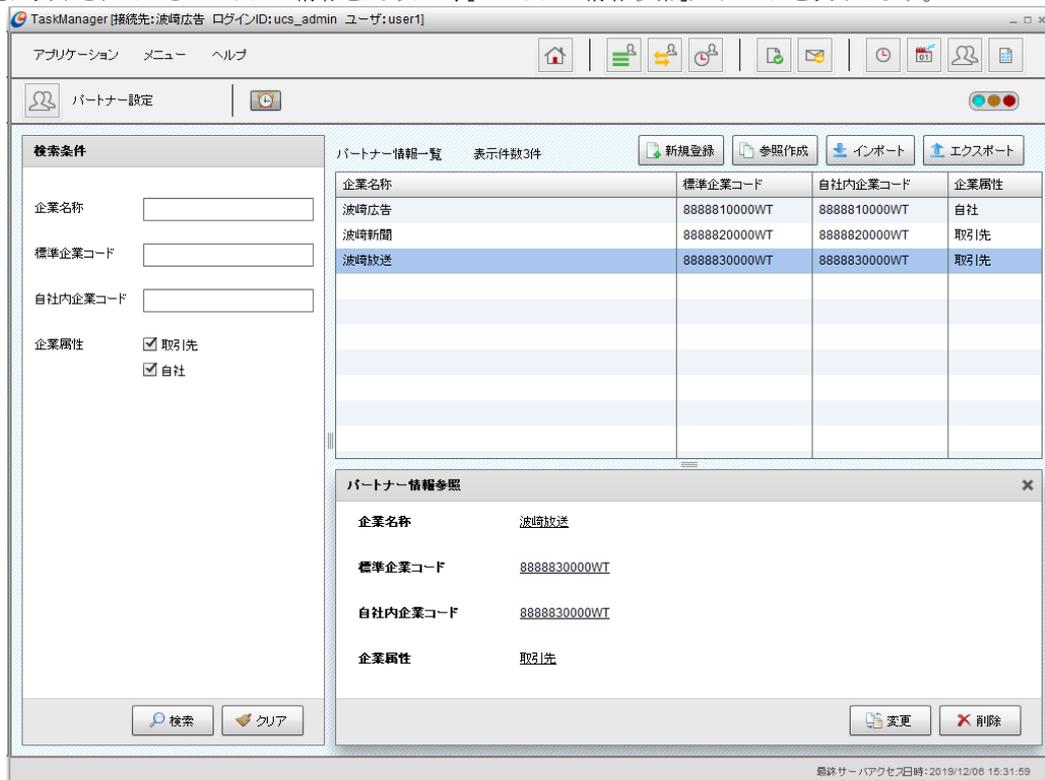


図 4-12 パートナー設定画面 (パートナー情報参照)

2. [削除]ボタンをクリックしてください。

4.5.5. パートナー情報のインポート・エクスポート

U/Cサーバに登録されているパートナー情報のCSVファイルへの出力や、CSVファイルに記述されたパートナー情報をU/Cサーバに取り込むことができます。

インポートファイル・エクスポートファイルともに同じファイルフォーマットとなります。ファイルフォーマットは「表 4-6 ファイルフォーマット(パートナー情報インポート・エクスポート)」を確認してください。

例として、以下の様な使い方をすることが可能です。

- U/Cサーバを複数環境で運用しており、全環境において同一の内容でパートナー情報をメンテナンスしたい場合
 - ① 1環境よりパートナー情報をエクスポートする。
 - ② エクスポートされたファイルを開き、メンテナンス内容にあわせてファイルの内容を編集する。
 - ③ ②のファイルを用いて全環境でインポート機能を使用して、パートナー情報をインポートする。

表 4-6 ファイルフォーマット(パートナー情報インポート・エクスポート)

No	項目名称	属性	長さ	説明
1	企業名称	文字	最大64	最大64桁(128バイト)の値となります。
2	標準企業コード	英数字	12	12桁固定の値となります。
3	自社内標準企業コード	英数字	12	※ 桁数が合致しないコードが記述されている場合には、インポート実行時にエラーとなります。 U/Cサーバからエクスポートしたファイルの場合、値の先頭にシングルクォーテーションが付与されています。シングルクォーテーションが付与されていない場合でも、インポートファイルとして使用可能です。
4	企業属性	数字	1	「0」:取引先 「1」:自社



図 4-13 パートナー情報CSVファイル例

4.5.5.1. パートナー情報をインポートするには

1. [インポート]ボタンをクリックし、[パートナー情報インポート]ダイアログを表示します。

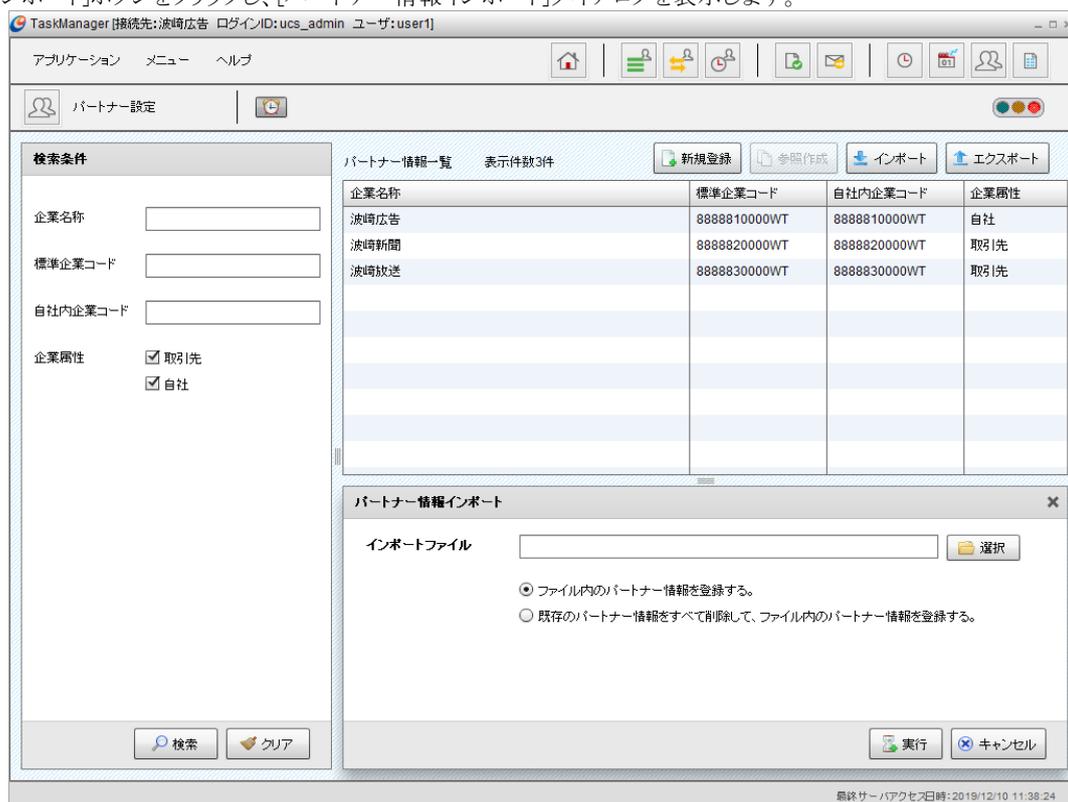


図 4-14 パートナー設定画面(パートナー情報インポート)

2. 項目を入力します。

表 4-7 項目入力内容(パートナー情報インポート)

項目名	内容
インポートファイル	インポートするCSVファイルを指定します。 [選択]ボタンをクリックすると、[ファイル選択]ダイアログが表示されます。 ※ TaskManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。
インポートオプション	
ファイル内のパートナー情報を登録する。	未登録の標準企業コードがインポートファイルに記述されている場合、記述された内容でパートナー情報を新規登録します。 登録済みの標準企業コードがインポートファイルに記述されている場合、記述された内容でパートナー情報を更新します。
既存のパートナー情報をすべて削除して、ファイル内のパートナー情報を登録する。	現在登録されているパートナー情報をすべて削除し、インポートファイルに記述された内容でパートナー情報を新規に登録し直します。 ※ バックアップを残したい場合には、インポートの実行前にエクスポートを実行してください。

3. 処理を実行する場合は[実行]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

※ パートナー情報が1件も登録されていないU/Cサーバにおいて処理を実行する場合、インポートオプションはどちらを選択頂いても構いません。どちらのオプションを選択しても、登録されるパートナー情報の内容に差異は発生致しません。

4.5.5.2. パートナー情報をエクスポートするには

1. [エクスポート]ボタンをクリックし、[パートナー情報エクスポート]ダイアログを表示します。

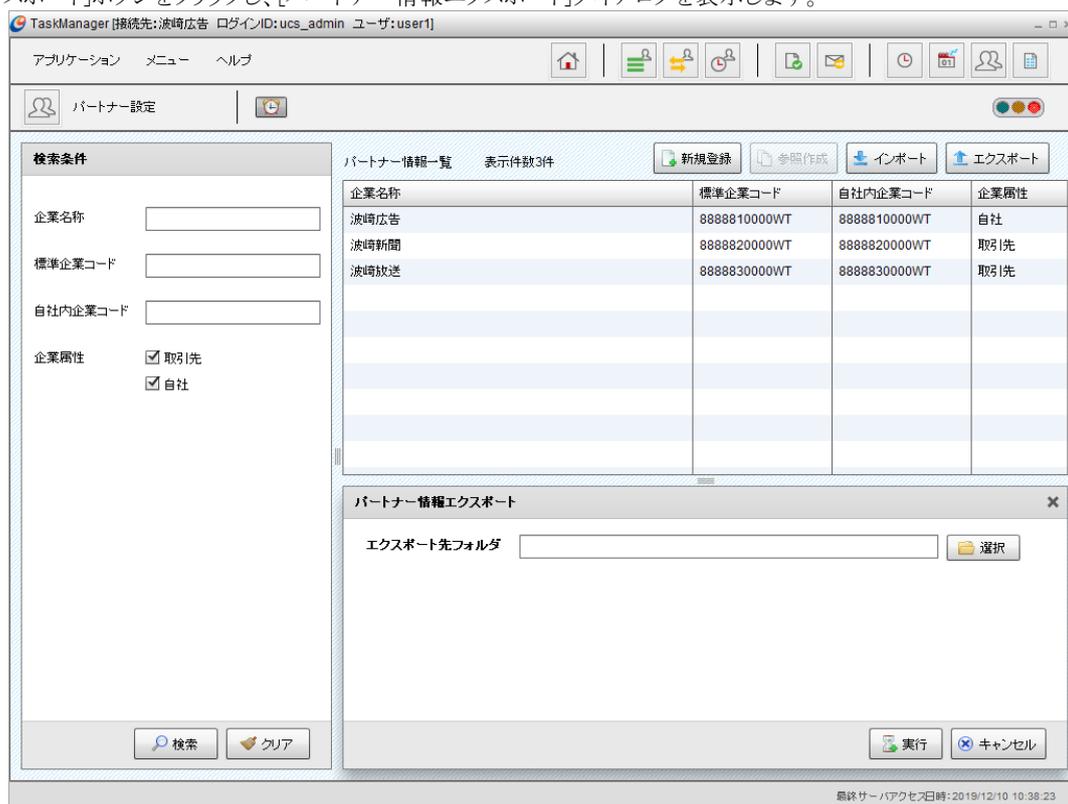


図 4-15 パートナー設定画面(パートナー情報エクスポート)

2. 項目を入力します。

表 4-8 項目入力内容(パートナー情報エクスポート)

項目名	内容
エクスポート先フォルダ	<p>指定したエクスポート先フォルダにCSVファイルを作成します。 [選択]ボタンをクリックすると、[フォルダ選択]ダイアログが表示されます。 エクスポートファイルは「PartnerInfo_ユーザID_YYYYMMDDHHMM(実行時刻).csv」で作成されます。</p> <p>※ TaskManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。</p>

3. 処理を実行する場合は[実行]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

4.6.休日設定

TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[休日設定]アイコンをクリックすると「休日設定」画面が表示されます。送受信処理などの各ユーザにて登録されているユーザスケジュールの非稼働日を設定します。

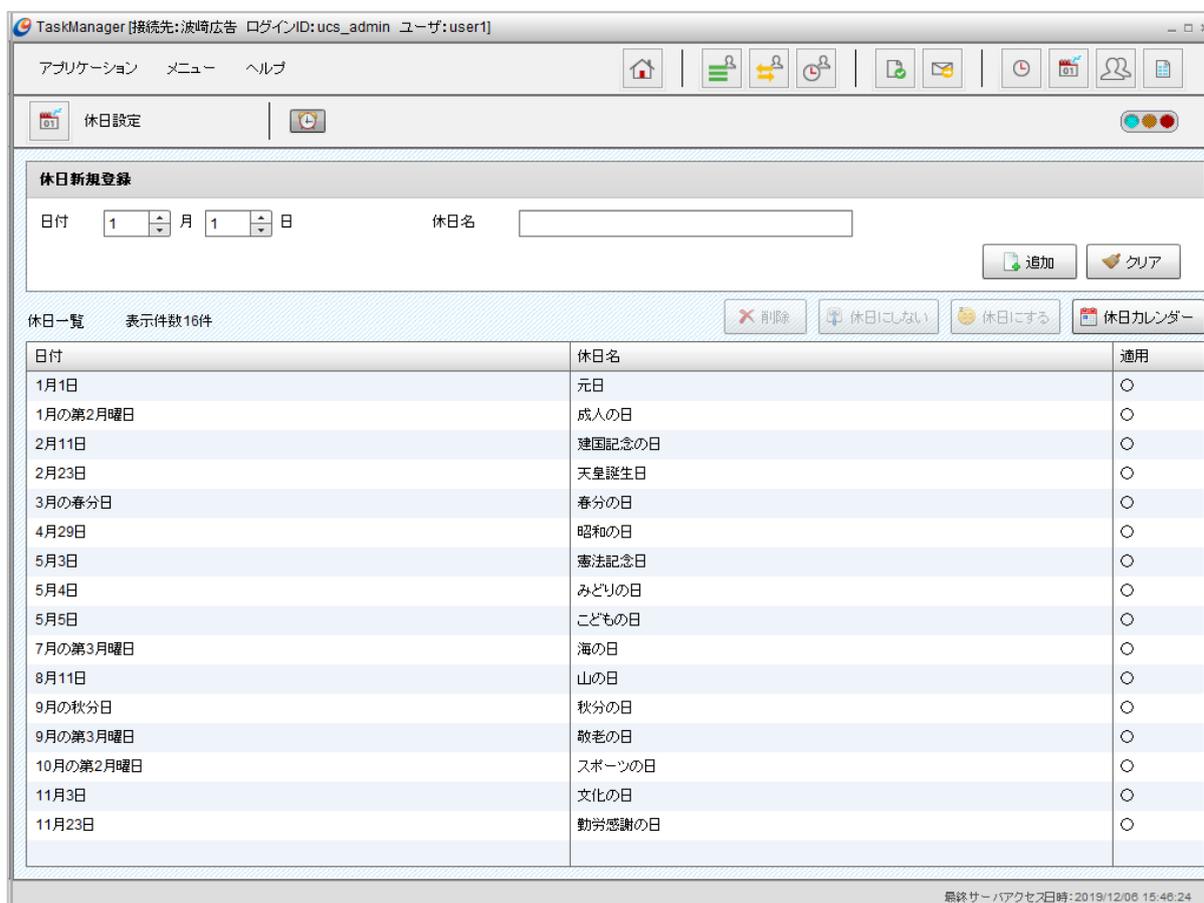


図 4-16 休日設定画面

4.6.1.初期登録される休日

国民の祝日は、初期マスタとしてシステム内に登録されております。システムスケジュールの「休日適用」の実行によって毎年スケジュールへ展開されるため、個別に登録いただく必要はございません。

また、春分の日や秋分の日など特定の日付がない祝日、及び振替休日¹や国民の休日²は、毎年システム内で該当日を計算し登録しております。なお、個別に登録された休日は、システム内で振替休日の計算や登録を実施致しませんので、ご注意ください。

- 国民の祝日一覧

元旦、成人の日、建国記念の日、天皇誕生日、春分の日、昭和の日、憲法記念日、みどりの日、こどもの日、海の日、山の日、秋分の日、敬老の日、スポーツの日、文化の日、勤労感謝の日

¹ 「振替休日」とは、国民の祝日が日曜日と重なる場合に発生する代休を意味します。

² 「国民の休日」とは、国民の祝日で前後を挟まれた日が国民の祝日ではない場合に適用される休日を意味します。

4.6.2.休日の設定方法

休日の設定は以下の2つの方法があります。目的にあった手順を確認し、休日を登録してください

- 毎年休日となる日付(以下、定例休日)を指定して休日を登録する場合
→ 「4.6.3.定例休日を登録するには」を確認してください。
- 特定の年月日、または曜日を指定して休日を登録する場合
→ 「4.6.7.休日カレンダーから営業日、非営業日を切り替えるには」を確認してください。

4.6.3.定例休日を登録するには

1. 「休日設定」画面で以下の項目を入力します。

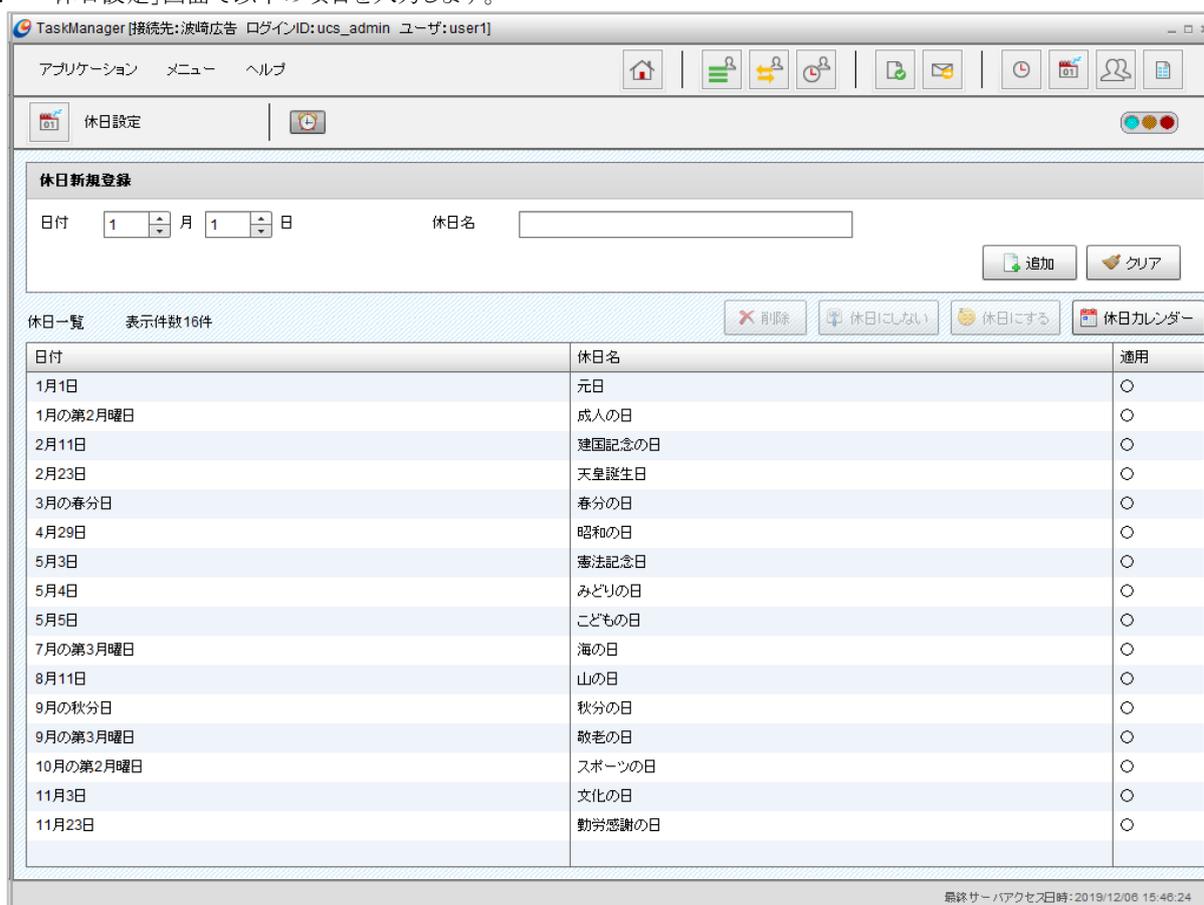


図 4-17 休日設定画面

表 4-9 項目入力内容(休日設定)

項目名	内容
休日新規登録	
日付	日付を入力します。 ¹
休日名	休日名を入力します。

2. 入力した内容を登録する場合は、[追加]ボタンをクリックします。入力した内容をクリアする場合は、[クリア]ボタンをクリックします。

¹ 登録した日付をもとに休日を適用した結果ありえない日付となった場合は、無効な日として適用対象から除外します。
例)「2月29日」を登録した場合、「2014年2月29日」→適用対象外、「2016年2月29日」→適用対象

4.6.4.定例休日を削除するには

休日一覧で追加登録した休日をクリック後、[削除]ボタンをクリックしてください。

4.6.5.定例休日の営業日、非営業日を切り替えるには

休日一覧の「適用」が「○」(非営業日)の休日を選択すると[休日にしない]ボタンがクリックできるようになり、「空白」(営業日)の休日を選択すると[休日にする]ボタンがクリックできるようになります。

[休日にしない]ボタンをクリックすると営業日に切り替えることができ、[休日にする]ボタンをクリックすると非営業日に切り替えることができます。

4.6.6.休日カレンダーを参照するには

[休日カレンダー]ボタンをクリックすると[休日カレンダー]ダイアログが表示されます。

- ・ [年][月]ボタンでカレンダーを切り替えることができます。

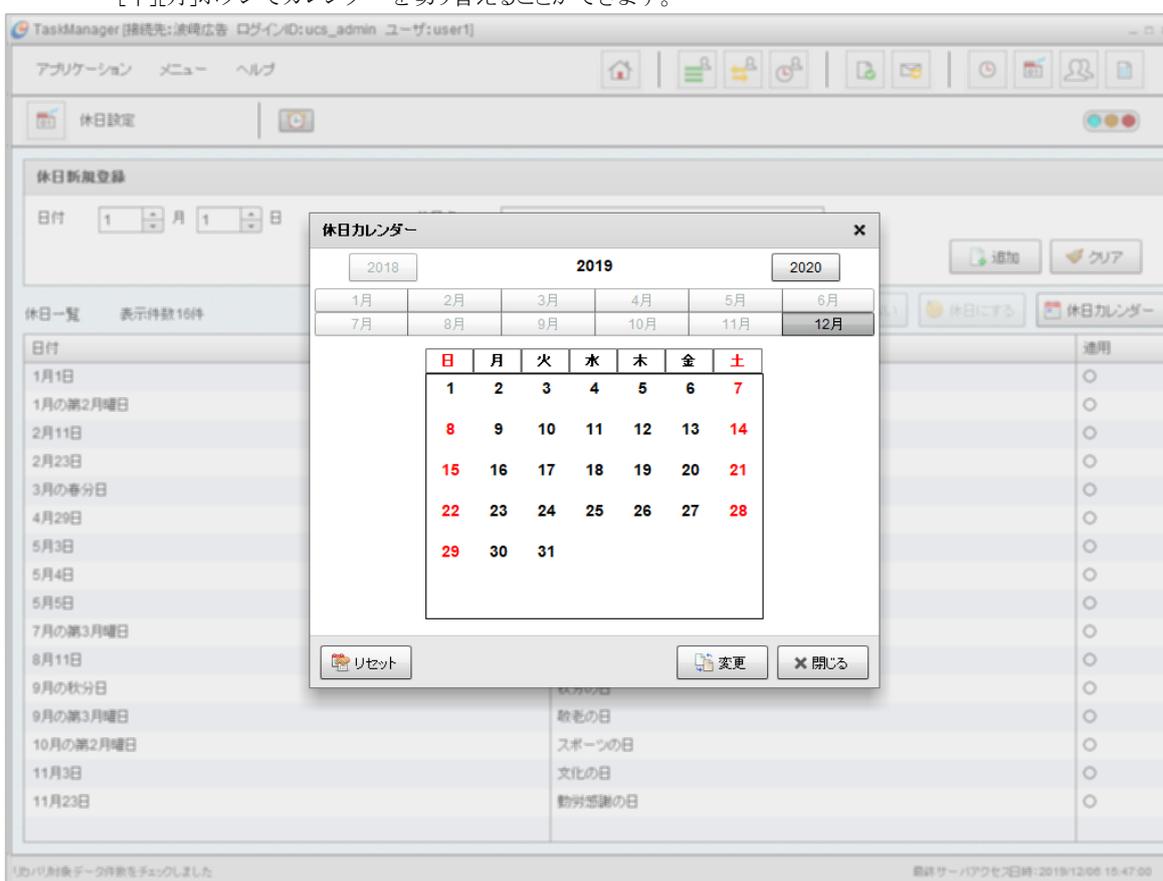


図 4-18 休日カレンダーダイアログ

4.6.7.休日カレンダーから営業日、非営業日を切り替えるには

1. [休日カレンダー]ダイアログの[変更]ボタンをクリックしてください。変更画面が表示されます。

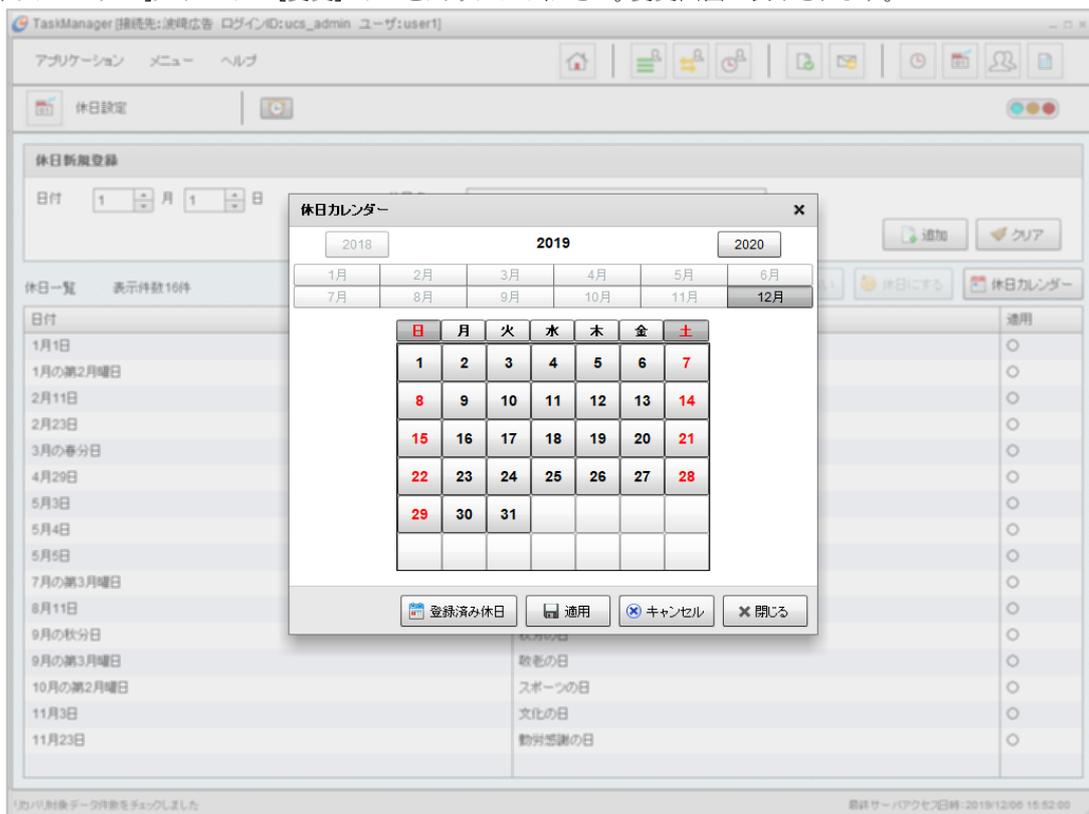


図 4-19 休日カレンダー変更ダイアログ

2. 曜日全体の営業日、非営業日を切り替える場合は[日][月][火][水][木][金][土]ボタンをクリックします。黒色が営業日、赤色が非営業日です。[土][日]はデフォルトで非営業日となっています。

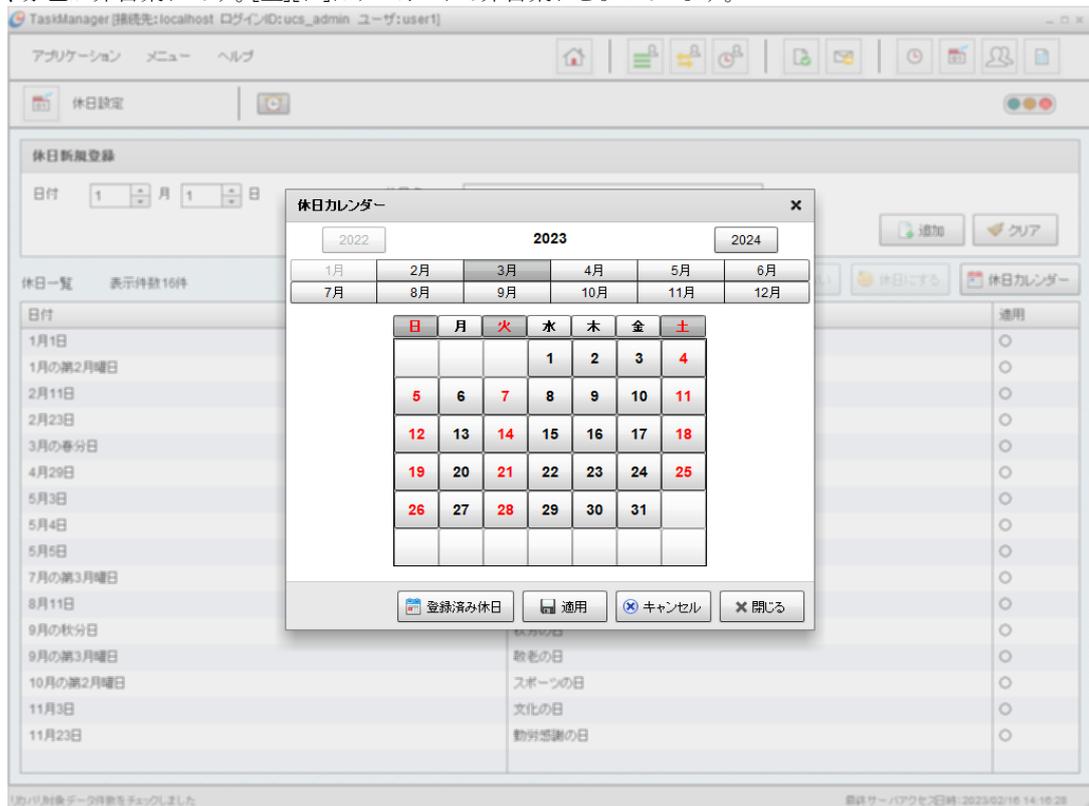


図 4-20 休日カレンダー(火曜日を非営業日へ変更した場合)

3. 日を指定して営業日、非営業日を切り替える場合は日付をクリックします。黒色が営業日、赤色が非営業日です。

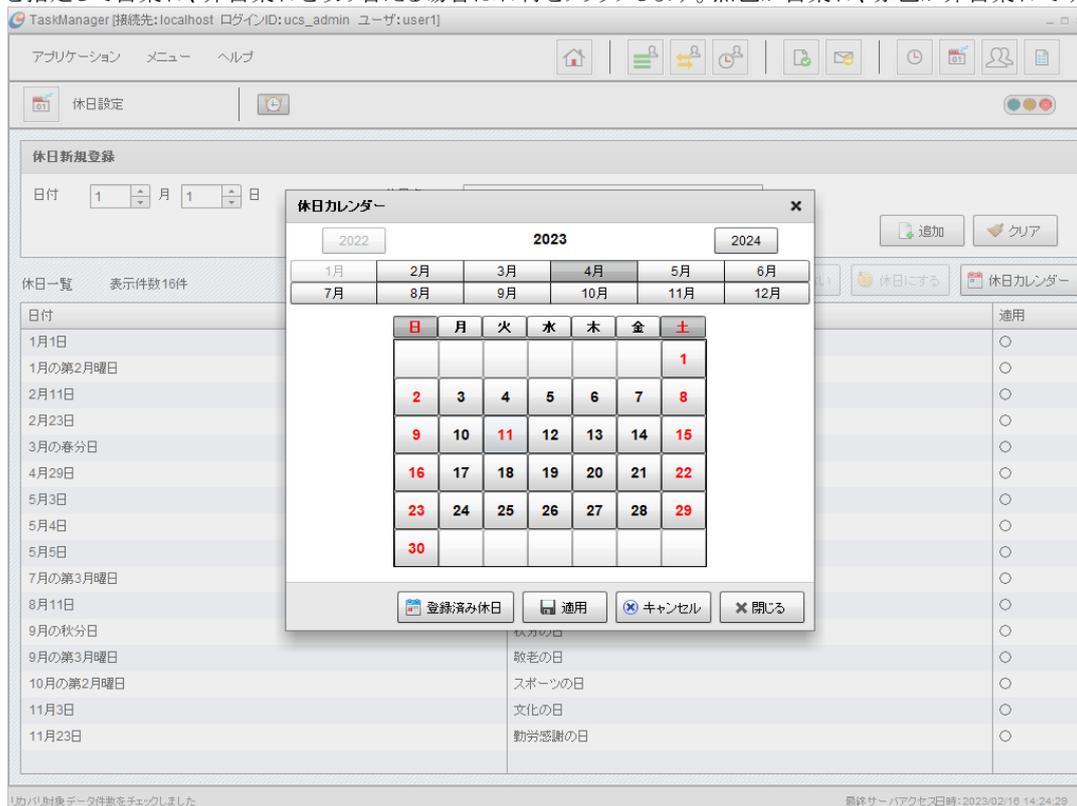


図 4-21 休日カレンダー(2023年4月11日を非営業日にした場合)

4. 入力した内容で休日を登録する場合は、[適用]ボタンをクリックしてください。入力した内容を破棄して登録を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。
5. [閉じる]ボタンをクリックして休日カレンダーを閉じます。

4.6.8.休日カレンダーをリセットするには

休日カレンダーダイアログで設定した休日情報を全てリセットすることが可能です。

1. [休日カレンダー]ダイアログの[リセット]ボタンをクリックしてください。確認画面が表示されます。
2. 休日カレンダーをリセットする場合は、[はい]ボタンをクリックしてください。休日カレンダーのリセットをしない場合は、[いいえ]ボタンをクリックしてください。

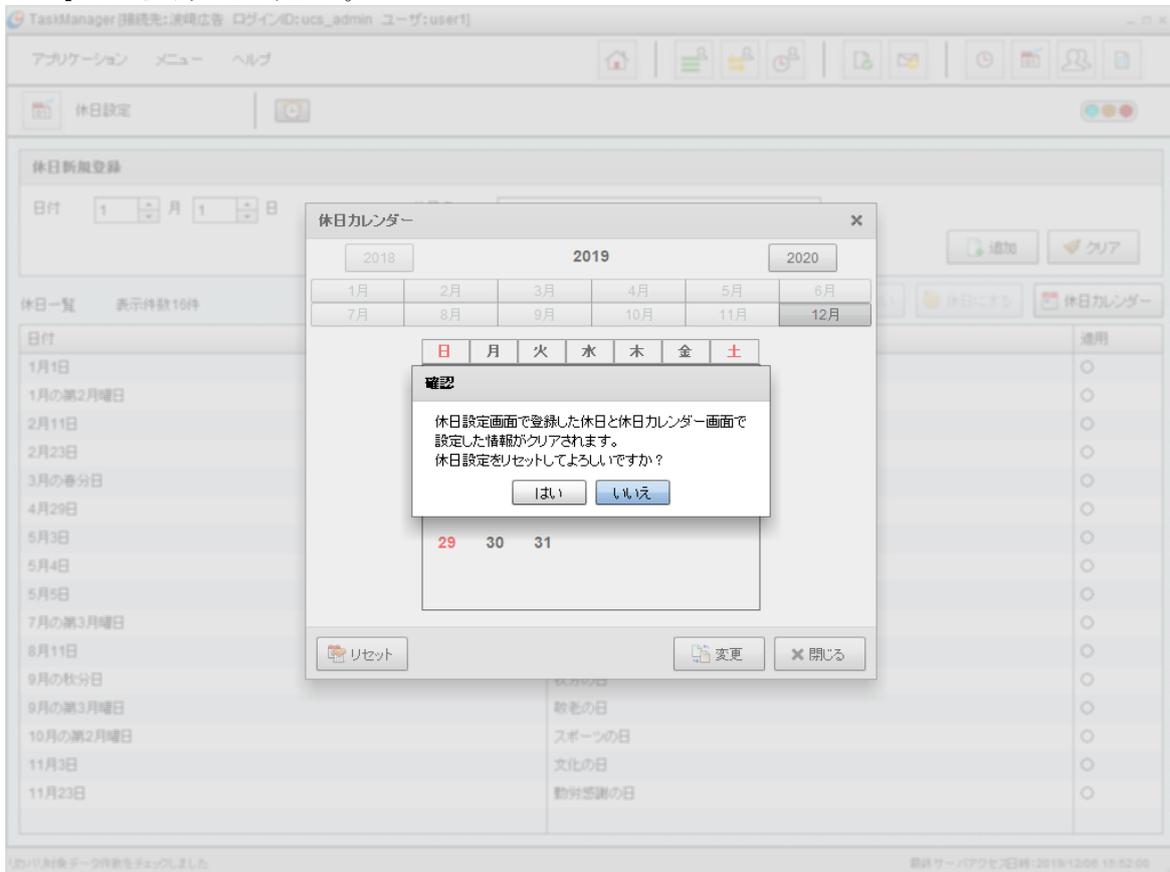


図 4-22 休日カレンダーリセット確認ダイアログ

4.7. スケジュール情報の設定

TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[スケジュール設定]アイコンをクリックすると「スケジュール設定」画面が表示されます。スケジューラにより起動される送受信処理等のスケジュールを設定します。

- ・ 「スケジュール一覧」にすべてのスケジュール情報が一覧表示されます。
- ・ 検索条件を指定できます。

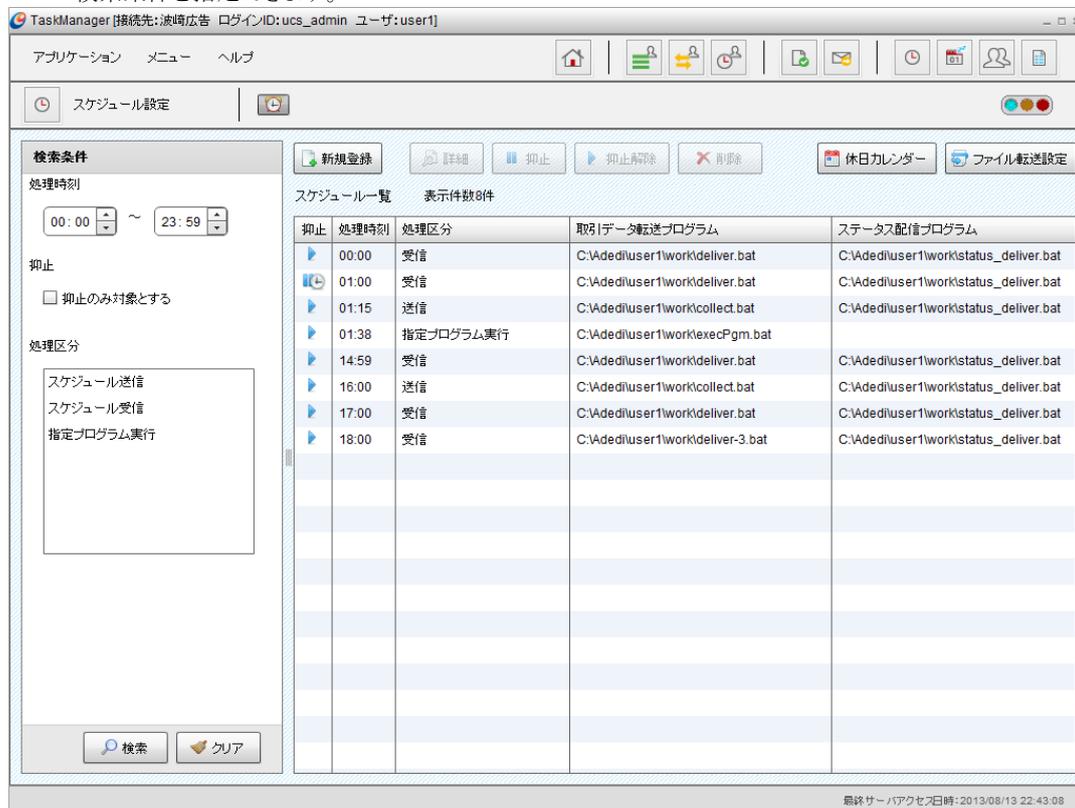


図 4-23 スケジュール設定画面

4.7.1. スケジュール情報を検索するには

1. 検索項目を入力します。

表 4-10 検索項目入力内容

項目名	内容
処理時刻	処理を実行する時刻を指定してください。 デフォルトは「From」=00:00、「To」=23:59
抑止	抑止中のスケジュールのみ対象とするときチェックしてください。 デフォルトは「抑止」=条件に含めない
処理区分	処理区分を選択してください。複数選択もできます。 デフォルトは「処理区分」=検索指定なし(すべて検索) <ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュール送信 ・ スケジュール受信 ・ 指定プログラム実行

2. [検索]ボタンをクリックするとスケジュール一覧表示が更新されます。[クリア]ボタンで検索条件をデフォルト値に戻せます。

4.7.2.スケジュール情報を登録するには

1. [新規登録]ボタンをクリックして[スケジュール情報新規登録]ダイアログを表示します。

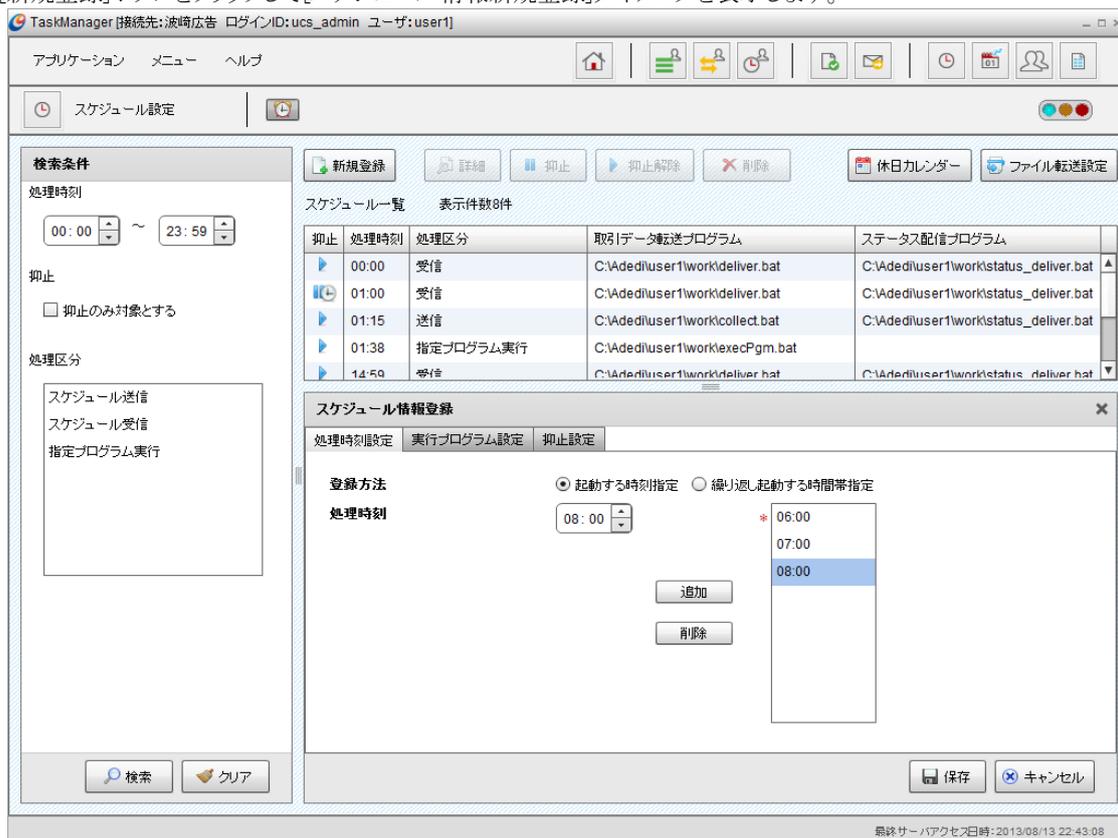


図 4-24 スケジュール設定画面(スケジュール情報登録) 処理時刻設定タブ

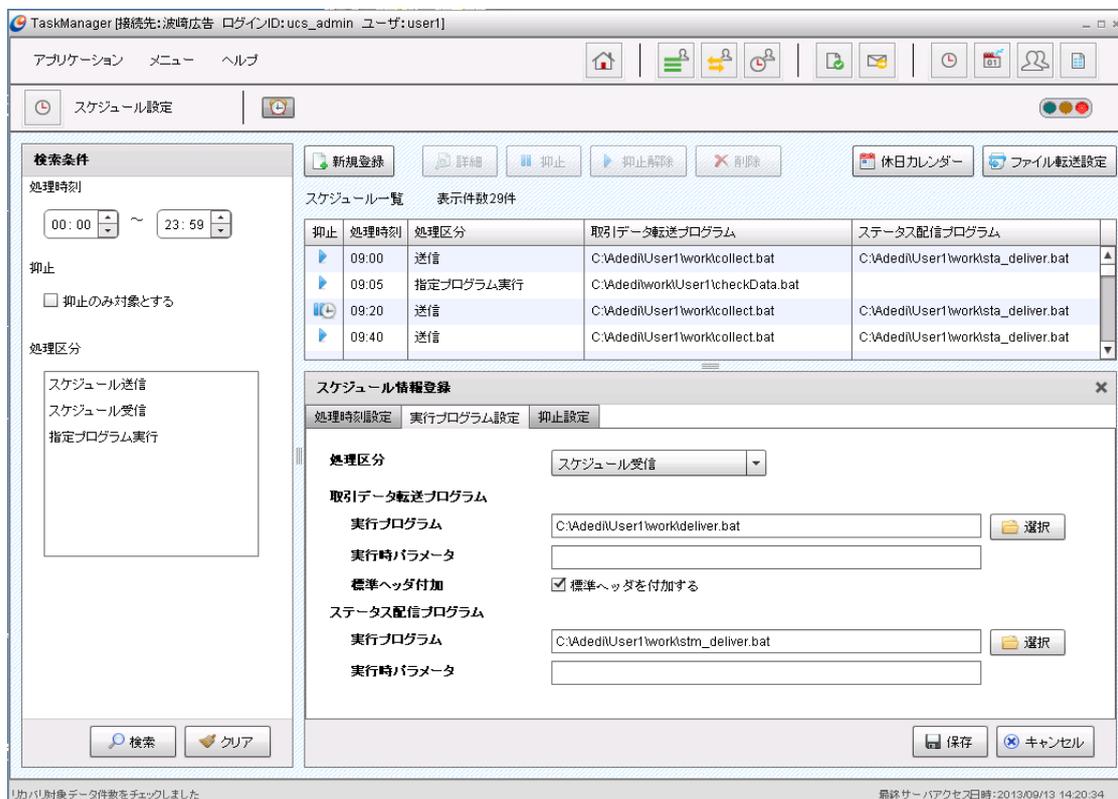


図 4-25 スケジュール設定画面(スケジュール情報登録) 実行プログラム設定タブ

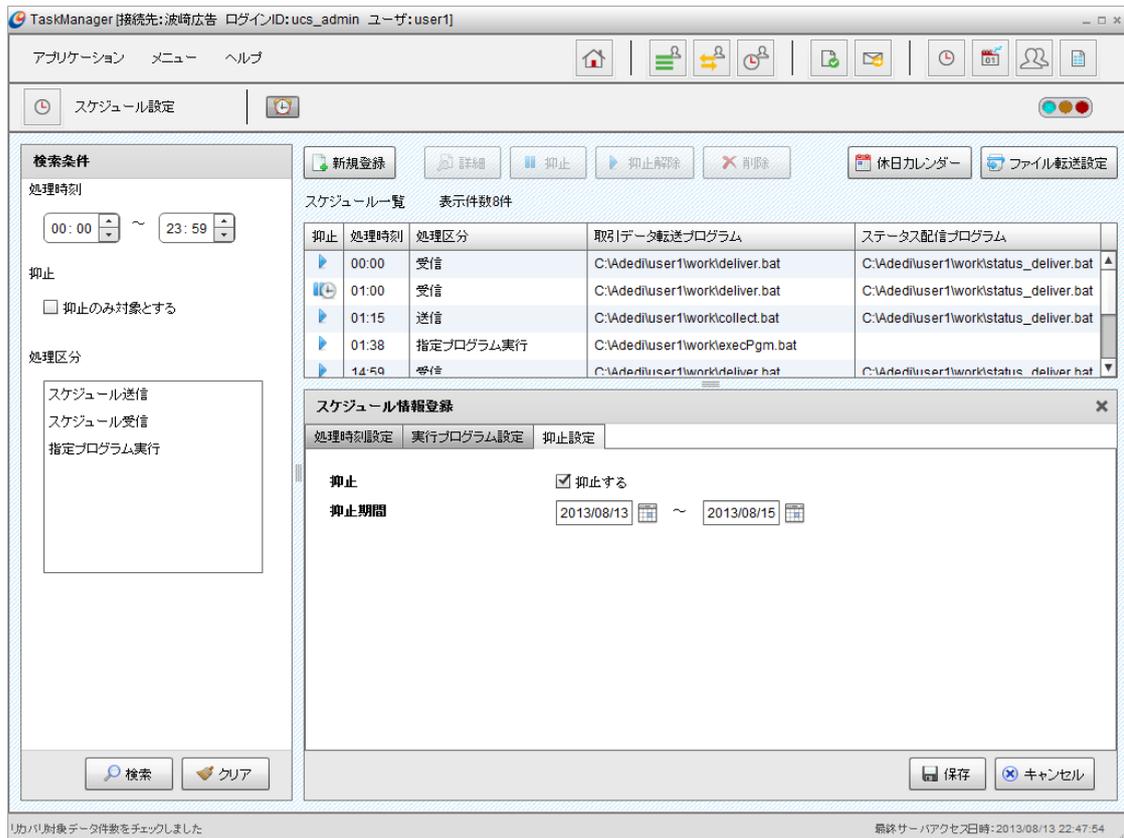


図 4-26 スケジュール設定画面(スケジュール情報登録) 抑止設定タブ

2. 項目を入力します。

表 4-11 項目入力内容(スケジュール設定)

項目名	内容
処理時刻設定	
登録方法	<p>以下のどちらか選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「起動する時刻指定」 処理時刻で起動させたい時刻を追加します。一覧には複数件追加することができます。追加された全ての時刻で処理が起動します。 「繰り返し起動する時間帯指定」 指定する処理時刻の範囲、指定間隔で起動するスケジュールを登録します。一覧には複数件追加することができます。追加された全てのスケジュールにおいて処理が起動します。
処理時刻	<ul style="list-style-type: none"> 「起動する時刻指定」 処理時刻を入力し[追加]ボタンをクリックします。入力した処理時刻は追加表示されます。不要になった処理時刻は[削除]ボタンをクリックして削除してください。 「繰り返し起動する時間帯指定」 処理時刻範囲及び、指定間隔を入力してください。
実行プログラム指定	
処理区分	<p>処理区分を選択してください。複数選択もできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> スケジュール送信 スケジュール受信 指定プログラム実行

取引データ転送プログラム	送受信の場合は「取引データ転送プログラム」と表示されます。指定プログラム実行の場合は「指定プログラム」と表示されます。	
	実行プログラム	送信の場合は業務システムからデータを集信する取引データ転送プログラムを指定します。受信の場合は業務システムへデータを配信する取引データ転送プログラムを指定します。指定プログラムの場合は、実行するプログラムを指定します。 [選択]ボタンをクリックするとファイルの参照ダイアログが開きます。 ※ TaskManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。
	実行時パラメータ	「実行プログラム」にパラメータが必要な場合に指定します。パラメータが複数ある場合の区切り文字等は実行プログラムの仕様に合わせてください。 パラメータに半角スペースが含まれたパスを指定する場合は、「”“(ダブルクォート)で括ってください。
標準ヘッダ付加	受信の場合のみ表示されます。 標準ヘッダを付加した受信データを業務システムへ配信したい場合にチェックしてください。	
ステータス配信プログラム	送受信処理の結果が書かれたステータスファイルを作成して、業務システムへ配信するためのプログラムを指定します。 指定プログラム実行ではステータス配信を行いません。	
	実行プログラム	処理結果を業務システムへ配信するステータス配信プログラムを指定します。 [選択]ボタンをクリックするとファイルの参照ダイアログが開きます。 ※ TaskManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。
	実行時パラメータ	「実行プログラム」にパラメータが必要な場合に指定します。パラメータが複数ある場合の区切り文字等は実行プログラムの仕様に合わせてください。 パラメータに半角スペースが含まれたパスを指定する場合は、「”“(ダブルクォート)で括ってください。
抑止設定		
抑止	スケジュールを抑止するときチェックしてください。 スケジュールを抑止すると、指定した期間中のスケジュールが起動しなくなります。抑止期間が過ぎると、起動するようになります。	
抑止期間	「抑止する」とした場合、入力可能になります。 抑止する日付の範囲を入力してください。	

3. 入力した内容で登録する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して登録を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4.7.3.登録されているスケジュール情報の変更をするには

1. 一覧に表示されているスケジュール情報を選択し、ダブルクリックまたは、[詳細]ボタンをクリックし、[スケジュール情報参照]ダイアログを表示します。
2. [変更]ボタンをクリックし、[スケジュール情報更新]ダイアログを表示します。
3. 変更する項目を入力します。
4. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4.7.4.登録されているスケジュール情報の削除をするには

1. 一覧に表示されているスケジュール情報を選択し、[削除]ボタンをクリックすると[スケジュール削除]ダイアログが表示されます。スケジュール情報を複数選択することも可能です。
2. 選択したスケジュールを削除する場合は、[削除]ボタンをクリックしてください。削除をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

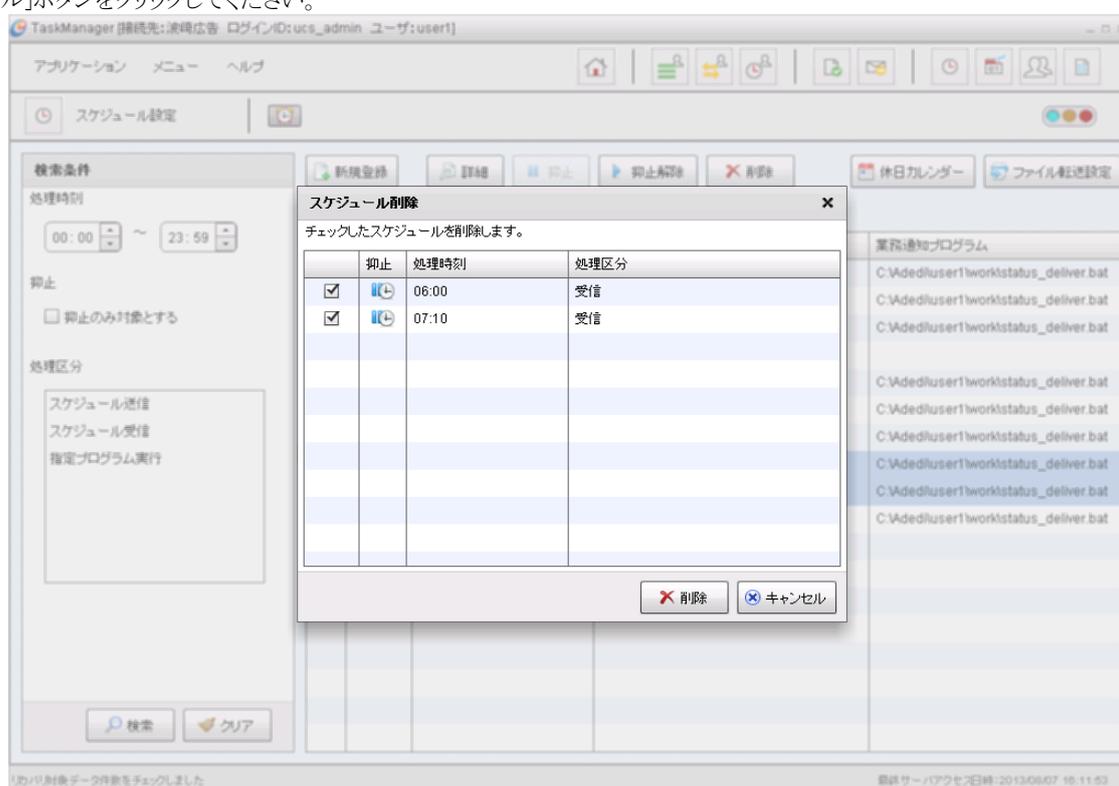


図 4-27 スケジュール削除ダイアログ

4.7.5.登録されているスケジュール情報の抑止をするには

1. 一覧に表示されているスケジュールのうち「抑止」が▶(非抑止)となっているものを選択し、「抑止」ボタンをクリックすると[スケジュール抑止]ダイアログが表示されます。スケジュール情報を複数選択することも可能です。

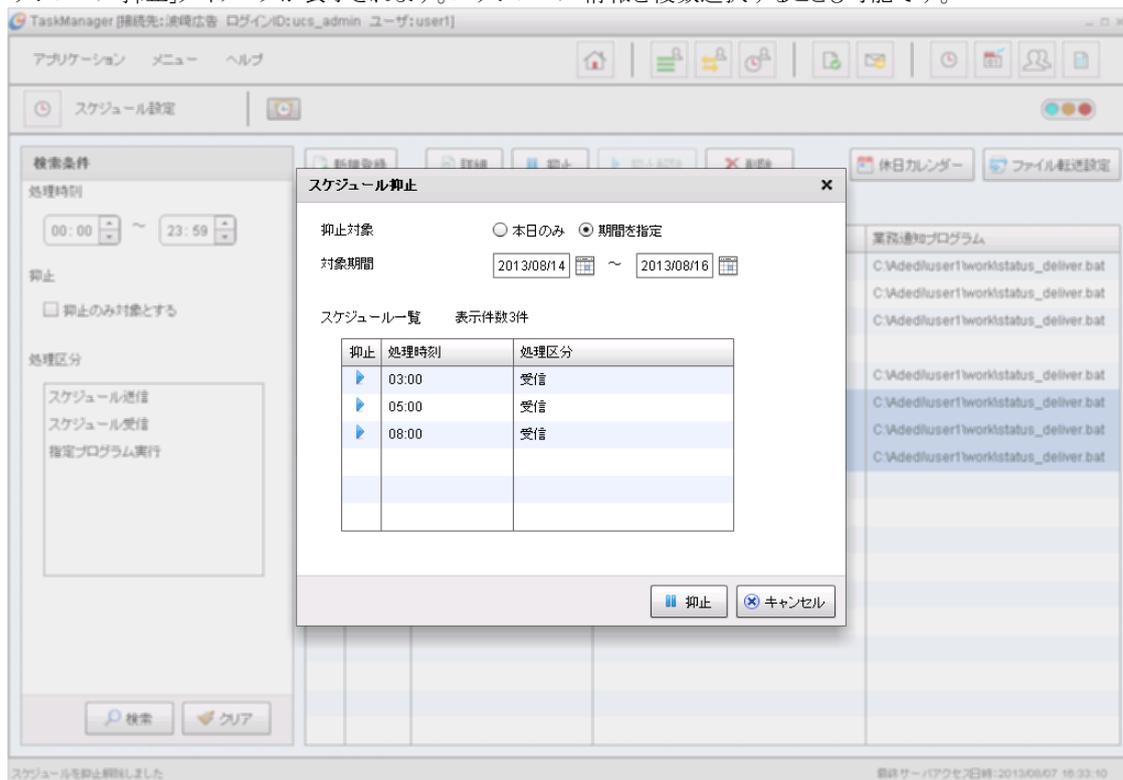


図 4-28 スケジュール抑止ダイアログ

2. 項目を入力します。

表 4-12 項目入力内容

項目名	内容
抑止対象	どちらか選択してください。 「本日のみ」:本日のみ抑止します。 「期間を指定」:抑止期間を指定します
対象期間	「抑止対象」で「期間を指定」を選択した場合入力可能になります。 抑止する本日以降の日付範囲を入力してください。

3. 入力した内容で抑止する場合は、「抑止」ボタンをクリックします。抑止をキャンセルする場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。

4.7.6.登録されているスケジュール情報の抑止解除をするには

1. 一覧に表示されているスケジュール情報のうち「抑止」が (抑止中)または (抑止予定)となっているものを選択し、[抑止解除]ボタンをクリックすると[スケジュール抑止解除]ダイアログが表示されます。スケジュール情報を複数選択することも可能です。

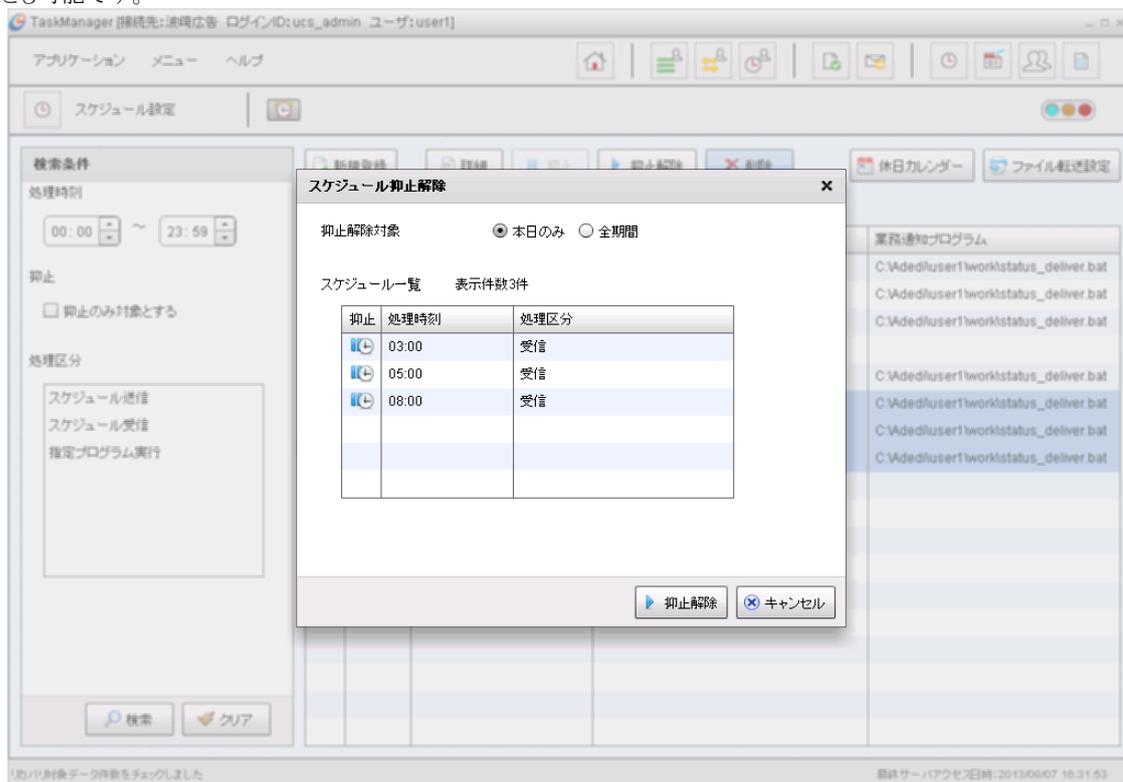


図 4-29 スケジュール抑止解除ダイアログ

2. 項目を入力します。

表 4-13 項目入力内容(抑止解除)

項目名	内容
抑止解除対象	どちらか選択してください。 「本日のみ」: 本日のみ抑止を解除します。 「全期間」: 全期間抑止を解除します。

3. 入力した内容で抑止解除をする場合は、[抑止解除]ボタンをクリックします。抑止解除をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4.7.7.休日カレンダーを見る

[休日カレンダー]ボタンをクリックすると[休日カレンダー]ダイアログが表示されます。詳しくは「4.6.6.休日カレンダーを参照するにはエラー! 参照元が見つかりません。」を確認してください。

4.7.8.ファイル転送プログラムに関する情報を設定するには

1. 「スケジュール設定」画面で[ファイル転送設定]ボタンをクリックして[ファイル転送設定]ダイアログを表示します。

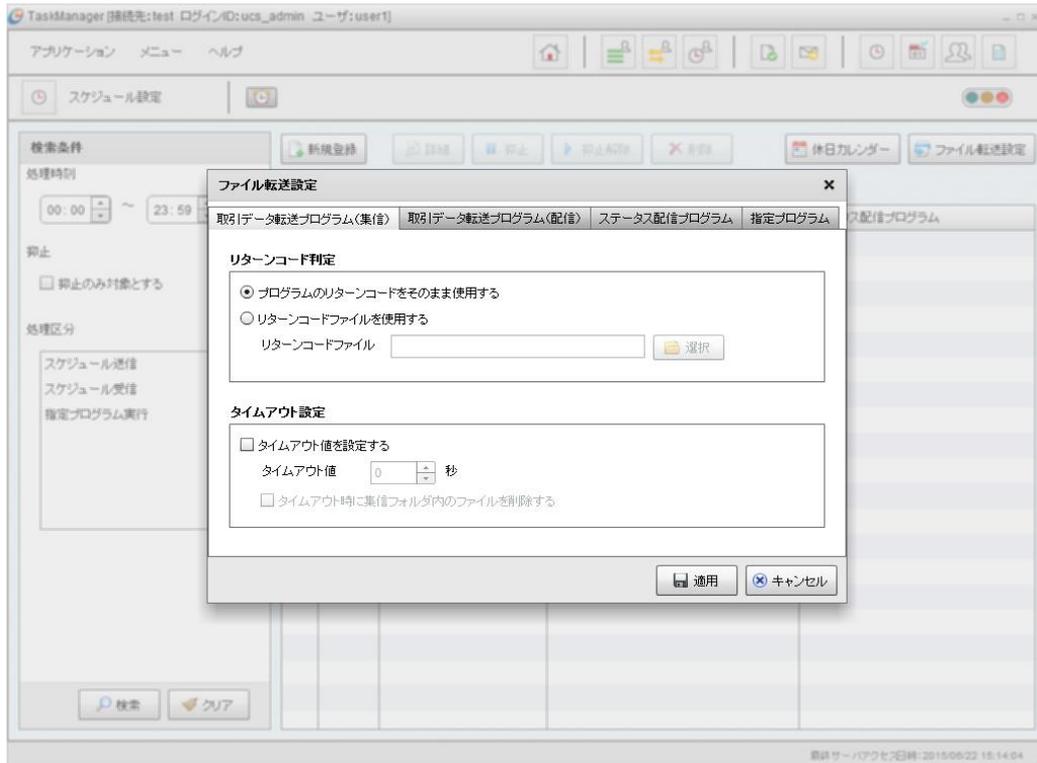


図 4-30 ファイル転送設定ダイアログ 取引データ転送プログラム(集信)タブ

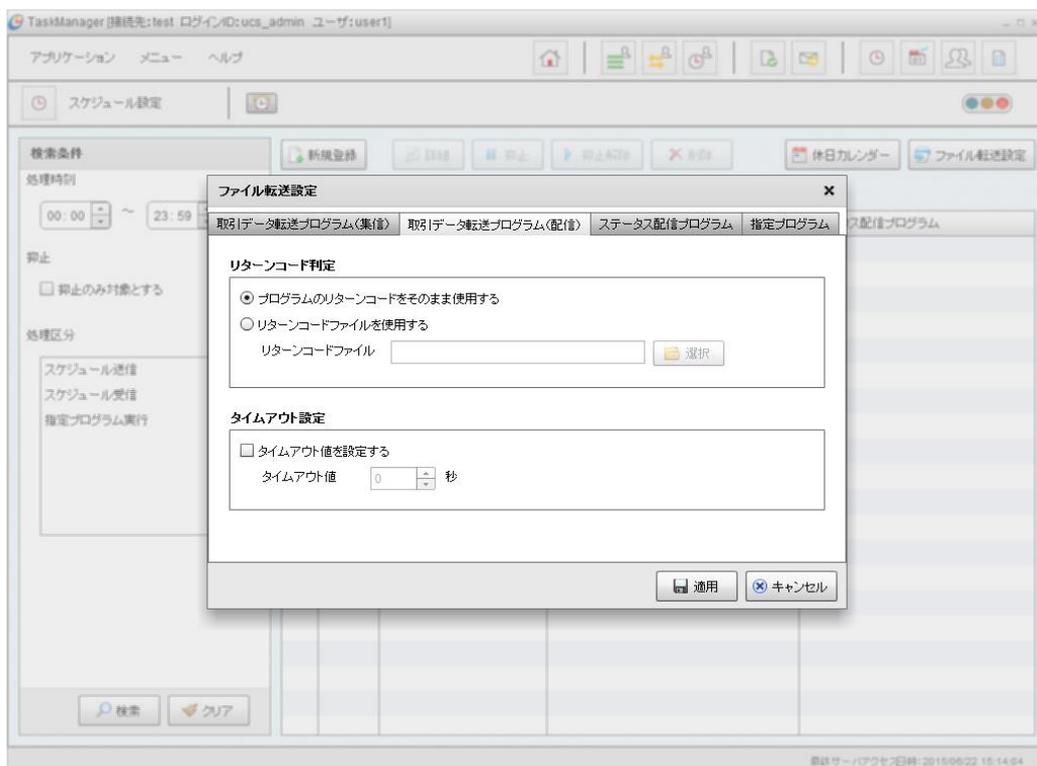


図 4-31 ファイル転送設定ダイアログ 取引データ転送プログラム(配信)タブ

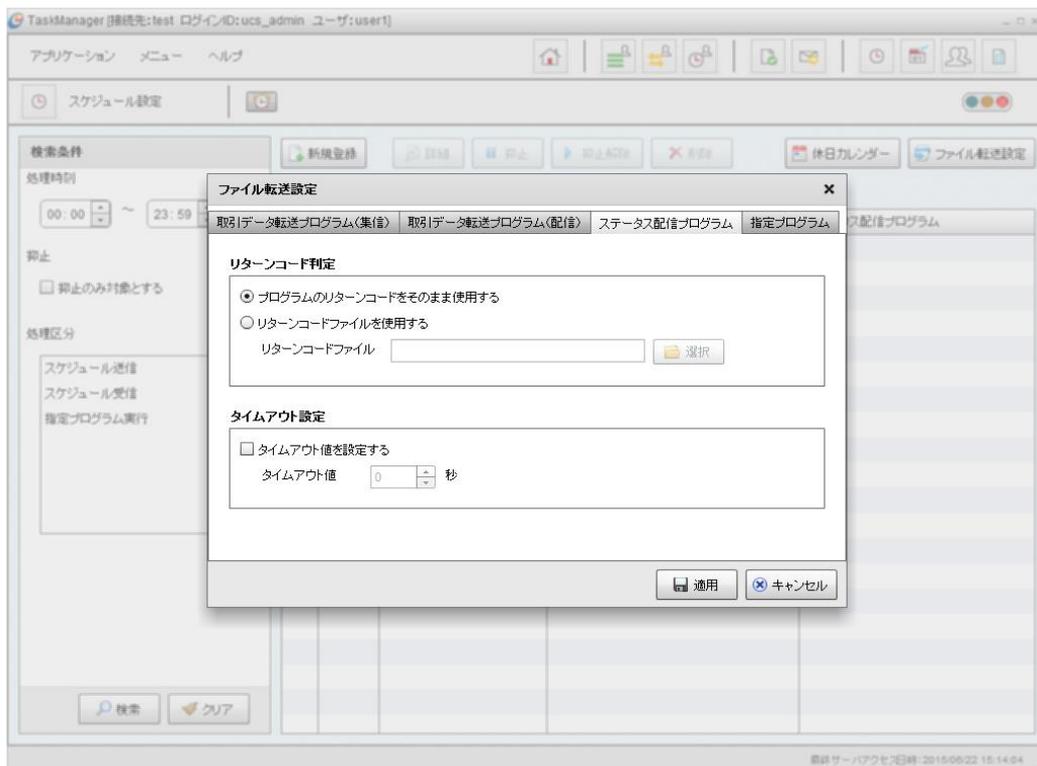


図 4-32 ファイル転送設定ダイアログ ステータス配信プログラムタブ

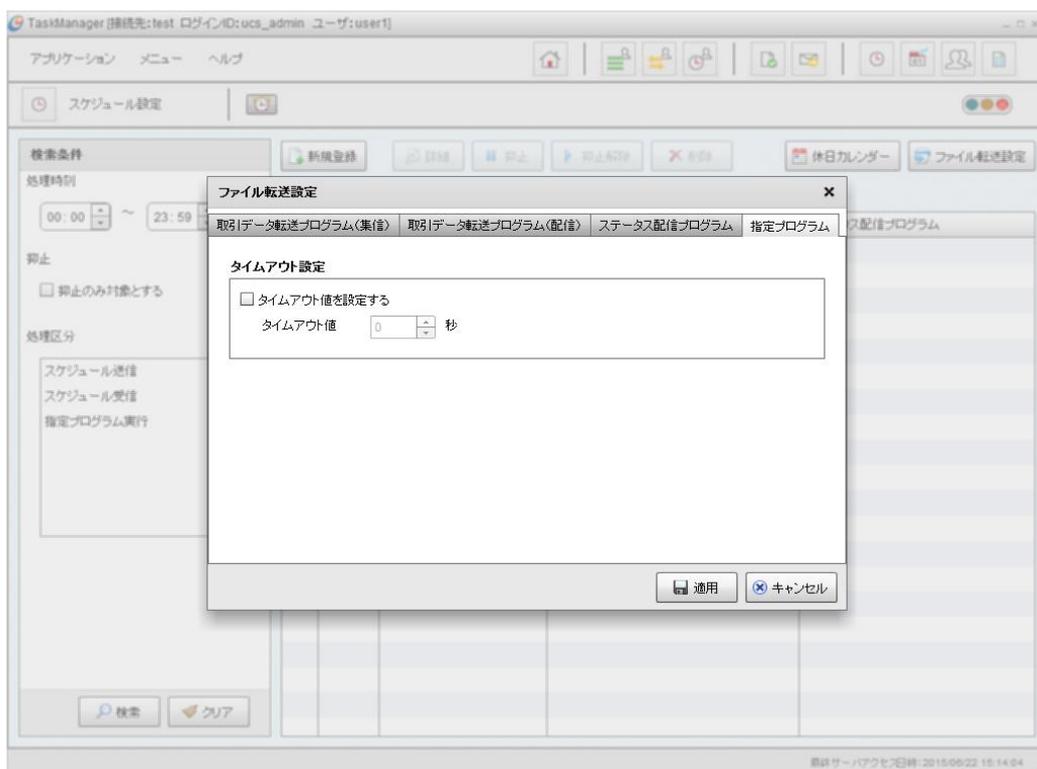


図 4-33 ファイル転送設定ダイアログ 指定プログラムタブ

2. 以下の項目を入力します。

表 4-14 項目入力内容

項目名	内容
取引データ転送プログラム(集信)	
プログラムのリターンコードをそのまま使用する	取引データを集信するファイル転送プログラムが直接、戻り値を返す方式の場合に指定します。
リターンコードファイルを使用する	取引データを集信するファイル転送プログラムが戻り値をファイルに出力する方式の場合に指定します。※1 入力欄にはリターンコードファイルのパスを指定します。[選択]ボタンをクリックするとファイルの参照ダイアログが開きます。 ※ TaskManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。
タイムアウト値を設定する	チェックした場合、ファイル転送プログラムを起動した際に「タイムアウト値」の秒数が経過すると、ファイル転送プログラムの処理を中断します。 チェックがない場合、終了するまで待機します。
タイムアウト値	ファイル転送プログラムを起動し、終了するまでの待機時間を入力します。 入力した秒数を経過した場合、ファイル転送プログラムを中断します。0秒を指定した場合、ファイル転送プログラムが終了するまで待機します。
タイムアウト時に集信フォルダ内のファイルを削除する	チェックした場合、ファイル転送プログラムを起動し、「タイムアウト値」の秒数を経過してファイル転送プログラムが中断された際に、それまでにU/Cサーバ内に転送した取引データを削除します。
取引データ転送プログラム(配信)	
プログラムのリターンコードをそのまま使用する	取引データを配信するファイル転送プログラムが直接、戻り値を返す方式の場合に指定します。
リターンコードファイルを使用する	取引データを配信するファイル転送プログラムが戻り値をファイルに出力する方式の場合に指定します。※1 入力欄にはリターンコードファイルのパスを指定します。[選択]ボタンをクリックするとファイルの参照ダイアログが開きます。 ※ TaskManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。
タイムアウト値を設定する	チェックした場合、ファイル転送プログラムを起動した際に「タイムアウト値」の秒数が経過すると、ファイル転送プログラムの処理を中断します。 チェックが無い場合、終了するまで待機します。
タイムアウト値	ファイル転送プログラムを起動し、終了するまでの待機時間を入力します。 入力した秒数を経過した場合、ファイル転送プログラムを中断します。0秒を指定した場合、ファイル転送プログラムが終了するまで待機します。
ステータス配信プログラム	
プログラムのリターンコードをそのまま使用する	処理結果を業務システムへ配信するファイル転送プログラムが直接、戻り値を返す方式の場合に指定します。※1
リターンコードファイルを使用する	処理結果を業務システムへ配信するファイル転送プログラムが戻り値をファイルに出力する方式の場合に指定します。※1 入力欄にはリターンコードファイルのパスを指定します。[選択]ボタンをクリックするとファイルの参照ダイアログが開きます。 ※ TaskManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。
タイムアウト値を設定する	チェックした場合、ファイル転送プログラムを起動した際に「タイムアウト値」の秒数が経過すると、ファイル転送プログラムの処理を中断します。 チェックが無い場合、終了するまで待機します。
タイムアウト値	ファイル転送プログラムを起動し、終了するまでの待機時間を入力します。 入力した秒数を経過した場合、ファイル転送プログラムを中断します。0秒を指定した場合、ファイル転送プログラムが終了するまで待機します。

指定プログラム	
タイムアウト値を設定する	チェックした場合、指定プログラムを起動した際に「タイムアウト値」の秒数が経過すると、指定プログラムの処理を中断します。 チェックがない場合、終了するまで待機します。
タイムアウト値	指定プログラムを起動し、終了するまでの待機時間を入力します。 入力した秒数を経過した場合、指定プログラムを中断します。0秒を指定した場合、指定プログラムが終了するまで待機します。

※1 リターンコードファイルのフォーマットは「U/Cサーバ 業務システム間転送プログラムインターフェース仕様書」を確認してください。

3. 入力した内容で変更する場合は、[適用]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して変更を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4.8. 送受信スケジュールの処理結果を見る

TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[トランザクション]アイコンをクリックすると「トランザクション」画面が表示されます。「トランザクション」画面から送受信スケジュールやシステムスケジュール、また各処理の手動実行の処理結果を見ることができます。

- ・ 検索条件に一致したトランザクションが一覧表示されます。
- ・ 日付が一覧表示されます。クリックすると、その日付に該当するトランザクションだけが表示されます。
- ・ [検索条件]ボタンからトランザクションの検索条件を指定できます。
- ・ 「自動取得 する/しない」を設定できます。「する」とした場合、[メインメニュー]の[ヘルプ]で設定した「オプション設定」の間隔で画面を更新します。自動取得設定については「4.11.3表示の更新頻度を設定する」を確認してください。

表 4-15 トランザクション一覧内容

項目名	内容
ステータス	ステータスがアイコンで表示されます。 <ul style="list-style-type: none">・  (正常終了)・  (エラー)・  (警告)・  (処理中)
予定日時	スケジュール処理の場合はスケジュール時刻が表示されます。 手動処理の場合は「実行開始日時」と同じ時刻です。
処理	処理の名前が表示されます。
実行開始日時	処理が開始された日時が表示されます。
実行終了日時	処理が終了した日時が表示されます。実行中の場合は表示されません。
ステータス	終了した処理のステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">・ 正常終了・ エラー・ 警告・ 処理中
エラーコード	エラーコードが表示されます。
データ件数	処理データの件数が表示されます。
エラー件数	「データ件数」の内、エラーとなった件数が表示されます。
トランザクションID	トランザクションIDが表示されます。

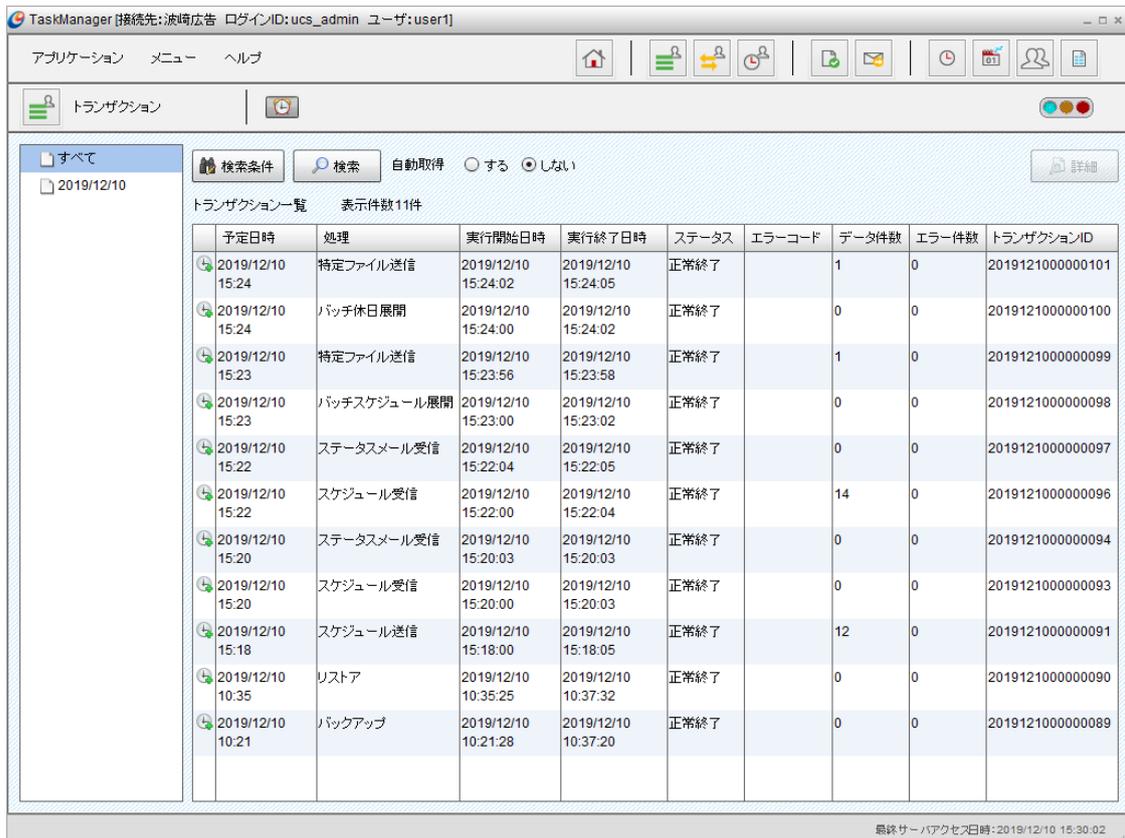


図 4-34 トランザクション画面

4.8.1.トランザクションを検索するには

1. [検索条件]ボタンをクリックすると、「トランザクション(検索条件入力)」画面が表示されます。



図 4-35 トランザクション画面(検索条件入力)

2. 検索項目を入力します。

表 4-16 検索項目入力内容

項目名	内容
処理日時	日付範囲を指定してトランザクションを検索表示します。 デフォルトは「From日時」=当日0時0分、「To日時」=未設定
処理	処理を選択してください。該当処理のトランザクションを検索表示します。 デフォルトは「処理」=すべて <ul style="list-style-type: none"> ・ すべて ・ スケジュール送信 ・ 手動送信 ・ 再送信 ・ リカバリ送信 ・ 特定ファイル送信 ・ スケジュール受信 ・ 手動受信 ・ 再配信 ・ リカバリ配信 ・ 問い合わせ選択受信 ・ ステータス再配信 ・ 問い合わせ ・ 指定プログラム実行 ・ ステータスメール受信 ・ バックアップ ・ クリーンアップ ・ バッチ休日展開 ・ バッチスケジュール展開 ・ リストア ・ リポート
ステータス	ステータスを選択してください。該当処理結果のステータスを検索表示します。 デフォルトは「ステータス」=すべて <ul style="list-style-type: none"> ・ すべて ・ 正常終了 ・ エラー ・ 警告 ・ 処理中

3. [検索]ボタンをクリックするとトランザクション一覧表示が更新されます。
[クリア]ボタンで入力した検索条件を元に戻せます。
[閉じる]ボタンで検索入力項目を隠すことができます。

4.8.2.トランザクションの詳細を見るには

1. 一覧に表示されているトランザクションを選択し、ダブルクリックまたは、[詳細]ボタンをクリックすると、[トランザクション詳細]ダイアログが表示されます。

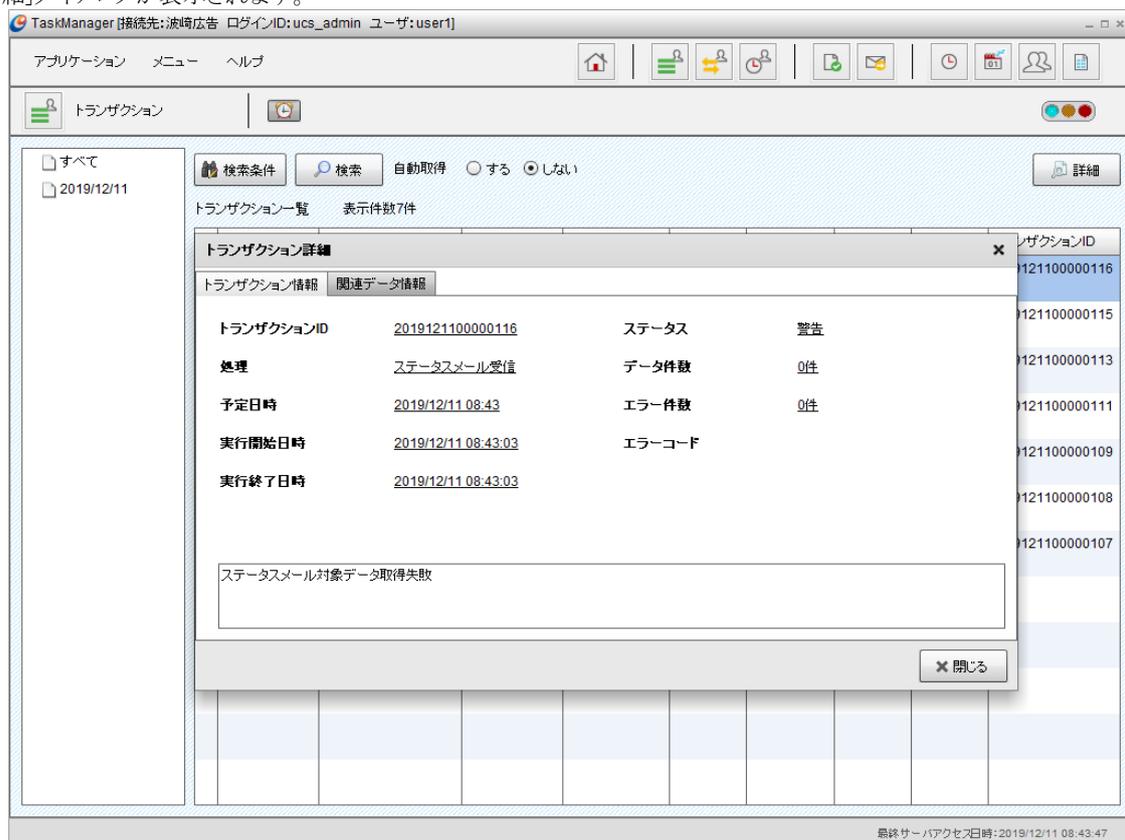


図 4-36 トランザクション画面(トランザクション詳細) トランザクション情報タブ

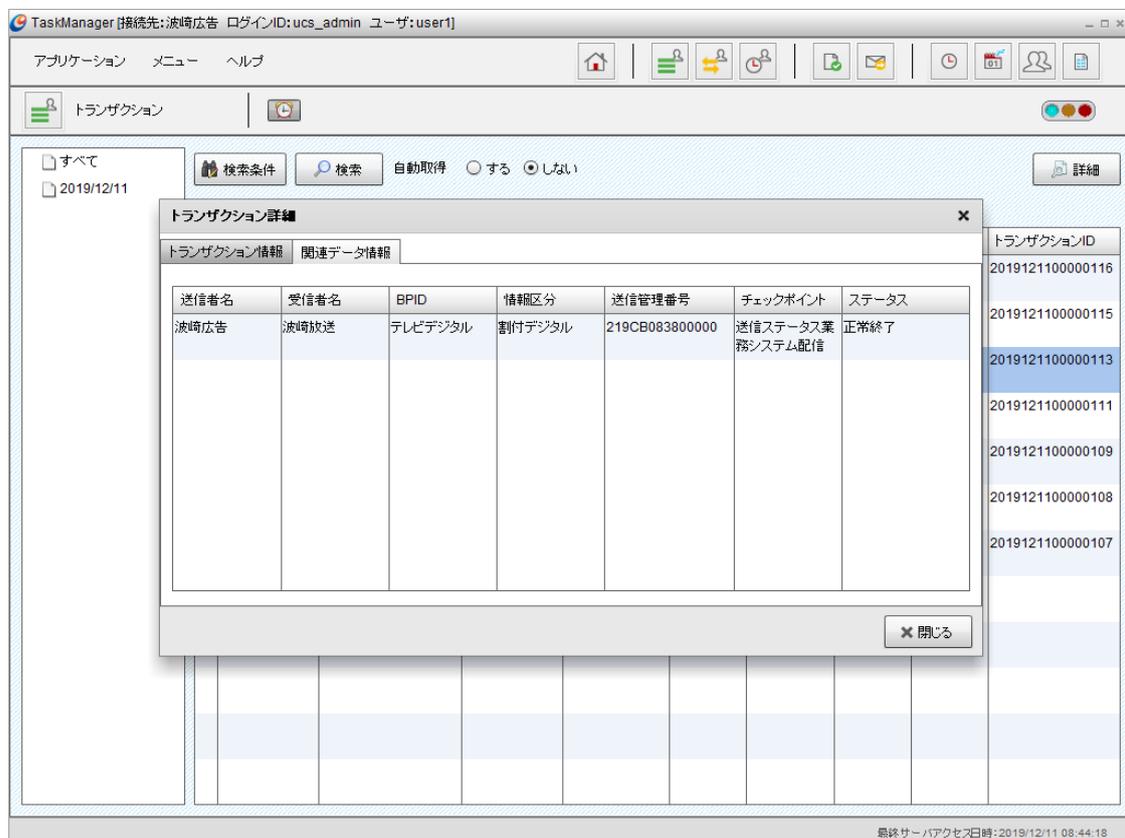


図 4-37 トランザクション画面(トランザクション詳細) 関連データ情報タブ

[トランザクション情報]タブにはトランザクションの内容が表示されます。

表 4-17 トランザクション詳細内容

項目名	内容
トランザクションID	トランザクションIDが表示されます。
処理	処理の名前が表示されます。
予定日時	スケジュール処理の場合はスケジュール時刻が表示されます。 手動処理の場合は「実行開始日時」と同じ時刻が表示されます。
実行開始日時	処理が開始された日時が表示されます。
実行終了日時	処理が終了した日時が表示されます。実行中の場合は表示されません。
ステータス	終了した処理のステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常終了 ・ エラー ・ 警告 ・ 処理中
データ件数	処理データの件数が表示されます。
エラー件数	「データ件数」の内、エラーとなった件数が表示されます。
エラーコード	エラーコードが表示されます。
メッセージ	ステータスがエラーまたは警告の場合にメッセージが表示されます。

[関連データ情報]タブには送受信データの内容が表示されます。また、ステータスがエラーの場合そのデータは赤色で表示されます。

表 4-18 トランザクション詳細関連データ内容

項目名	内容
送信者名	送信者の企業名が表示されます。
受信者名	受信者の企業名が表示されます。
BPID	業務区分の名前が表示されます。
情報区分	情報区分の名前が表示されます。
送信管理番号	送信側で付番された管理番号です。
チェックポイント	処理ステップのチェックポイントが表示されます。
ステータス	終了した処理のステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常終了 ・ エラー ・ 警告 ・ 処理中

4.9.送受信データの状況を見る

TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[送受信データ]アイコンをクリックすると「送受信データ」画面が表示されます。「送受信データ」画面では送受信を行ったデータの状況を見ることができます。さらに、U/Cサーバに取込済みのデータの再処理を行うことができます。

- 検索条件に一致した送受信データが一覧表示されます。
- [検索条件]ボタンから送受信データの検索条件を指定できます。
- 「自動取得 する/しない」を設定できます。「する」とした場合、[メインメニュー]の[ヘルプ]で設定した「オプション設定」の間隔で画面を更新します。自動取得設定については「4.11.3表示の更新頻度を設定する」を確認してください。

表 4-19 送受信データ一覧内容

項目名	内容
データ区分	送受信区分が表示されます。
送信者名	送信者の企業名が表示されます。
受信者名	受信者の企業名が表示されます。
BPID	業務区分の名前が表示されます。
情報区分	情報区分の名前が表示されます。
センター送信/受信日時	送信時: 広告取引EDIシステムへの送信処理が起動した日時が表示されます。 受信時: 広告取引EDIシステムから受信した日時が表示されます。
チェックポイント	処理ステップのチェックポイントが表示されます。
ステータス	終了した処理のステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">・ 正常終了・ エラー・ 警告・ 処理中
エラーコード	エラーコードが表示されます。
送信管理番号	送信管理番号が表示されます。 送信時: すべての送信データ内における固有な管理番号です。 受信時: 送信側で付番された管理番号です。
受信管理番号	受信管理番号が表示されます。 すべての受信データ内における固有な管理番号です。

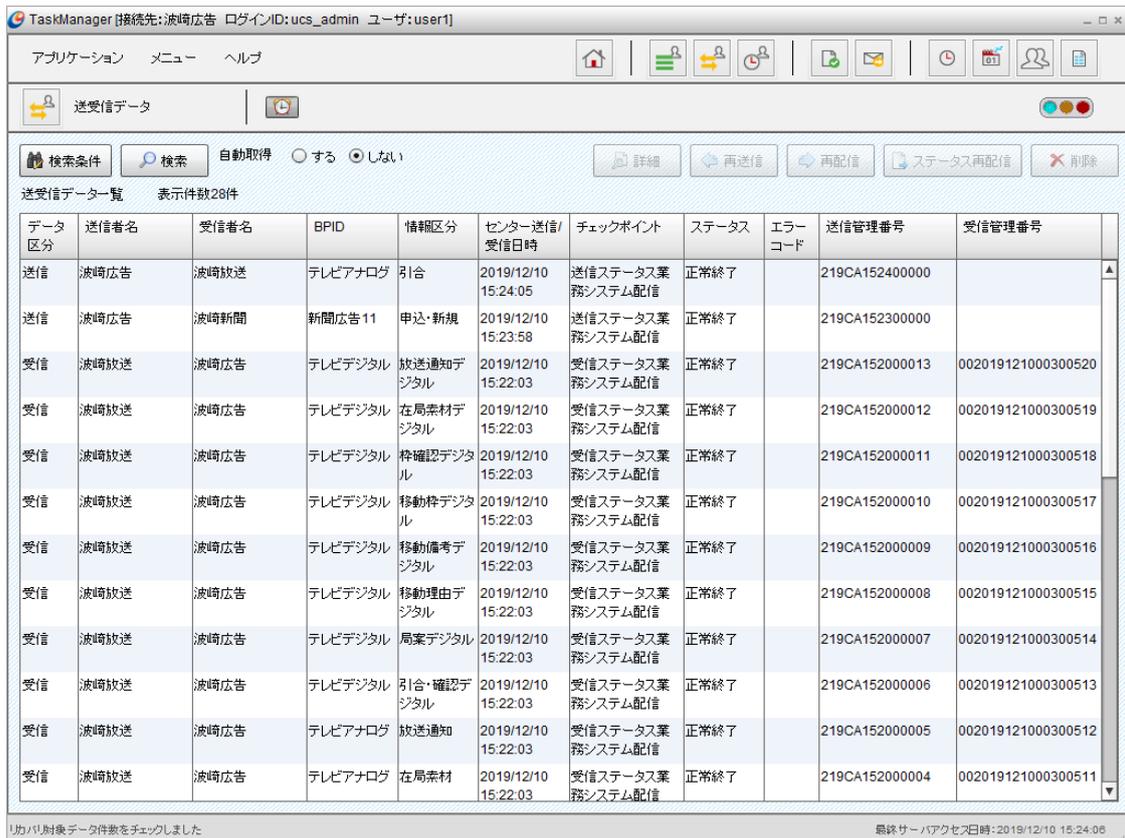


図 4-38 送受信データ一覧画面

4.9.1.送受信データを検索するには

1. [検索条件]ボタンをクリックすると、「送受信データ(検索条件入力)」画面が表示されます。

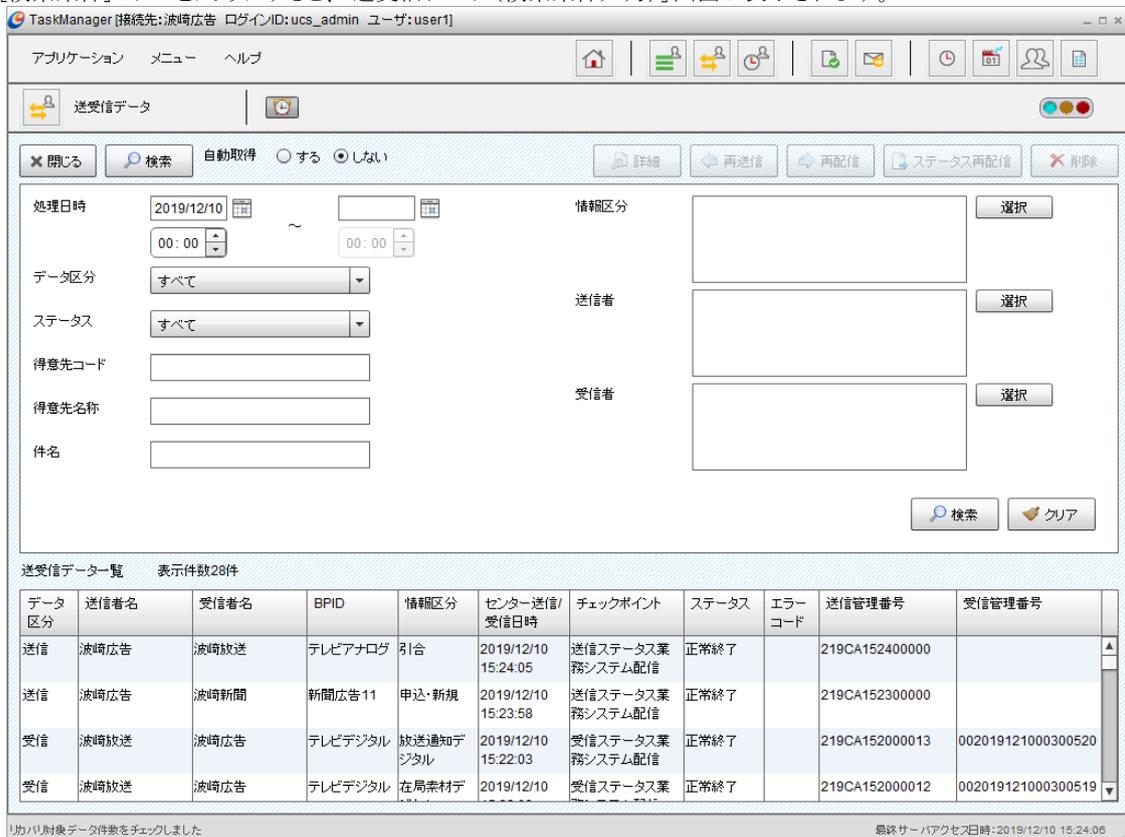


図 4-39 送受信データ画面(検索条件入力)

2. 検索項目を入力します。

表 4-20 検索項目入力内容

項目名	内容
処理日時	日付範囲を指定して送受信データを検索表示します。 デフォルトは「From日時」=当日0時0分、「To日時」=未設定
データ区分	データ区分を指定して送受信データを検索表示します。 デフォルトは「処理」=すべて <ul style="list-style-type: none"> ・ 送信 ・ 受信
ステータス	ステータスを指定して送受信データを検索表示します。 デフォルトは「ステータス」=すべて <ul style="list-style-type: none"> ・ すべて ・ 正常終了 ・ エラー ・ 警告 ・ 処理中
得意先コード	標準ヘッダで指定されている得意先コードで検索する場合に指定します。
得意先名称	標準ヘッダで指定されている得意先名称で検索する場合に指定します。
件名	標準ヘッダで指定されている広告取引の件名で検索する場合に指定します。
情報区分	情報区分を限定する場合に指定します。[選択]ボタンをクリックし、検索対象の情報区分を指定してください。複数選択することもできます。※1
送信者	送信者を限定する場合に指定します。[選択]ボタンをクリックし、検索対象の送信者を指定してください。複数選択することもできます。※1
受信者	受信者を限定する場合に指定します。[選択]ボタンをクリックし、検索対象の受信者を指定してください。複数選択することもできます。※1

3. [検索]ボタンをクリックすると送受信データ一覧表示が更新されます。
[クリア]ボタンで入力した検索条件を元に戻します。[閉じる]ボタンで検索条件入力項目を隠すことができます。

※1 [選択]ボタンをクリックすると、選択ダイアログが表示されます。以下の手順で検索条件を設定してください。



図 4-40 検索条件選択ダイアログ

- ① 一覧の上の入力欄にコード、または名称を入力すると、部分一致するデータが一覧に表示されます。
 - ② 一覧のデータを選択して[>]ボタンをクリックすると、選択したデータが検索条件に設定されます。
 - [>>]ボタンをクリックすると、一覧に表示されているデータがすべて検索条件に設定されます。
 - 検索条件に設定されているデータを選択して[<]ボタンをクリックすると、選択したデータが検索条件から削除されます。
 - [<<]ボタンをクリックすると、検索条件に設定されているデータが全て削除されます。
- 検索条件を設定する場合は、[設定]ボタンをクリックしてください。
検索条件の設定をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

4.9.2.送受信データの詳細を見るには

1. 一覧に表示されている送受信データを選択し、ダブルクリックまたは、[詳細]ボタンをクリックすると、[送受信データ詳細]ダイアログが表示されます。

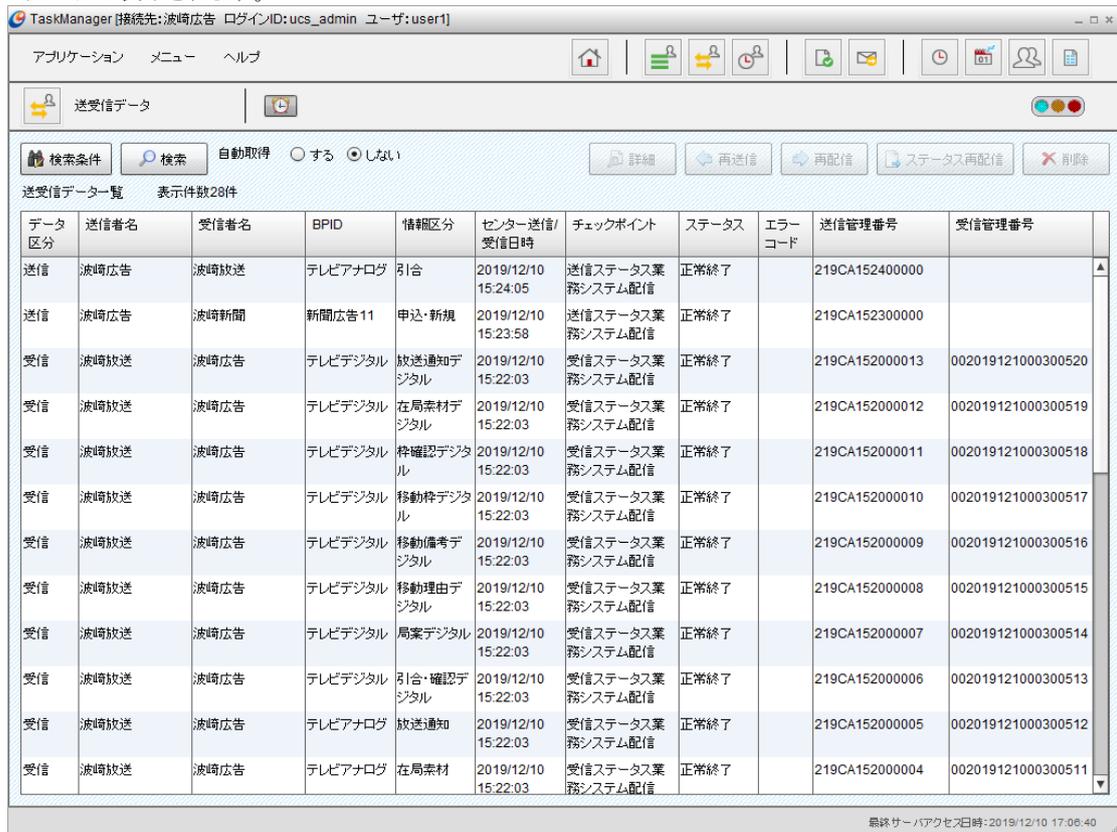


図 4-41 送受信データ画面(送受信データ選択)



図 4-42 送受信データ詳細ダイアログ 基本情報タブ(ステータス正常終了時)



図 4-43 送信データ詳細ダイアログ 基本情報タブ(ステータスエラー時)

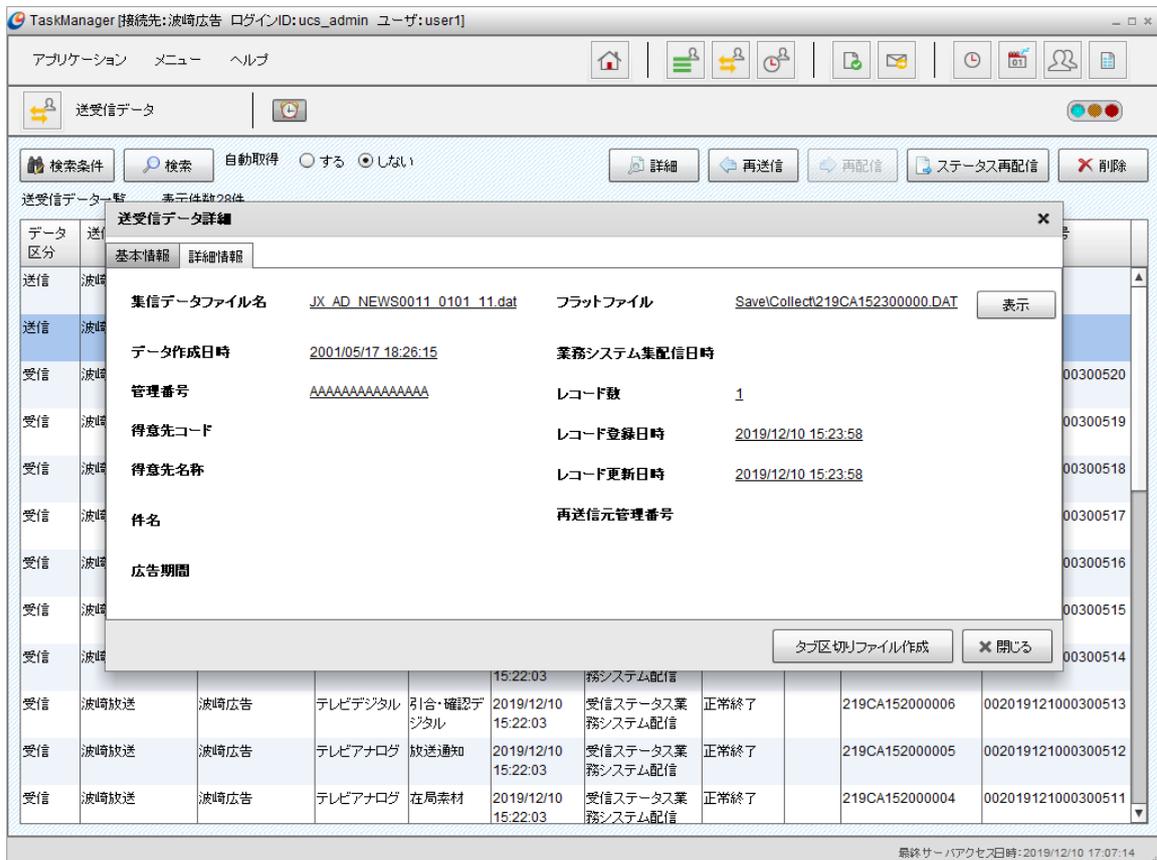


図 4-44 送信データ詳細ダイアログ 詳細情報タブ

[基本情報]タブには送受信データの基本情報が表示されます。

表 4-21 送受信データ基本情報内容

項目名	内容
データ区分	送受信区分が表示されます。
送信者名	送信者の企業名が表示されます。
受信者名	受信者の企業名が表示されます。
BPID	業務区分の名前が表示されます。
情報区分	情報区分の名前が表示されます。
センター送信/受信日時	送信時: 広告取引EDIシステムへの送信処理が起動した日時が表示されます。 受信時: 広告取引EDIシステムから受信した日時が表示されます。
チェックポイント	処理ステップのチェックポイントが表示されます。
ステータス	終了した処理の状況です。ステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">・ 正常終了・ エラー・ 警告・ 処理中
送信管理番号	送信管理番号が表示されます。 送信時: すべての送信データ内における固有な管理番号です。 受信時: 送信側で付番された管理番号です。
受信管理番号	受信管理番号が表示されます。 すべての受信データ内における固有な管理番号です。
エラーコード	エラーコードが表示されます。
メッセージ	ステータスが「エラー」または「警告」の場合にメッセージが表示されます。ステータスが「正常」の場合には表示されません。

[詳細情報]タブには送受信データの詳細情報が表示されます。

表 4-22 送受信データ詳細情報内容

項目名	内容
集信データファイル名	送信時:業務システムから集信したファイルの名前が表示されます。 受信時:空白で表示されます。
データ作成日時	送信時:業務システムで作成された日時が表示されます。 受信時:送信者側で作成された日時が表示されます。
管理番号	送信時:業務システム内の管理番号が表示されます。 受信時:空白で表示されます。
得意先コード	送信時:標準ヘッダで指定されている得意先コードが表示されます。 受信時:空白で表示されます。
得意先名称	送信時:標準ヘッダで指定されている得意先名称が表示されます。 受信時:空白で表示されます。
件名	送信時:標準ヘッダで指定されている広告取引の件名が表示されます。 受信時:空白で表示されます。
広告期間	送信時:標準ヘッダで指定されている広告期間が表示されます。 受信時:空白で表示されます。
フラットファイル	業務システムへ集配信する取引データのファイルパスが表示されます。[表示]ボタンをクリックするとファイルの内容を「ワードパッド」で表示することができます。 ※ TaskManagerを別端末から操作している場合は、[表示]ボタンは表示されません。
業務システム集配信日時	送信時:業務システムから集信された日時が表示されます。 受信時:業務システムへ配信した日時が表示されます。
レコード数	送信時:送信データ内に含まれる明細の数が表示されます。 受信時:受信データ内に含まれる明細の数が表示されます。
レコード登録日時	レコードが作成された日時が表示されます。
レコード更新日時	レコードが更新された日時が表示されます。
再送信元管理番号	送信時:再送信データの場合は、元の送信管理番号が表示されます。 受信時:空白で表示されます。

[タブ区切りファイル作成]ボタンをクリックすると、「フラットファイル」を標準フォーマットで定義された項目単位でタブ区切りのデータに加工し、ファイルに出力します。

- ※ TaskManagerを別端末から操作している場合や該当の送受信データがエラーステータスの場合は、[タブ区切りファイル作成]ボタンは表示されません。
- ※ 出力されたタブ区切りファイルはU/Cサーバの保守機能である「クリーンアップ」、「バックアップ」の処理対象データとなりません。

表 4-23 タブ区切りファイル出力情報

	内容
ファイル出力先	タブ区切りファイルは以下フォルダに出力されます。 システムで設定されており、出力先を変更することはできません。 %UCS_HOME%\Output ¹
ファイル名	送信時:「送信管理番号」.DAT 受信時:「受信管理番号」.DAT
ファイル内の構成	1行目:標準フォーマットで定義された項目名をタブ区切りに加工した項目名ヘッダが出力されます。 2行目以降:標準フォーマットで定義された項目単位でタブ区切りに加工した取引データが出力されます。1明細ごとに改行されて出力されます。

¹「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

4.10. スケジュールの起動状況を見る

TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[スケジュール状況]アイコンをクリックすると「スケジュール状況」画面が表示されます。「スケジュール状況」画面からスケジュールの起動状況を見ることができます。

- ・ 検索条件に一致したスケジュールが一覧表示されます。
- ・ 日付が一覧表示されます。クリックすると、その日付に該当するスケジュールだけが表示されます。
- ・ [検索条件]ボタンからスケジュールの起動状況の検索条件を指定できます。
- ・ 「自動取得 する/しない」を設定できます。「する」とした場合、[メインメニュー]の[ヘルプ]で設定した「オプション設定」の間隔で画面を更新します。自動取得設定については「4.11.3表示の更新頻度を設定する」を確認してください。

表 4-24 スケジュール状況一覧内容

項目名	内容
起動状況	スケジュール起動状況がアイコンで表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・  (起動待ち) ・  (起動中) ・  (リトライ中) ・  (処理エラー) ・  (起動済み) ・  (未起動) ・  (抑止中)
予定日時	スケジュール予定時刻が表示されます。
処理	スケジュール処理の名前が表示されます。
抑止	「○」がついている処理は抑止されているスケジュールのため、実行されません。
ステータス	終了した処理のステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常終了 ・ エラー ・ 警告 ・ 処理中
実行開始日時	処理済スケジュールの場合は実行が開始された日時、実行待ちスケジュールの場合は開始予定日時が表示されます。
実行終了日時	処理済スケジュールの場合は実行が終了した日時が表示されます。実行待ちスケジュールの場合は表示されません。
トランザクションID	トランザクションIDが表示されます。

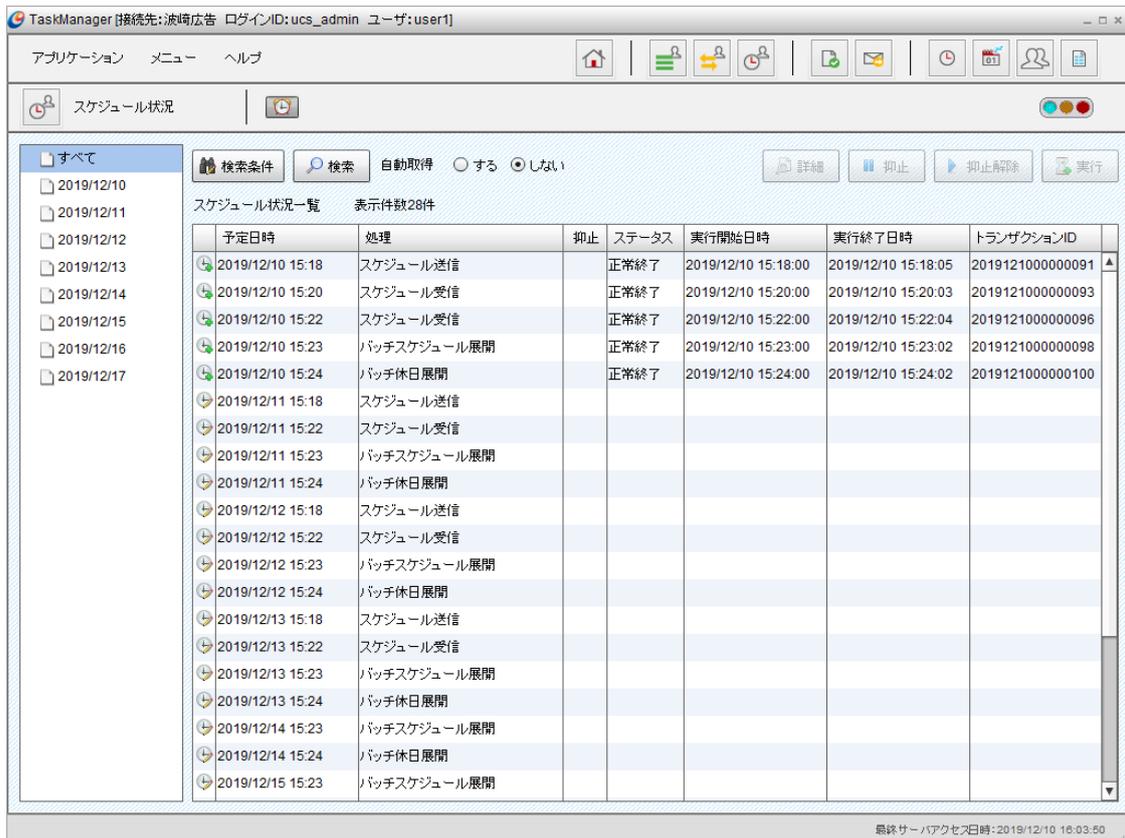


図 4-45 スケジュール状況画面

4.10.1.スケジュール状況を検索するには

1. [検索条件]ボタンをクリックすると、「スケジュール状況 (検索条件入力)」画面が表示されます。

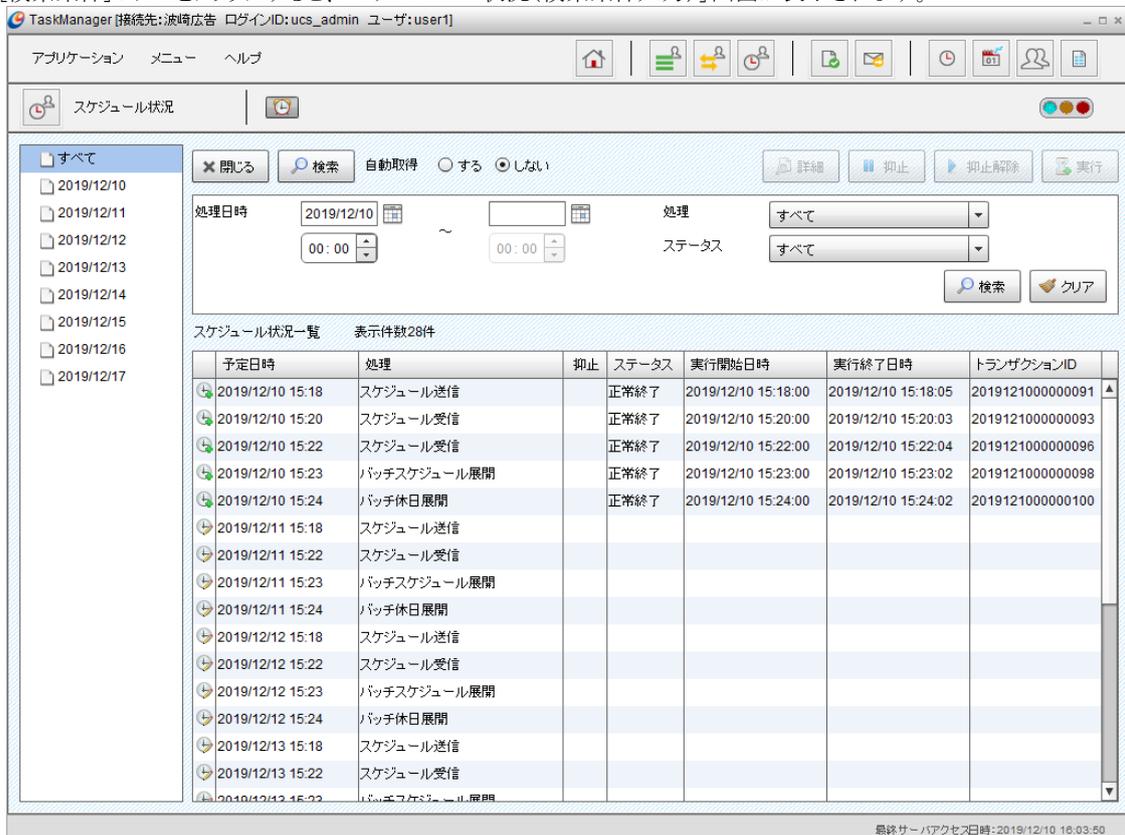


図 4-46 スケジュール状況画面 (検索条件入力)

2. 検索項目を入力します。

表 4-25 検索項目入力内容

項目名	内容
処理日時	日付範囲を指定してスケジュール状況を検索表示します。 デフォルトは「From日時」=当日0時0分、「To日時」=未設定
処理	処理を選択してください。該当処理のスケジュール状況を検索表示します。 デフォルトは「処理」=すべて <ul style="list-style-type: none">すべてスケジュール送信スケジュール受信指定プログラム実行バックアップクリーンアップバッチ休日展開バッチスケジュール展開リストアリポート
ステータス	ステータスを選択してください。該当スケジュールの起動結果のステータスを検索表示します。 デフォルトは「ステータス」=すべて <ul style="list-style-type: none">すべて正常終了エラー警告処理中

3. [検索]ボタンをクリックするとスケジュール状況一覧の表示が更新されます。
[クリア]ボタンで入力した検索条件を元に戻します。
[閉じる]ボタンで検索条件入力項目を隠すことができます。

4.10.2.スケジュール状況の詳細を見るには

1. 一覧に表示されているスケジュール状況を選択し、ダブルクリックまたは、[詳細]ボタンをクリックすると、[スケジュール状況詳細]ダイアログが表示されます。

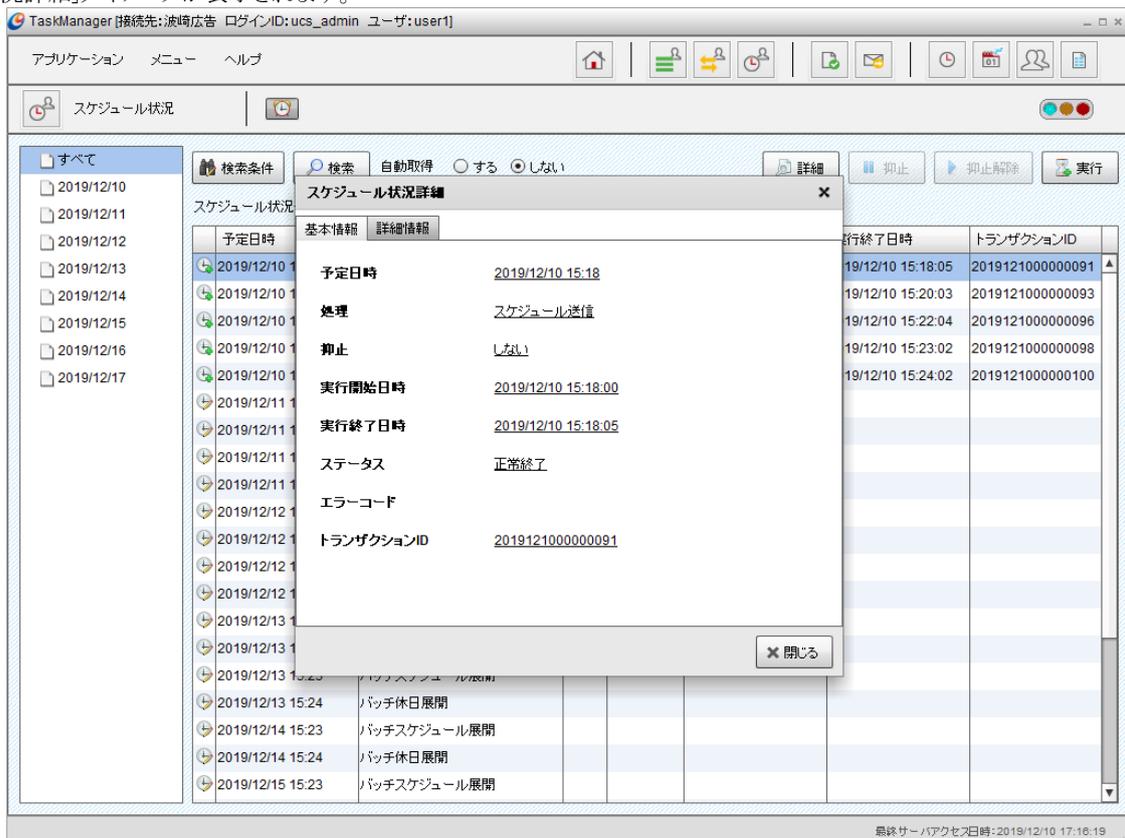


図 4-47 スケジュール状況詳細 基本情報タブ

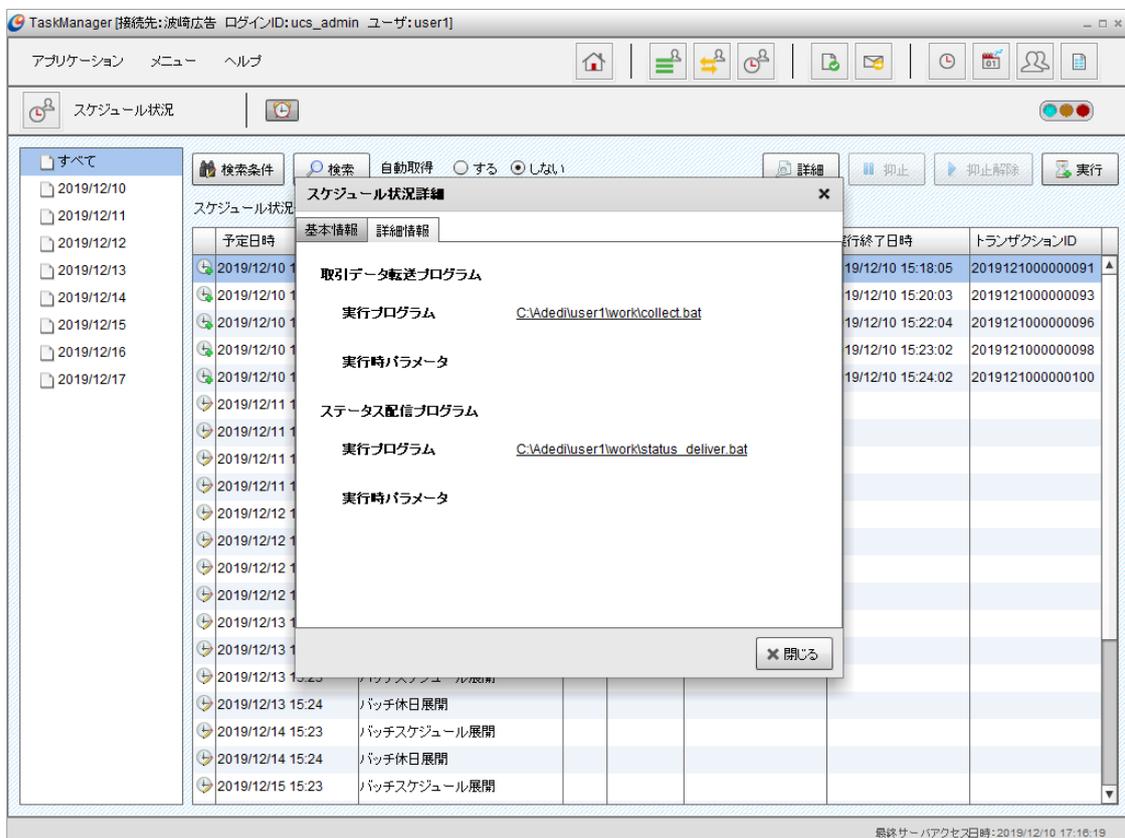


図 4-48 スケジュール状況詳細 詳細情報タブ

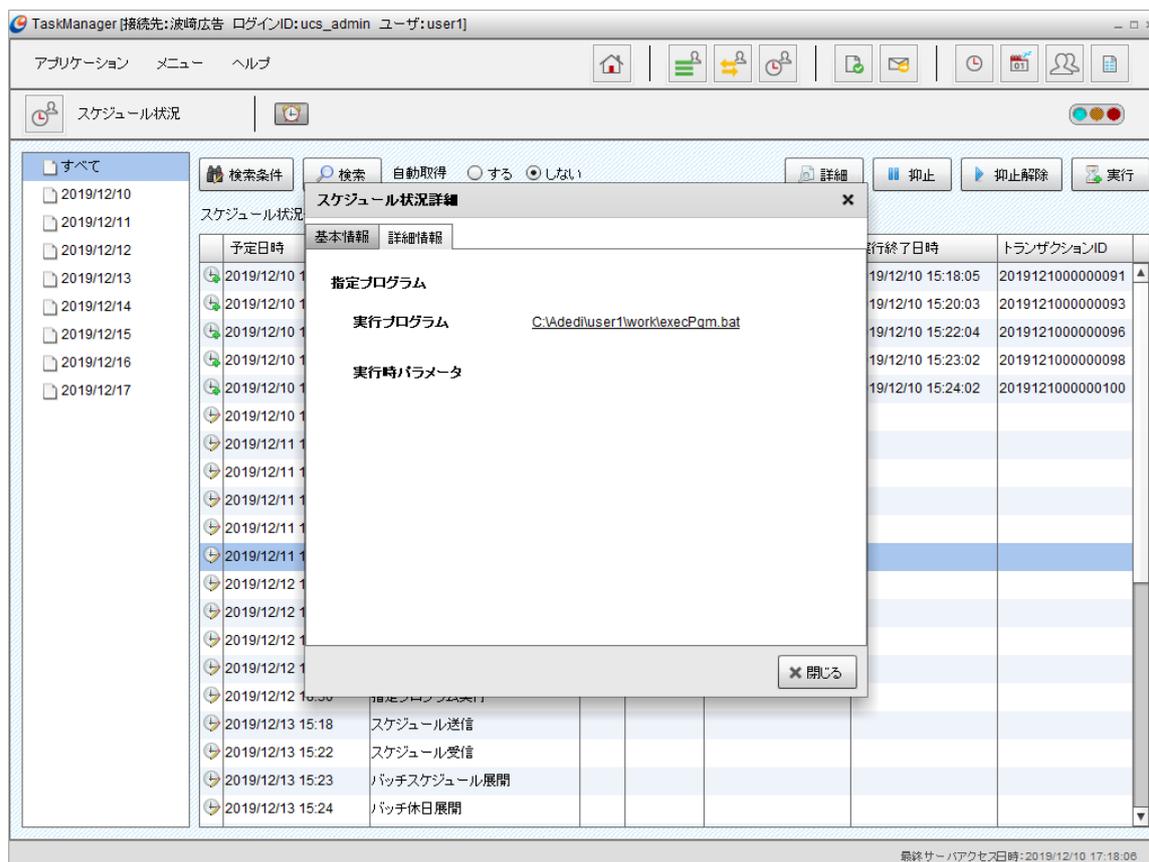


図 4-49 スケジュール状況詳細 詳細情報タブ

[基本情報]タブにはスケジュールの基本情報が表示されます。

表 4-26 スケジュール状況詳細 基本情報内容

項目名	内容
予定日時	スケジュール予定時刻が表示されます。
処理	スケジュール処理の名前が表示されます。
抑止	する:抑止されているスケジュールです。 しない:抑止されていないスケジュールです。
実行開始日時	処理済スケジュールの場合は実行が開始された日時、実行待ちスケジュールの場合は開始予定日時が表示されます。
実行終了日時	処理済スケジュールの場合は実行が終了した日時が表示されます。実行待ちスケジュールの場合は表示されません。
ステータス	終了した処理のステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常終了 ・ エラー ・ 警告 ・ 処理中
エラーコード	エラーコードが表示されます。
トランザクションID	トランザクションIDが表示されます。

[詳細情報]タブにはスケジュールの詳細情報が表示されます。

スケジュール送信処理、スケジュール受信処理、指定プログラム実行処理のスケジュールを選択した場合のみ表示されま
す。

表 4-27 スケジュール状況 詳細情報内容(送受信スケジュール選択時)

項目名	内容
ファイル転送プログラム	
実行プログラム	送信時:取引データを集信するファイル転送プログラムのプログラムファイル名が表示されます。 受信時:取引データを配信するファイル転送プログラムのプログラムファイル名が表示されます。
実行時パラメータ	送信時:取引データを集信するファイル転送プログラムに渡されるパラメータ(引数)が表示されます。 受信時: :取引データを配信するファイル転送プログラムに渡されるパラメータ(引数)が表示されます。
ステータス配信プログラム	
実行プログラム	送信及び受信時:処理結果を業務システムへ配信するファイル転送プログラムのプログラムファイル名が表示されます。
実行時パラメータ	送信及び受信時:処理結果を業務システムへ配信するファイル転送プログラムに渡されるパラメータ(引数)が表示されます。

表 4-28 スケジュール状況詳細 詳細情報内容(指定プログラム選択時)

項目名	内容
指定プログラム	
実行プログラム	実行するプログラムのプログラムファイル名が表示されます。
実行時パラメータ	実行するプログラムに渡されるパラメータ(引数)が表示されます。

4.11. TaskManagerのその他の機能

TaskManagerにはスケジュールを照会するための便利な機能やその他の機能があります。

4.11.1. 表示内容を最新の状態にする

表示されている内容が最新の状態でない場合があります。[F5]キーを押すと表示されている内容を最新の状態にすることができます。一定の間隔で最新の状態にする機能については「4.11.3.表示の更新頻度を設定する」を確認してください。

4.11.2. 未送信・未配信データ件数の自動取得

広告取引EDIシステムに未送信のデータや、業務システムに未配信のデータがあるかどうかを自動で検索し、TaskManagerの上部にメッセージを表示します。

- ・ 広告取引EDIシステムに送信されていないデータがあると「未送信データがn件あります」というメッセージが表示されます。
- ・ 業務システムに配信されていないデータがあると「未配信データがn件あります」というメッセージが表示されます。



図 4-50 未送信・未配信データ件数表示

メッセージの左にあるボタンがの状態の時は、自動検索が実行されています。ボタンがの状態の時は、自動検索が実行されません。

自動更新の間隔を変更するには、「4.11.3.表示の更新頻度を設定する」を確認してください。

4.11.3.表示の更新頻度を設定する

TaskManagerの画面のうち、「送受信データ」画面、「トランザクション」画面、「スケジュール状況」画面及び「未送信・未配信データ件数表示」は表示内容を一定間隔で自動更新することができます。

以下の手順で表示の更新頻度を設定し、画面の自動更新を開始できます。

1. [ヘルプ]の[オプション]をクリックし[オプション設定]ダイアログを表示します。

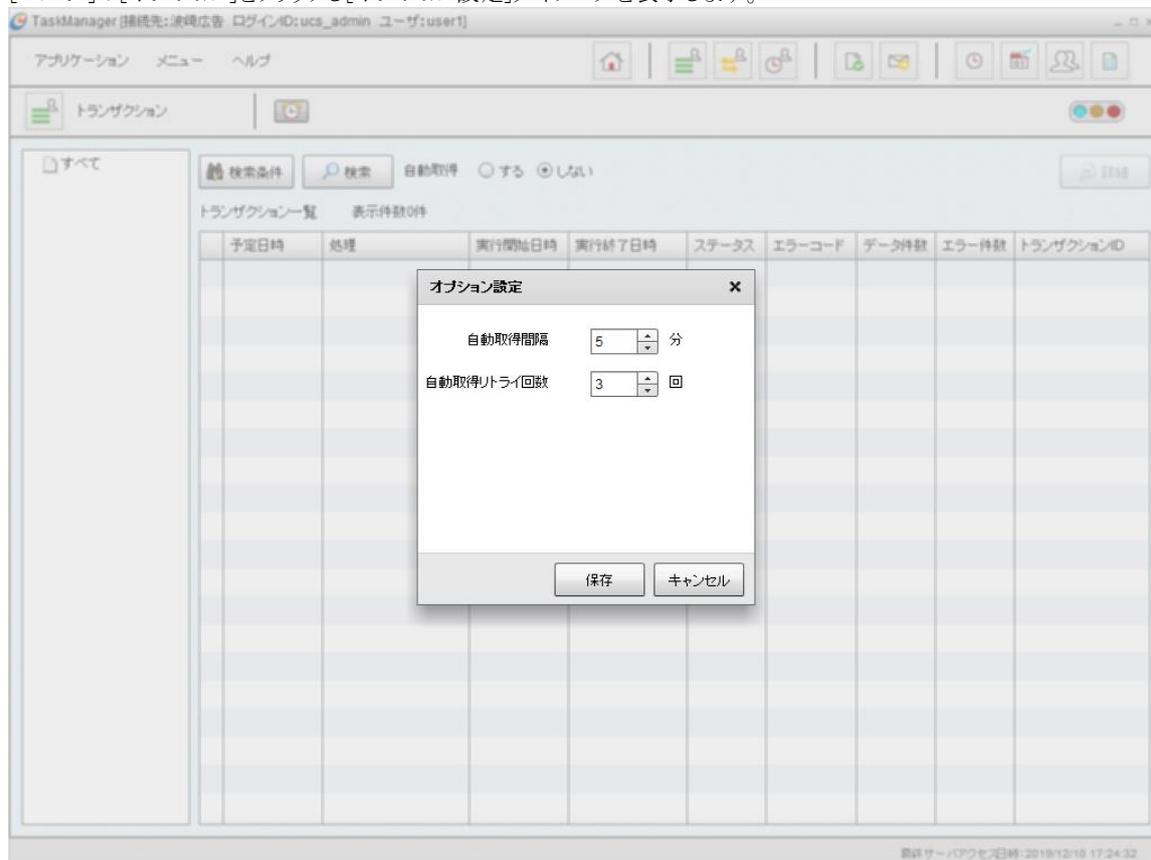


図 4-51 オプション設定ダイアログ

2. 項目を入力します。

表 4-29 項目入力内容

項目名	内容
自動取得間隔	画面情報を自動取得する間隔を分単位で入力します。
自動取得リトライ回数	自動取得に失敗した場合のリトライ回数を入力します。

3. 入力した内容で更新する場合は、[保存]ボタンをクリックします。入力した内容を破棄して更新を終了する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4. TaskManagerの「トランザクション」画面、または「送受信データ」画面、「スケジュール状況」画面で、「自動取得」を「する」にします。
通知メッセージが表示されるので、「OK」ボタンをクリックすると自動取得する状態となります。

※ リトライ回数分自動取得に失敗した場合、自動取得は「しない」設定に変わります。

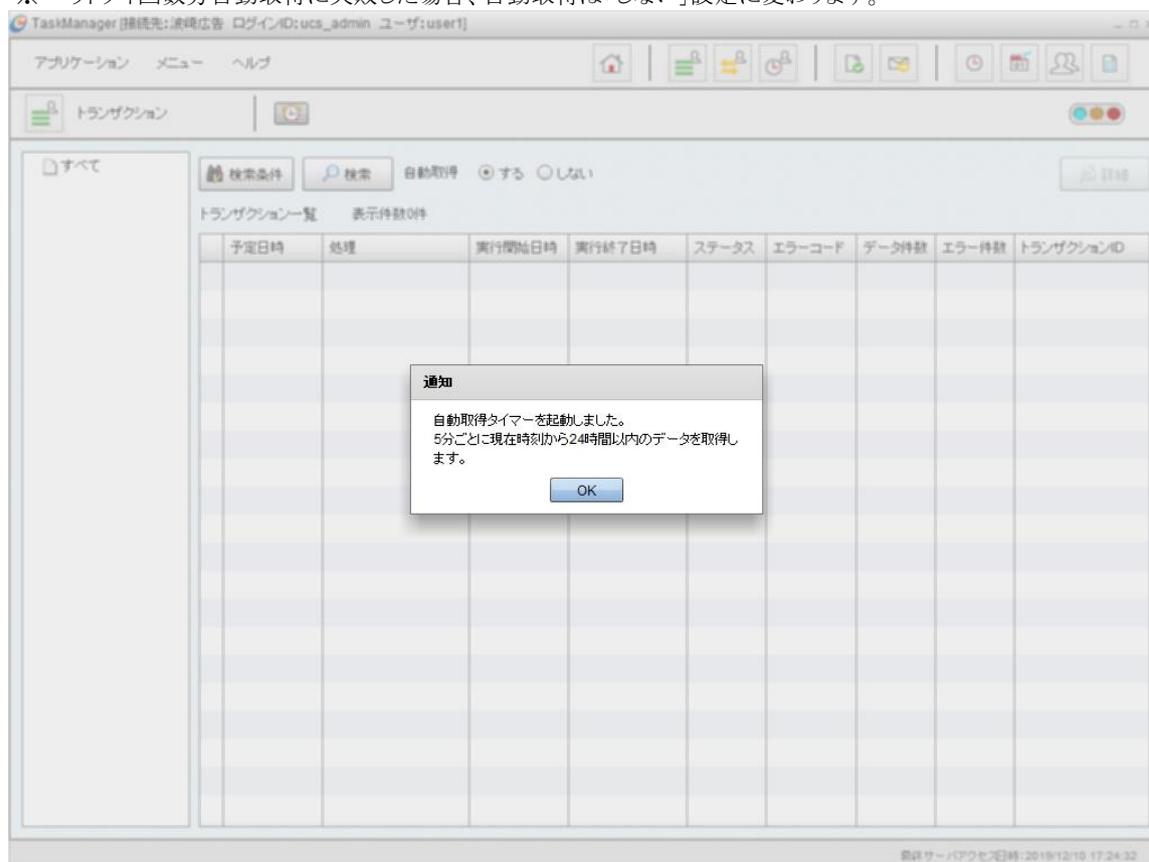


図 4-52 自動取得タイマー起動通知ダイアログ

4.11.4. データリカバリの指示

広告取引EDIシステムに未送信のデータの送信や、業務システムに未配信のデータの配信をするデータリカバリ機能の指示をTaskManagerから行うことができます。

詳しくは「6.データのリカバリ」を確認してください。

4.11.5. システム保守

不要な送受信データの削除や、スケジュールの一時的な抑止をTaskManagerから行うことができます。詳しくは「7.システム保守」を確認してください。

5. スケジュールの起動と停止

スケジュールにはU/Cサーバの保守機能を実行するシステムスケジュールと、ユーザ別を送受信処理を実行するユーザスケジュールがあります。

5.1. システムスケジュール

システムスケジュールはU/Cサーバの保守機能のスケジュールです。各機能のスケジュール設定方法は、「3.8. システムスケジュール設定」を確認してください。システムスケジュールはSystemManagerから起動、停止できます。



図 5-1 SystemManager メインメニュー画面

5.1.1. システムスケジュールを起動するには

1. システムスケジュールの現在の状態がSystemManagerの画面右上の[スケジュール信号]アイコンで表示されています。システムスケジュールが停止している場合は  となっています。¹
2.  アイコンをクリックするか、またはツールバーの「メニュー」から「スケジューラ」>「スケジューラ起動」を選択すると、アイコンの状態が  となりシステムスケジュールが起動された状態になります。²

5.1.2. システムスケジュールを停止するには

1. システムスケジュールの現在の状態がSystemManagerの画面右上の[スケジュール信号]アイコンで表示されています。システムスケジュールが起動されている場合は  となっています。
2.  アイコンをクリックするか、またはツールバーの「メニュー」から「スケジューラ」>「スケジューラ停止」を選択すると、アイコンの状態が  となりシステムスケジュールが停止された状態になります。

¹ アイコンにカーソルを合わせることでメッセージの確認ができます。

停止中は、スケジューラ停止中。クリックするとスケジューラを起動します。 というメッセージが表示されます。

² アイコンにカーソルを合わせることでメッセージの確認ができます。

起動中は、スケジューラ起動中。クリックするとスケジューラを停止します。 というメッセージが表示されます。

5.2. ユーザスケジュール

ユーザスケジュールは各ユーザにて登録されている送受信処理のスケジュールです。スケジュール設定方法は、「4.7. スケジュール情報の設定」を確認してください。

ユーザスケジュールは各ユーザのTaskManagerから起動、停止できます。

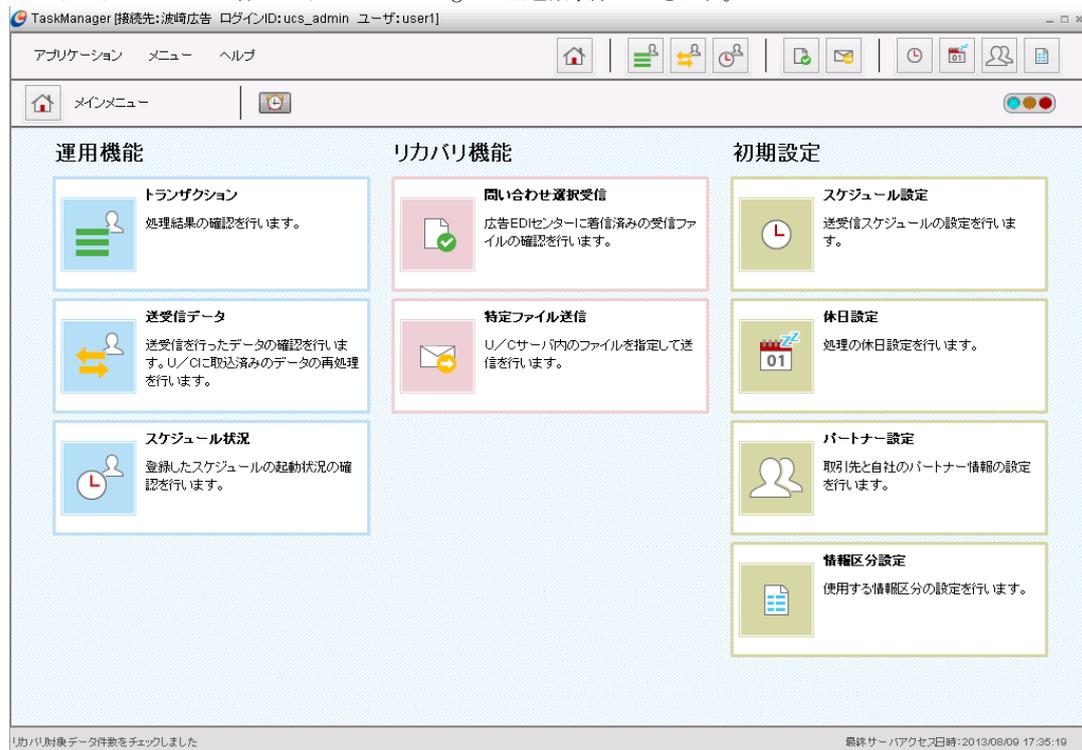


図 5-2 TaskManager メインメニュー画面

5.2.1. ユーザスケジュールを起動するには

1. ユーザスケジュールの現在の状態がTaskManagerの画面右上の[スケジュール信号]アイコンで表示されています。ユーザスケジュールが停止している場合は  となっています。¹
2.  アイコンをクリックするか、またはツールバーの「メニュー」から「スケジューラ」>「スケジューラ起動」を選択すると、アイコンの状態が  となりユーザスケジュールが開始された状態になります。²

5.2.2. ユーザスケジュールを停止するには

1. ユーザスケジュールの現在の状態がTaskManagerの画面右上のスケジュール信号アイコンで表示されています。ユーザスケジュールが起動されている場合は  となっています。
2.  アイコンをクリックするか、またはツールバーの「メニュー」から「スケジューラ」>「スケジューラ停止」を選択すると、アイコンの状態が  となりユーザスケジュールが停止された状態になります。

¹ アイコンにカーソルを合わせることでメッセージの確認ができます。

停止中は、 スケジューラ停止中。クリックするとスケジューラを起動します。 というメッセージが表示されます。

² アイコンにカーソルを合わせることでメッセージの確認ができます。

起動中は、 スケジューラ起動中。クリックするとスケジューラを停止します。 というメッセージが表示されます。

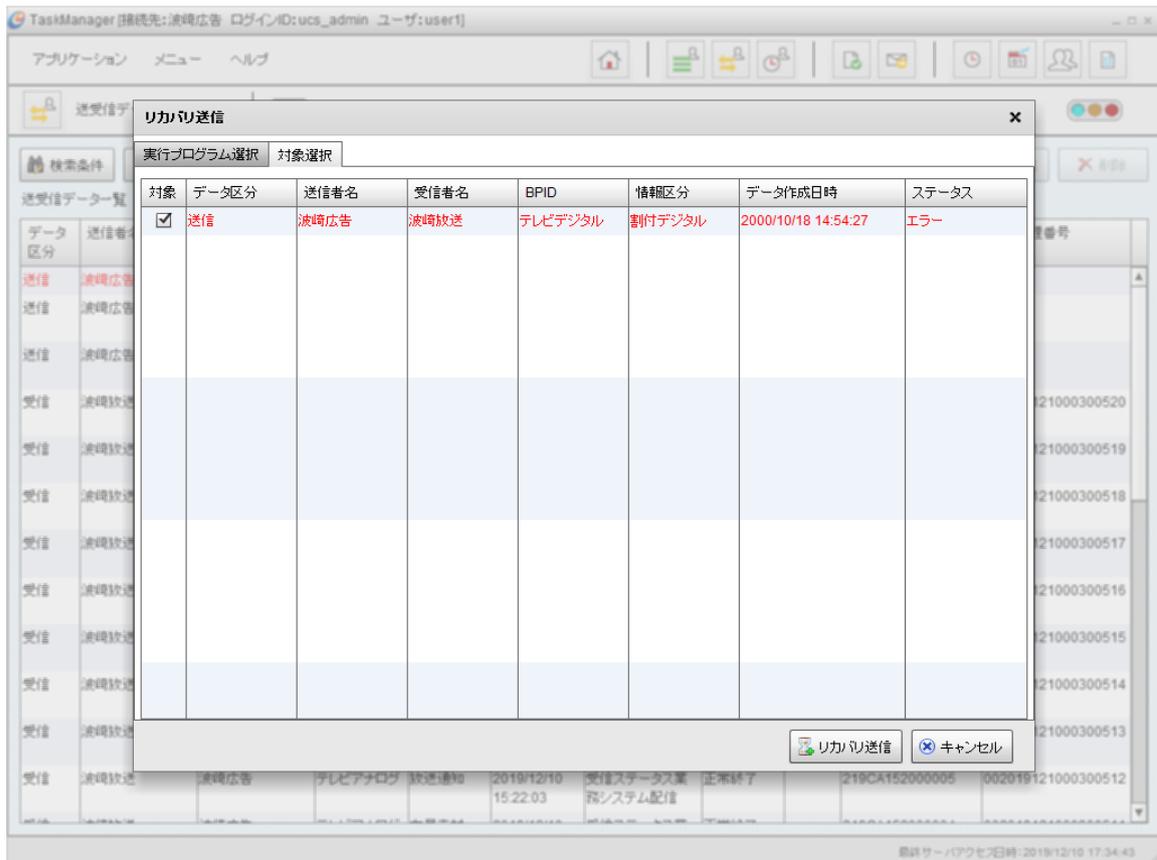


図 6-3 リカバリ送信ダイアログ 対象選択タブ

- 項目を入力します。

表 6-1 リカバリ送信入力内容

項目名	内容
実行プログラム選択	
ステータス配信	「する」の場合、リカバリ送信の処理結果を、選択したステータス配信プログラムで業務システムに配信します。 「しない」の場合、処理結果の配信は行いません。
送信スケジュール一覧	「ステータス配信」を「する」の場合、一覧からステータス配信プログラムを選択します。表示されている時刻はスケジュールの時刻で、処理には関係ありません。選択したステータス配信プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータが画面下側に表示されます。
対象選択	
対象	リカバリ送信する送信データにチェックしてください。

- 処理を実行する場合は[リカバリ送信]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。



- ポップアップの「データを表示する」をクリックすると、TaskManagerの「送受信データ」画面にリカバリ送信の対象データが表示されます。

※ 通常のデータを表示させたい場合は「4.9.1.送受信データを検索するには」を確認してください。

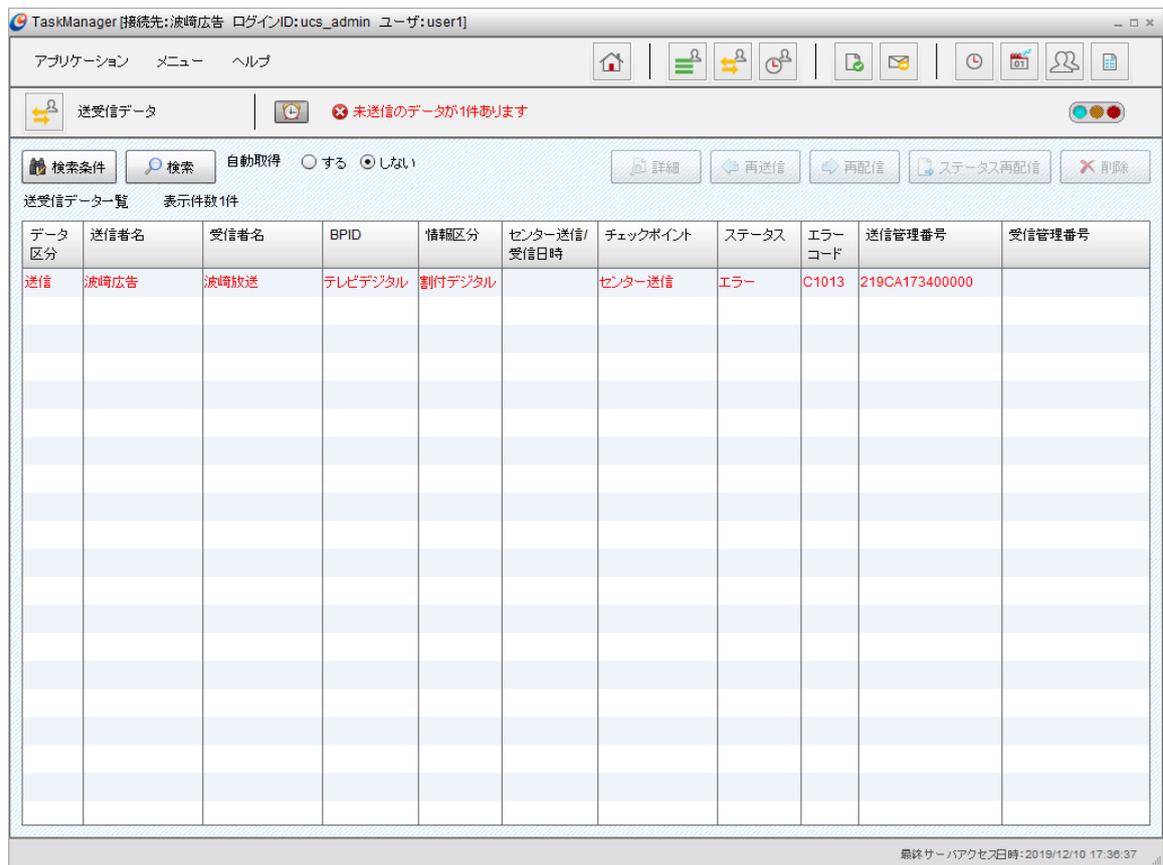


図 6-4 送受信データ一覧画面(リカバリ送信対象)

- ※ 広告取引EDIシステム内でエラーになったデータは、リカバリ送信対象外となり、リカバリ送信することができません。該当するデータの内容を確認頂き、再度、手動送信またはスケジュール送信処理を行ってください。

6.2. 業務システムにデータが配信されなかったとき

エラーの原因を解決後、業務システムに配信されていないものをすべて配信するのが「リカバリ配信」です。業務システムに配信されていないデータがあるとTaskManagerにメッセージが表示されます。

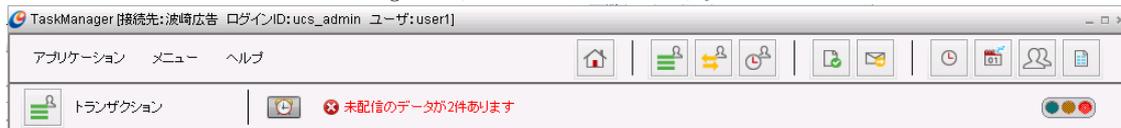


図 6-5 未配信データメッセージ

1. **未配信のデータが2件あります** をクリックします。

2. **リカバリ配信** をクリックすると、ポップアップの「リカバリ配信」が表示されます。

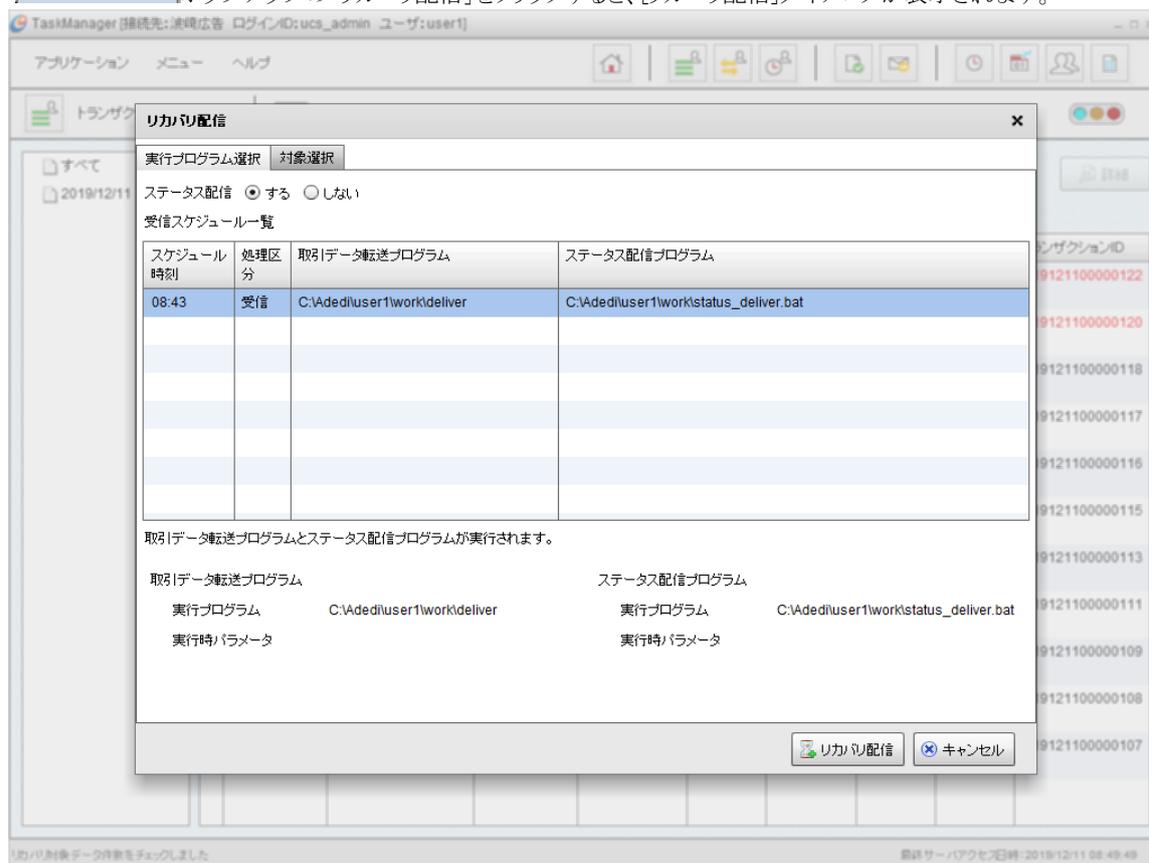


図 6-6 リカバリ配信ダイアログ 実行プログラム選択タブ

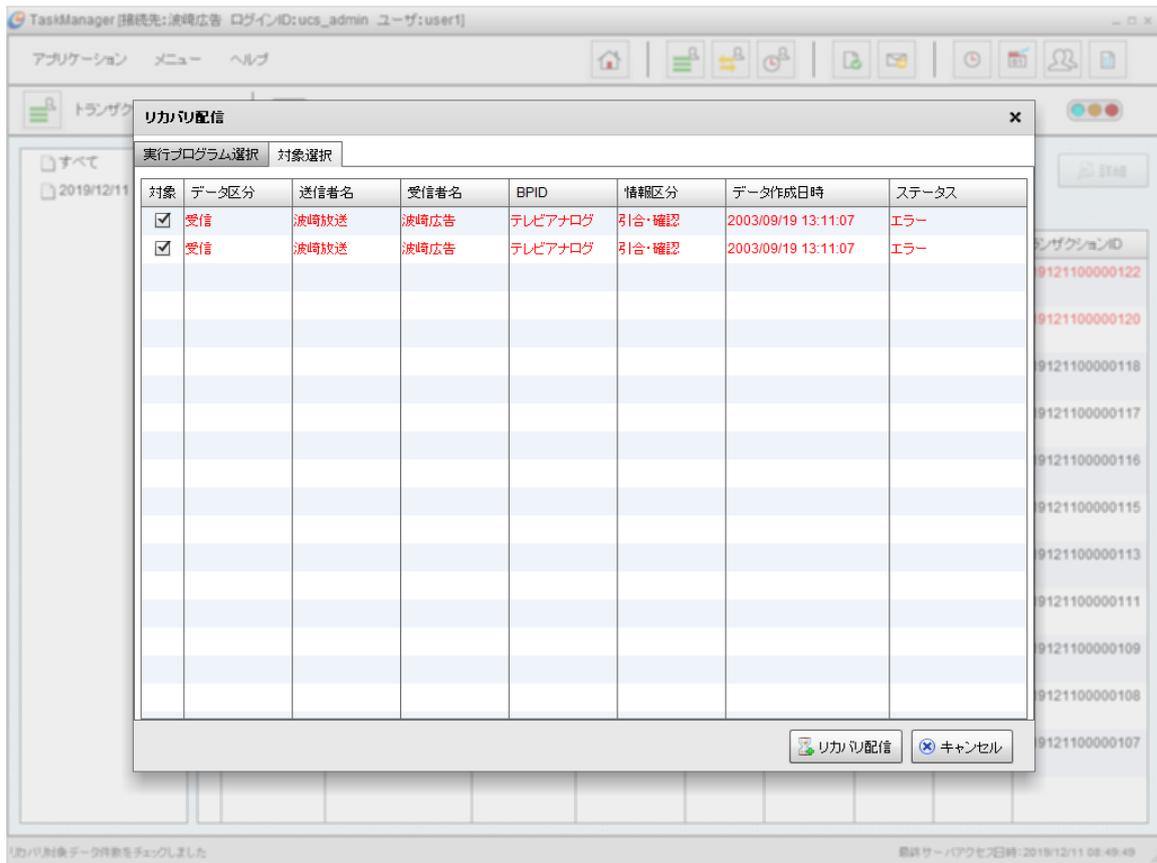


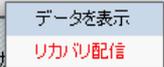
図 6-7 リカバリ配信ダイアログ 対象選択タブ

- 項目を入力します。

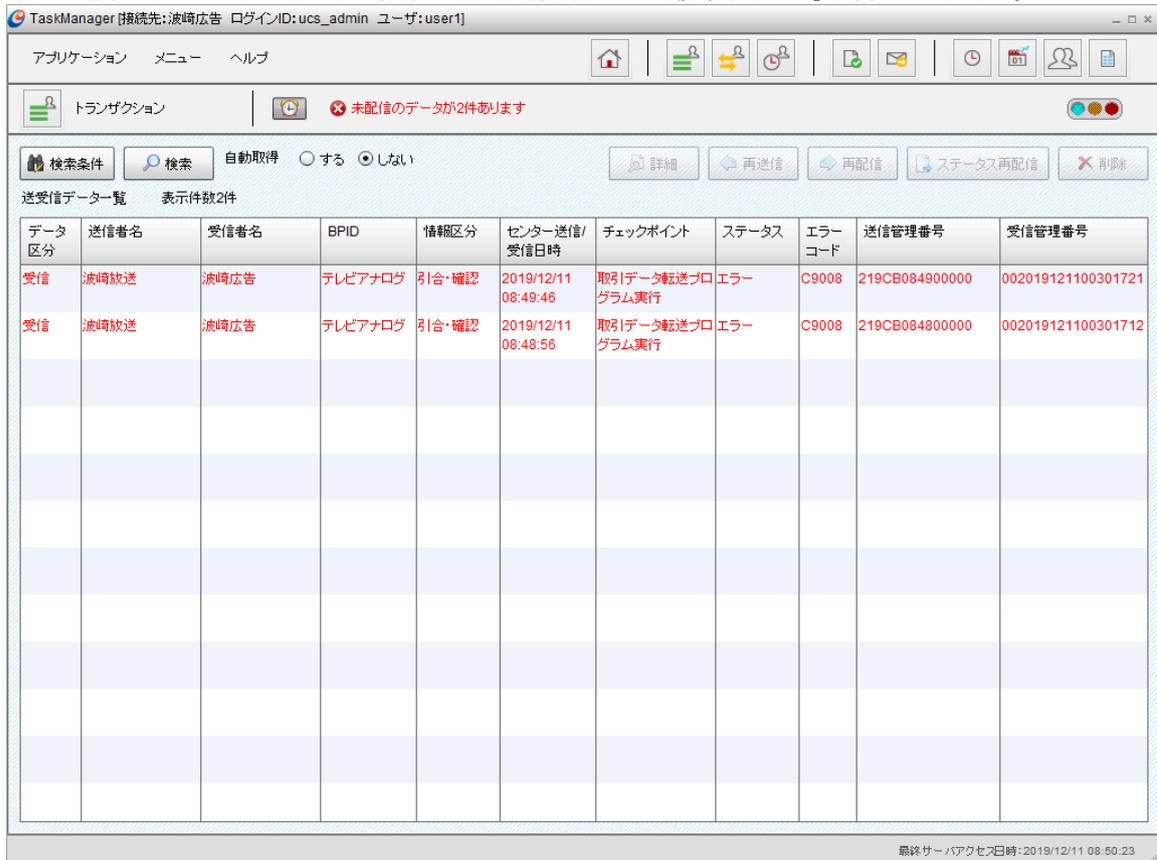
表 6-2 リカバリ配信入力内容

項目名	内容
実行プログラム選択	
ステータス配信	「する」の場合、リカバリ配信の処理結果を、選択したステータス配信プログラムで業務システムに配信します。 「しない」の場合、処理結果の配信は行いません。
受信スケジュール一覧	<ul style="list-style-type: none"> 一覧からデータ転送プログラムを選択します。表示されている時刻はスケジュールの時刻で、処理には関係ありません。 選択した取引データ転送プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータ及び、ステータス配信プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータが表示されます。
対象選択	
対象	リカバリ配信する受信データにチェックしてください。

- 処理を実行する場合は[リカバリ配信]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

5.  ポップアップの「データを表示」をクリックすると、TaskManagerのデータビューにリカバリ配信の対象データが表示されます。

※ 通常のデータを表示させたい場合は「4.9.1.送受信データを検索するには」を確認してください。



The screenshot shows the TaskManager interface with a table of transmission data. The table has 11 columns: Data Category, Sender Name, Receiver Name, BPID, Information Category, Center Transmission/Reception Time, Checkpoint, Status, Error Code, Transmission Management Number, and Reception Management Number. Two rows are visible, both with a status of 'Error' (エラー) and error code 'C9008'. The first row shows a transmission error at 2019/12/11 08:49:46, and the second row shows a program execution error at 2019/12/11 08:48:56. A notification at the top of the table area indicates '2 items of data not transmitted' (未配信のデータが2件あります).

データ区分	送信者名	受信者名	BPID	情報区分	センター送信/受信日時	チェックポイント	ステータス	エラーコード	送信管理番号	受信管理番号
受信	波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	引合・確認	2019/12/11 08:49:46	取引データ転送プログラム実行	エラー	C9008	219CB084900000	002019121100301721
受信	波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	引合・確認	2019/12/11 08:48:56	取引データ転送プログラム実行	エラー	C9008	219CB084800000	002019121100301712

図 6-8 送受信データ一覧画面(リカバリ配信対象)

6.3.EDIデータを広告取引EDIシステムに再送信したいとき

送信相手から再度データを送信して欲しいなどの要求があった場合に使用するのが「再送信」です。再送信は一度、広告取引EDIシステムに送信されているデータのみが対象となります。

- TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[送受信データ]アイコンをクリックして「送受信データ」画面を表示します。対象となる送信データを選択します。複数のデータを選択することができます。

送受信データ一覧 表示件数3件

データ区分	送信者名	受信者名	BPID	情報区分	センター送信/受信日時	チェックポイント	ステータス	エラーコード	送信管理番号	受信管理番号
送信	波崎広告	波崎放送	テレビデジタル	割付デジタル		センター送信	エラー	C1013	219CA173400000	
送信	波崎広告	波崎放送	テレビデジタル	割付デジタル	2019/12/10 15:18:04	送信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA151800011	
送信	波崎広告	波崎放送	テレビデジタル	引合デジタル	2019/12/10 15:18:04	送信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA151800010	

最終サーバアクセス日時:2019/12/10 17:39:22

図 6-9 送受信データ一覧画面(再送信選択)

3. 項目を入力します。

表 6-3 再送信入力内容

項目名	内容
実行プログラム選択	
ステータス配信	「する」の場合、再送信の処理結果を、選択したステータス配信プログラムで業務システムに配信します。 「しない」の場合、処理結果の配信は起こりません。
送信スケジュール一覧	「ステータス配信」を「する」の場合、一覧からステータス配信プログラムを選択します。表示されている時刻はスケジュールの時刻で、処理には関係ありません。選択したステータス配信プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータが表示されます。
対象選択	
対象	再送信する送信データにチェックしてください。

4. 処理を実行する場合は[再送信]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

6.4. EDIデータを業務システムに再配信したいとき

業務システムから再度データを配信して欲しいなどの要求があった場合に使用するのが「再配信」です。再配信は一度、業務システムに配信されているデータのみが対象となります。

- TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[送受信データ]アイコンをクリックして「送受信データ」画面を表示します。対象となる受信データを選択します。複数のデータを選択することができます。

データ区分	送信者名	受信者名	BPID	情報区分	センター送信/受信日時	チェックポイント	ステータス	エラーコード	送信管理番号	受信管理番号
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	移動理由デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000008	002019121000300515
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	局案デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000007	002019121000300514
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	引合・確認デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000006	002019121000300513

図 6-12 送受信データ一覧画面(再配信選択)

2. [再配信]ボタンをクリックすると[再配信]ダイアログが表示されます。

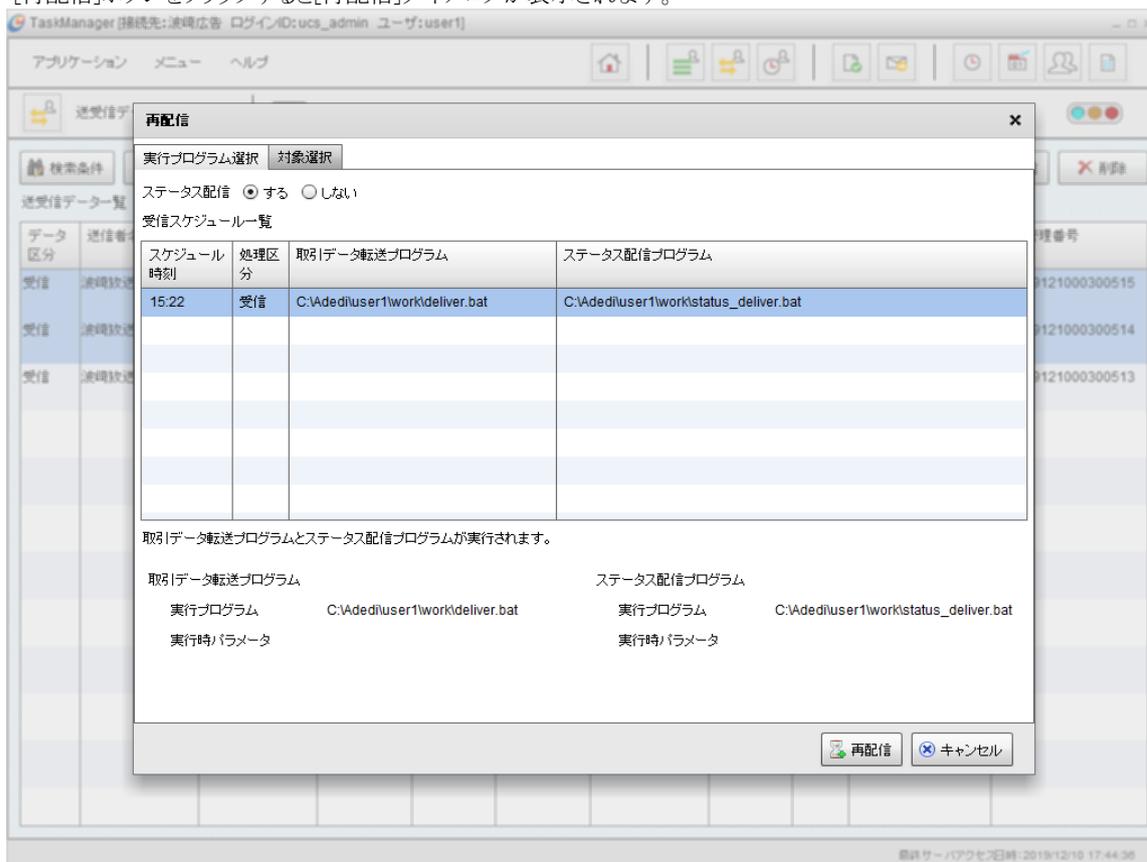


図 6-13 再配信ダイアログ 実行プログラム選択タブ

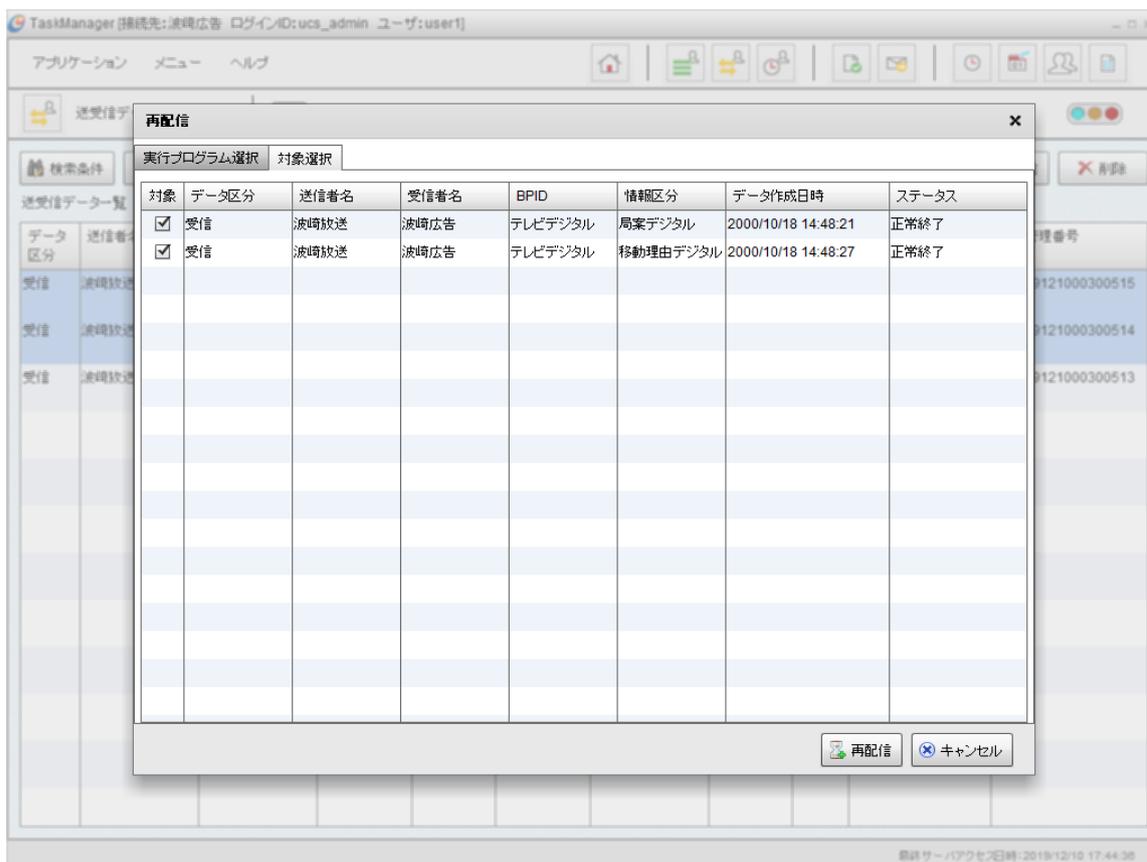


図 6-14 再配信ダイアログ 対象選択タブ

3. 項目を入力します。

表 6-4 再配信入力内容

項目名	内容
実行プログラム選択	
ステータス配信	「する」の場合、再配信の処理結果を、選択したステータス配信プログラムで業務システムに配信します。 「しない」の場合、処理結果の配信は行いません。
受信スケジュール一覧	一覧から取引データ転送プログラムを選択します。表示されている時刻はスケジュールの時刻で、処理には関係ありません。 選択した取引データ転送プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータ及び、ステータス配信プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータが表示されます。
対象選択	
対象	再配信する受信データにチェックしてください。

4. 処理を実行する場合は[再配信]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

6.5.送受信処理の結果を業務システムに再通知したいとき

業務システムに送受信処理の結果を再度、通知する必要がある場合に使用するのが「ステータス再配信」です。

1. TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[送受信データ]アイコンをクリックして「送受信データ」画面を表示します。対象となる送受信データを選択します。複数のデータを選択することができます。

TaskManager [接続先:波崎広告 ログインID:ucs_admin ユーザ:user1]

アプリケーション メニュー ヘルプ

送受信データ 未送信のデータが1件あります

検索条件 検索 自動取得 する しない

詳細 再送信 再配信 ステータス再配信 削除

送受信データ一覧 表示件数16件

データ区分	送信者名	受信者名	BPID	情報区分	センター送信/受信日時	チェックポイント	ステータス	エラーコード	送信管理番号	受信管理番号
送信	波崎広告	波崎放送	テレビアナログ	引合	2019/12/10 15:24:05	送信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152400000	
送信	波崎広告	波崎新聞	新聞広告11	申込・新規	2019/12/10 15:23:58	送信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152300000	
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	放送通知デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000013	002019121000300520
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	在局素材デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000012	002019121000300519
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	枠確認デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000011	002019121000300518
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	移動枠デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000010	002019121000300517
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	移動備考デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000009	002019121000300516
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	移動理由デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000008	002019121000300515
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	局案デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000007	002019121000300514
受信	波崎放送	波崎広告	テレビデジタル	引合・確認デジタル	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000006	002019121000300513
受信	波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	放送通知	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000005	002019121000300512
受信	波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	在局素材	2019/12/10 15:22:03	受信ステータス業務システム配信	正常終了		219CA152000004	002019121000300511

最終サーバアクセス日時:2019/12/10 17:48:09

図 6-15 送受信データ一覧画面(ステータス再配信選択)

2. [ステータス再配信]ボタンをクリックすると[ステータス再配信]ダイアログが表示されます。

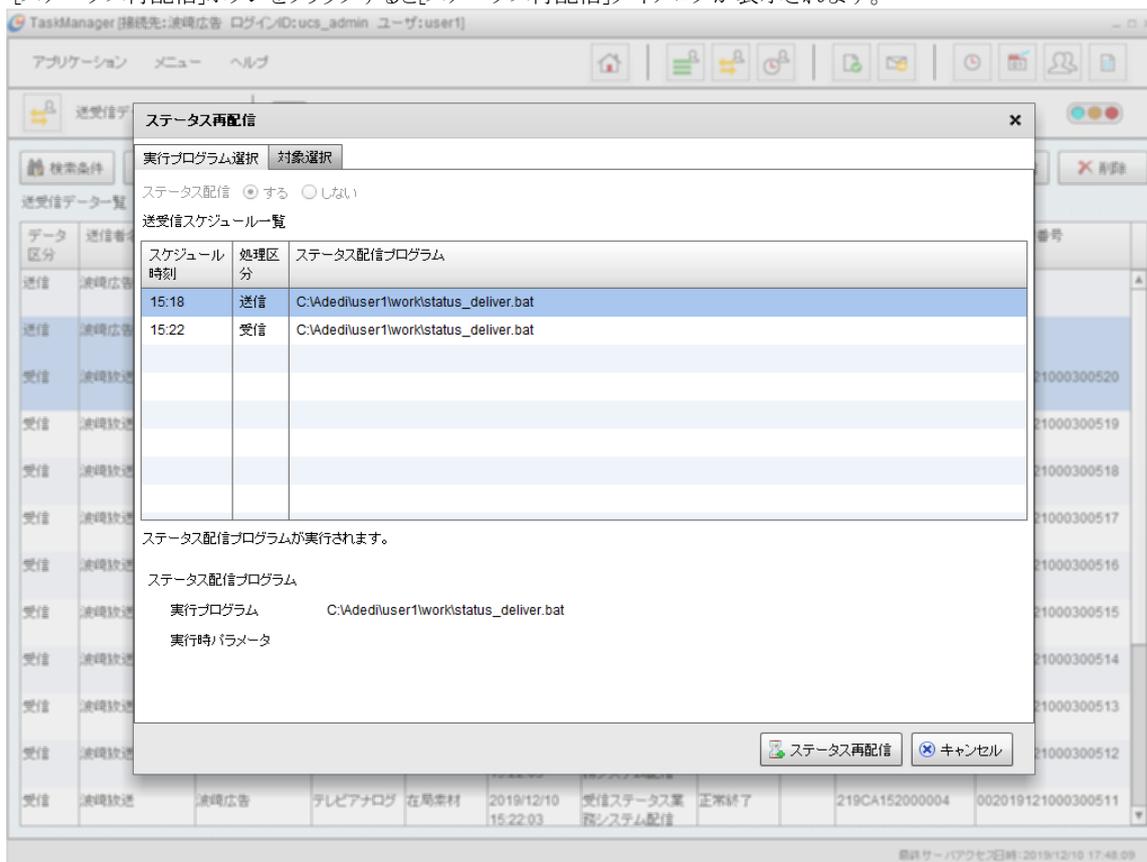


図 6-16 ステータス再配信ダイアログ 実行プログラム選択タブ

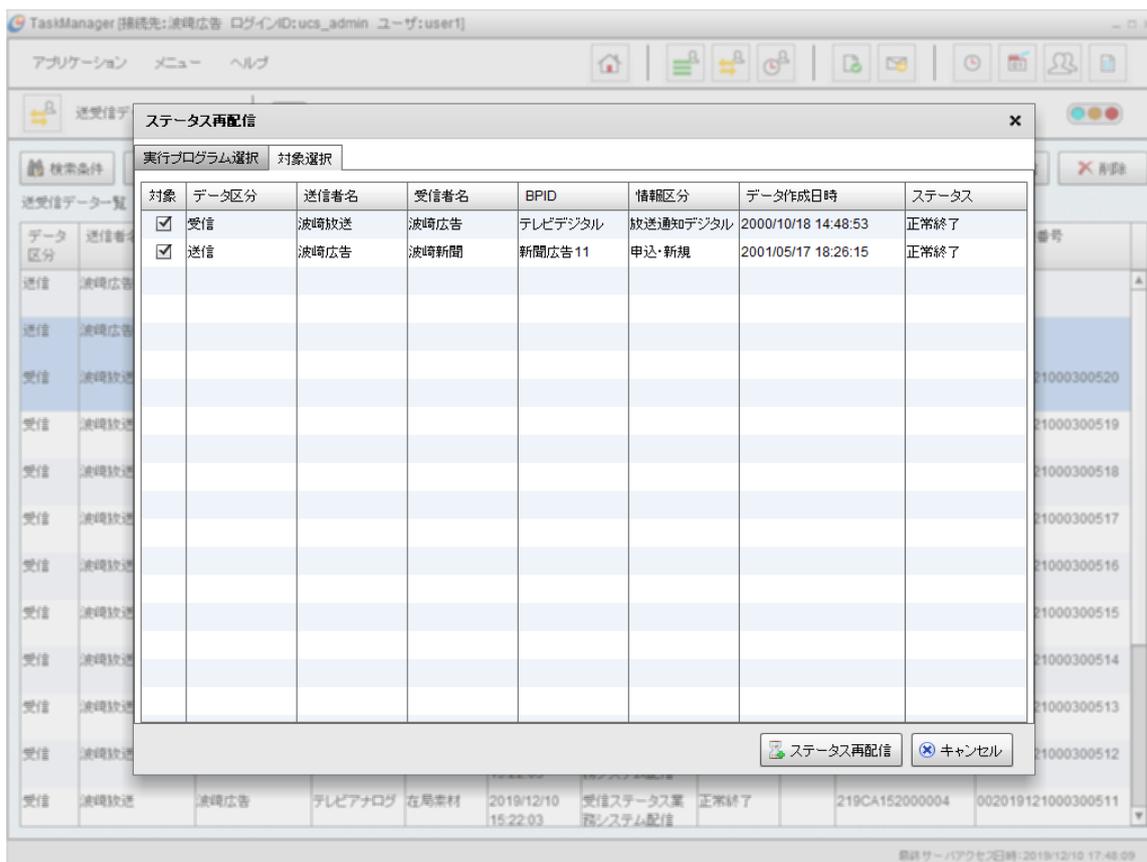


図 6-17 ステータス再配信ダイアログ 対象選択タブ

3. 項目を入力します。

表 6-5 ステータス再配信入力内容

項目名	内容
実行プログラム選択	
ステータス配信	「する」固定です。選択したステータス配信プログラムで処理結果を業務システムに配信します。
送受信スケジュール一覧	一覧からステータス配信プログラムを選択します。表示されている時刻はスケジュールの時刻で、処理には関係ありません。 選択したステータス配信プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータが表示されます。
対象選択	
対象	ステータス再配信する送受信データにチェックしてください。

4. 処理を実行する場合は[ステータス再配信]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

6.6. 送受信スケジュールを緊急に実行したいとき

登録されているスケジュールを緊急で実行したい場合に使用するのが、「手動スケジュール実行」です。スケジュールを選択して手動で実行します。スケジュール時刻による制限はありません。

以下の様な場合において、スケジュールの「手動スケジュール実行」を行います。

- ・ 業務システムからデータを集信し、広告取引EDIシステムへの送信を緊急に実行したい場合
- ・ 広告取引EDIシステムからデータを受信し、業務システムへの配信を緊急に実行したい場合
- ・ 指定プログラムを緊急に実行したい場合

1. TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[スケジュール状況]アイコンをクリックして、「スケジュール状況」画面を表示します。

予定日時	処理	抑止	ステータス	実行開始日時	実行終了日時	トランザクションID
2019/12/10 15:18	スケジュール送信		正常終了	2019/12/10 15:18:00	2019/12/10 15:18:05	2019121000000091
2019/12/10 15:20	スケジュール受信		正常終了	2019/12/10 15:20:00	2019/12/10 15:20:03	2019121000000093
2019/12/10 15:22	スケジュール受信		正常終了	2019/12/10 15:22:00	2019/12/10 15:22:04	2019121000000096
2019/12/10 15:23	バッチスケジュール展開		正常終了	2019/12/10 15:23:00	2019/12/10 15:23:02	2019121000000098
2019/12/10 15:24	バッチ休日展開		正常終了	2019/12/10 15:24:00	2019/12/10 15:24:02	2019121000000100
2019/12/10 18:30	指定プログラム実行					
2019/12/11 15:18	スケジュール送信					
2019/12/11 15:22	スケジュール受信					
2019/12/11 15:23	バッチスケジュール展開					
2019/12/11 15:24	バッチ休日展開					
2019/12/11 18:30	指定プログラム実行					
2019/12/12 15:18	スケジュール送信					
2019/12/12 15:22	スケジュール受信					
2019/12/12 15:23	バッチスケジュール展開					
2019/12/12 15:24	バッチ休日展開					
2019/12/12 18:30	指定プログラム実行					
2019/12/13 15:18	スケジュール送信					
2019/12/13 15:22	スケジュール受信					
2019/12/13 15:23	バッチスケジュール展開					
2019/12/13 15:24	バッチ休日展開					

図 6-18 スケジュール状況画面(選択)

- 一覧に表示されているスケジュール情報を選択後[実行]ボタンをクリックし、[スケジュール実行]ダイアログを表示します。

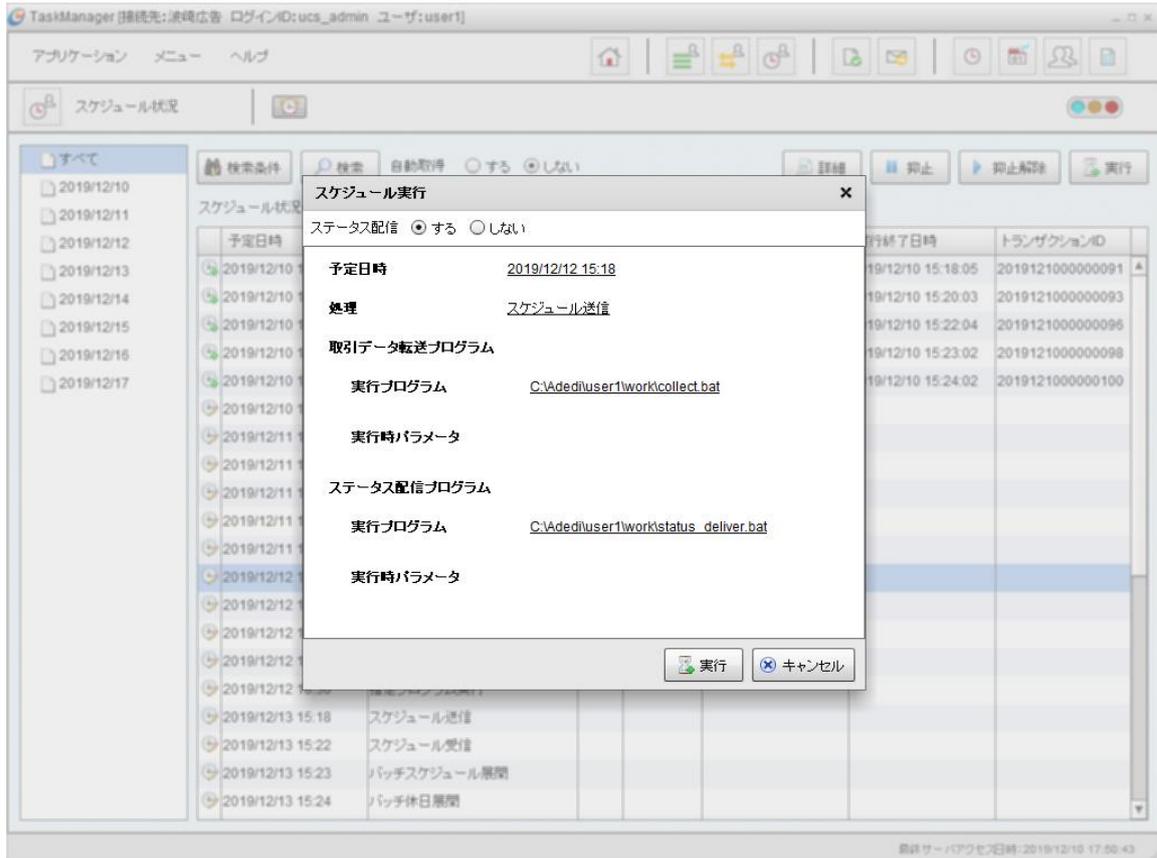


図 6-19 スケジュール実行ダイアログ

- 項目を入力します。

表 6-6 スケジュール実行入力内容

項目名	内容
ステータス配信	「する」の場合、スケジュール実行の処理結果を業務システムに配信します。ステータス配信プログラムと配信先の業務システムは選択したスケジュールに登録されているものを使用します。 「しない」の場合、処理結果の配信は行いません。 なお、指定プログラム実行はステータス配信を行いません。

- 処理を実行する場合は[実行]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

6.7.特定のデータファイルを送信したいとき

「特定ファイル送信」は業務システムから取引データを集信しないで、特定のファイルを送信することができます。送信できるファイルはコンピューターの読み取り可能なディスクドライブに存在するフラット形式のデータ¹です。ただし、一度に送信指示ができるのはひとつのファイルだけです。

1. TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[特定ファイル送信]アイコンをクリックすると、「特定ファイル送信」画面が表示されます。

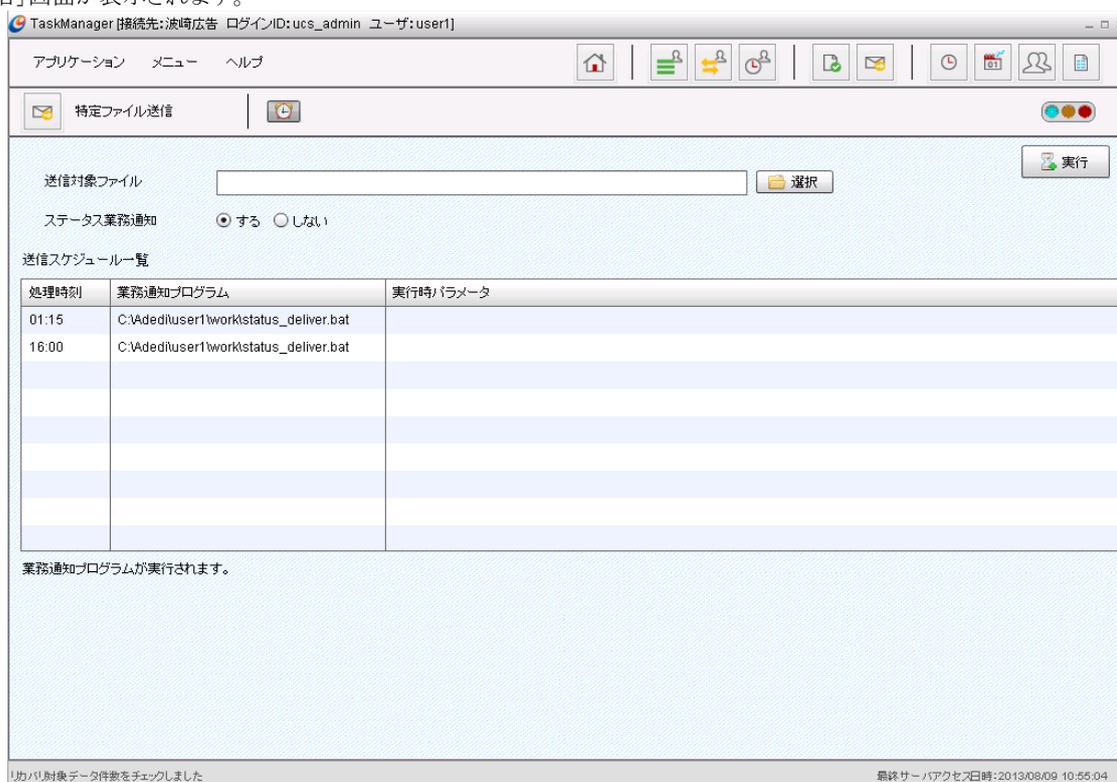


図 6-20 特定ファイル送信画面

2. 項目を入力します。

表 6-7 項目入力内容

項目名	内容
送信対象ファイル	送信するファイル名を入力します。[選択]ボタンをクリックするとファイル選択画面が表示されます。
ステータス配信	「する」の場合、特定ファイル送信の処理結果を、選択したステータス配信プログラムで業務システムに配信します。 「しない」の場合、処理結果の配信は行いません。

3. 処理を実行する場合は[実行]ボタンをクリックしてください。

¹ フラット形式のデータとは広告業協会が定めている標準フォーマットに準拠したデータに、U/Cサーバで送受信するための標準ヘッダを付加したデータです。標準ヘッダの内容については別紙「U/Cサーバ 業務システム間転送プログラム仕様書」を確認してください。

6.8. 特定のEDIデータを再度受信したいとき

「問い合わせ選択受信」は広告取引EDIシステムのメールボックスに到着している自社宛のデータを選択して受信することができます。相手側からの要求等で緊急に特定のデータを確認する場合や、受信する場合に使用します。事前に広告取引EDIシステムへの問合せ操作が必要です。

6.8.1. 着信済のデータが存在するかを広告取引EDIシステムに問い合わせる

1. TaskManagerの「メインメニュー」画面またはツールバーの[問い合わせ選択受信]アイコンをクリックすると、「問い合わせ選択受信」画面が表示されます。

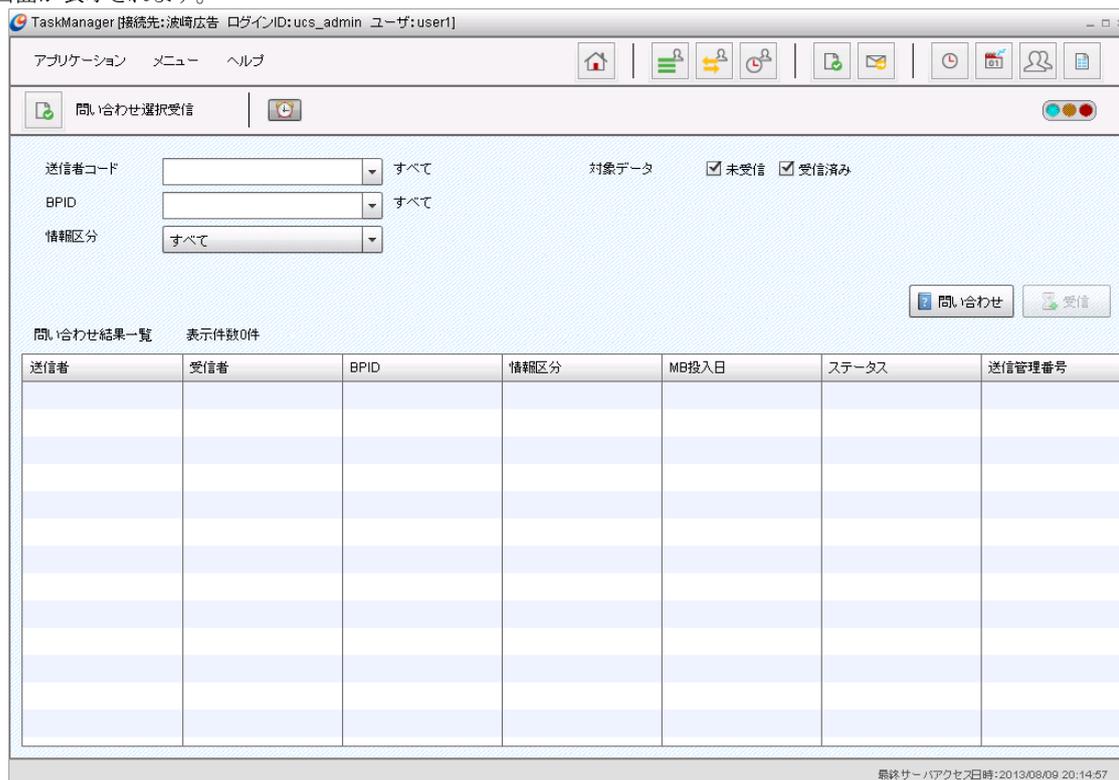


図 6-21 問い合わせ選択受信画面

2. 問合せ条件を指定します。

表 6-8 問合せ条件入力内容

項目名	内容
送信者コード	「(すべて)」の場合はすべての送信者から自社宛に到着しているデータが対象となります。 コンボボックスから送信者のコードを選択した場合はその送信者から自社宛に到着しているデータが対象となります。 また、前方一致での検索もできます。 例えば、「123456000001」「123456000002」という2つの企業コードがあり、問合せ条件に「12345」のみを入力した場合、先の2つの送信者が対象となります。
BPID	「(すべて)」の場合は自社宛に到着しているすべての業務区分のデータが対象となります。 コンボボックスから業務区分を選択した場合は自社宛に到着している指定した業務区分のデータが対象となります。 また、前方一致での検索もできます。

情報区分	「(すべて)」の場合は自社宛に到着しているすべての情報区分のデータが対象となります。 コンボボックスから情報区分を選択した場合は自社宛に到着している指定した情報区分のデータが対象となります。
対象データ	「未受信」を指定した場合は、未だ受信していないデータが対象となります。 「受信済み」を指定した場合は、過去に受信したことがあるデータが対象となります。 「未受信」、「受信済み」両方を指定することもできます。 ※ 広告取引EDIシステム内のデータの保管期間 ¹ を過ぎたものは対象になりません。

3. [問い合わせ]ボタンをクリックすると問い合わせ結果一覧が更新されます。

表 6-9 問合せ結果内容

項目名	内容
送信者名	データ送信者の企業名が表示されます。
受信者名	自社の企業名が表示されます。
BPID	データの業務区分の名前が表示されます。
情報区分	データの情報区分の名前が表示されます。
MB投入日	データが広告取引EDIシステムのメールボックスに投入された日時が表示されます。
ステータス	「未受信」または「受信済み」が表示されます。
送信管理番号	送信側で番号付けされた、データの管理番号が表示されます。

TaskManager [接続先:波崎広告 ログインID:ucs_admin ユーザ:user1]

アプリケーション メニュー ヘルプ

問い合わせ選択受信

送信者コード: 8888830000WT 波崎放送 対象データ 未受信 受信済み

BPID: WAVE0010 テレビアナログ

情報区分: 引合・確認:0020

問い合わせ 受信

問い合わせ結果一覧 表示件数5件

送信者	受信者	BPID	情報区分	MB投入日	ステータス	送信管理番号
波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	引合・確認	2013/08/08 14:52:02	受信済み	21388145600000
波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	引合・確認	2013/08/08 13:20:22	受信済み	21388132500000
波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	引合・確認	2013/08/08 13:19:40	受信済み	21388132400000
波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	引合・確認	2013/08/08 14:52:20	受信済み	21388145700000
波崎放送	波崎広告	テレビアナログ	引合・確認	2013/08/08 15:09:58	受信済み	21388151400000

1/1カ/11対象データ件数をチェックしました 最終サーバアクセス日時:2013/08/09 13:43:35

図 6-22 問い合わせ選択受信画面(問い合わせ結果一覧)

¹ 広告取引EDIシステム内のデータ保管期間は、通常8日間です。年末年始など、長期休暇がある場合の保管期間については広告取引EDIサポートデスクまでお問い合わせください。

6.8.2.データを選択して受信

- 「問い合わせ結果」リストから受信したいデータを選択します。

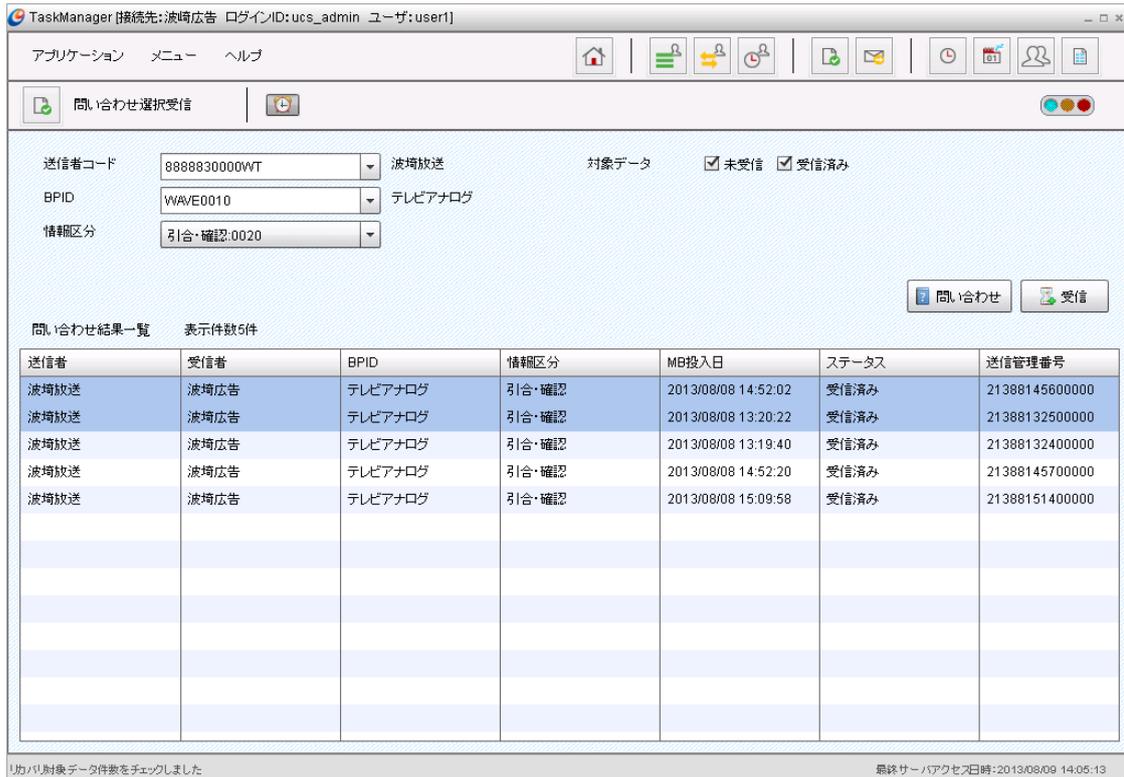


図 6-23 問い合わせ選択受信画面 (受信データ選択)

- [受信]ボタンをクリックすると、[選択受信]ダイアログが表示されます。

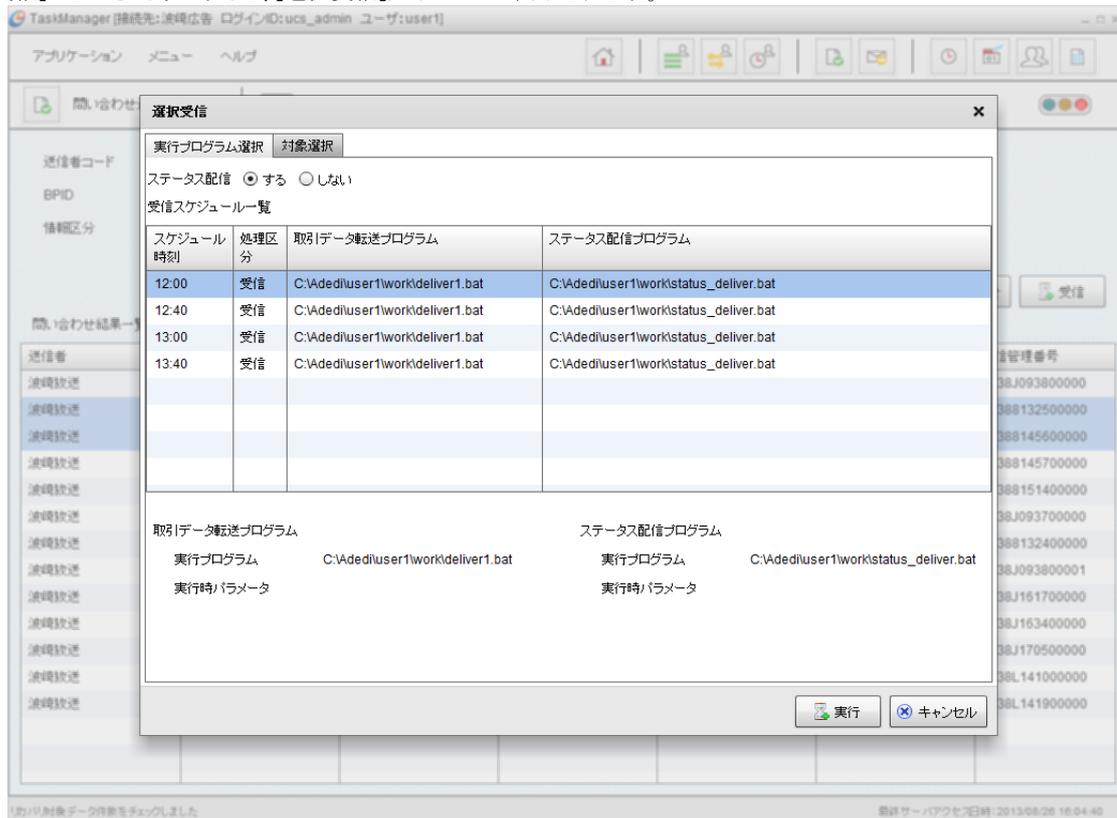


図 6-24 選択受信ダイアログ 実行プログラム選択タブ

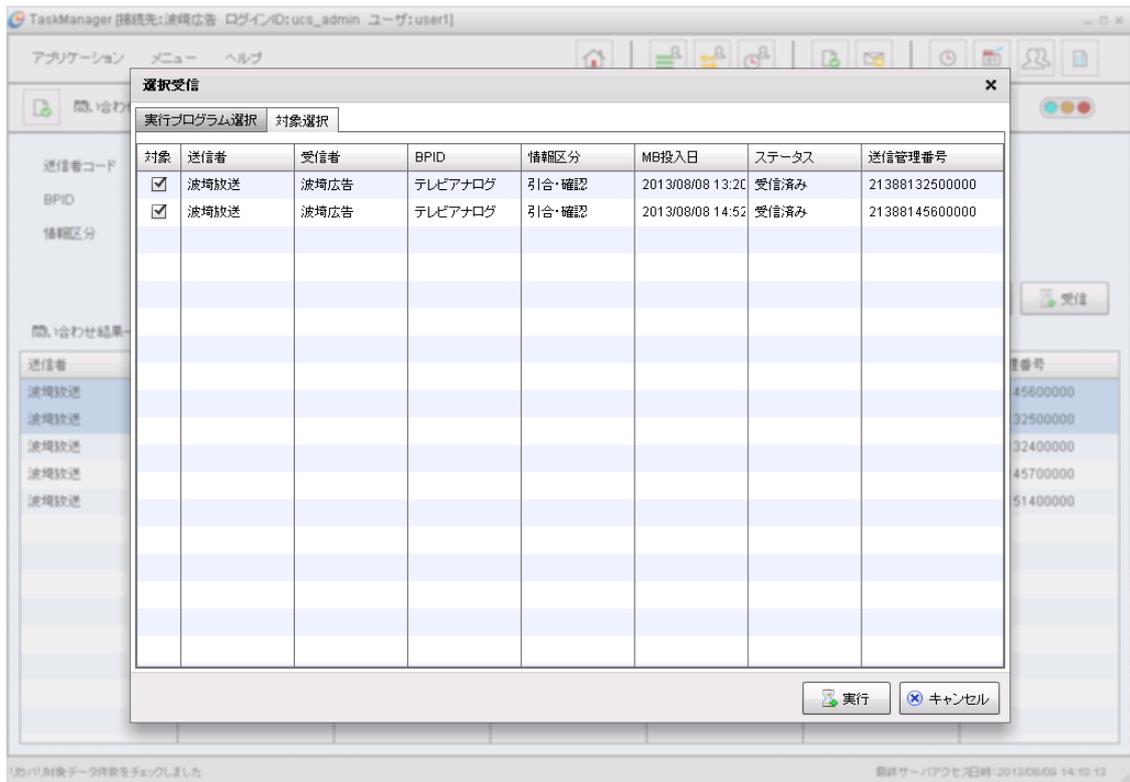


図 6-25 選択受信ダイアログ 対象選択タブ

- 項目を入力します。

表 6-10 選択受信入力内容

項目名	内容
実行プログラム選択	
ステータス配信	「する」の場合、選択受信の処理結果を、選択したステータス配信プログラムで業務システムに配信します。「しない」の場合、処理結果の配信は行いません。
受信スケジュール一覧	<ul style="list-style-type: none"> 一覧から取引データ転送プログラムを選択します。表示されている時刻はスケジュールの時刻で、処理には関係ありません。 選択した取引データ転送プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータ及び、ステータス配信プログラムの実行プログラム名、実行時パラメータが表示されます。
対象選択	
対象	選択受信する受信データにチェックしてください。

- 処理を実行する場合は[実行]ボタンをクリックしてください。処理の実行を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

7.システム保守

7.1. バックアップ

U/Cサーバに登録されているマスタ情報、実績情報、業務データファイルのバックアップを行います。バックアップはシステム全体で行います。ユーザごとのバックアップはできません。

バックアップを実行すると、指定されたバックアップ先フォルダに圧縮されたバックアップファイル(.zip形式)が作成されます。

バックアップにはシステムスケジューラにより自動で実行されるものと、必要に応じて手動で実行する方法があります。スケジュールの設定と手動による実行はSystemManagerから行います。

7.1.1.バックアップを自動で実行するには

1. バックアップスケジュールを登録します。詳しくは「3.8.システムスケジュール設定」を確認してください。
2. システムスケジュールを開始します。詳しくは「5.スケジュールの起動と停止」を確認してください。

7.1.2.バックアップを手動で実行するには

1. SystemManagerの「メインメニュー」画面で[バックアップ]ボタンをクリックすると、「バックアップ」画面が表示されます。

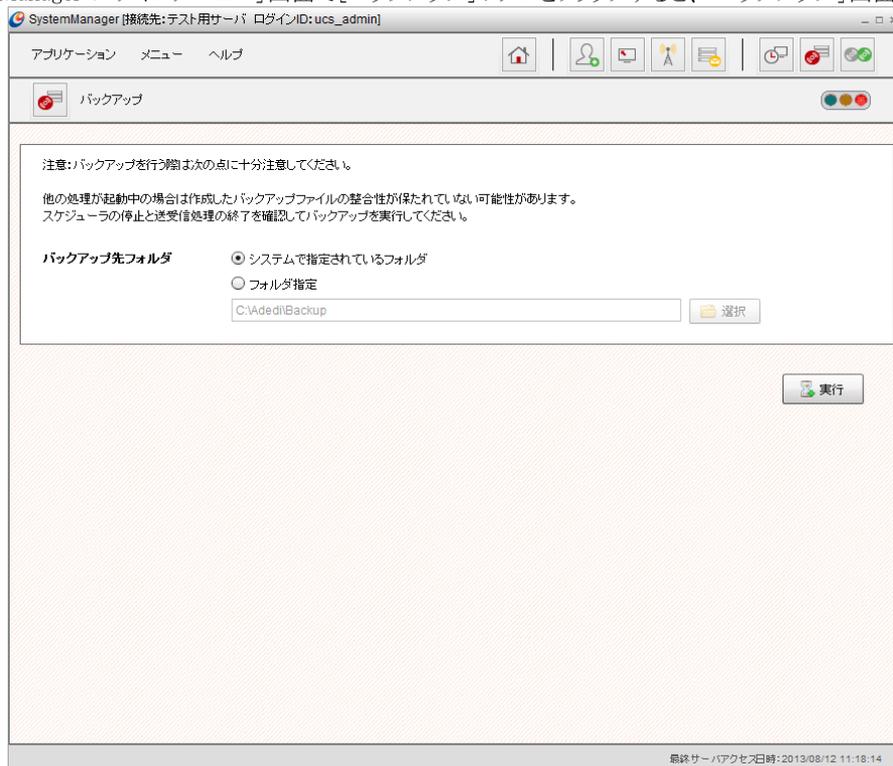


図 7-1 バックアップ実行画面

- 以下の項目を設定し、[実行]ボタンをクリックします。

表 7-1 項目入力内容(バックアップ)

項目名	内容
バックアップ先フォルダ	
システムで指定されているフォルダ	システム内で設定されているデフォルトのフォルダにバックアップします。 デフォルトのバックアップ先は「%UCS_HOME%\Backup」です。 ¹
フォルダ指定	指定されたフォルダにバックアップします。 [選択]ボタンをクリックすると、フォルダ選択ダイアログが表示されます。 ※ SystemManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。

7.2. リストア

バックアップファイルを指定して、U/Cサーバのマスタ情報、実績情報、業務データファイルをリストアします。実行はSystemManagerから行います。

正常にリストアを行うには以下の条件を満たしている必要があります。以下の条件を満たさない場合にはリストアを行うことができませんのでご注意ください。

- バックアップ時とリストア時でU/Cサーバのインストールフォルダが同じである
- リストア元ファイルが利用中のU/Cサーバと同じバージョンで取得したバックアップファイルである

7.2.1. リストアを実行するには

- SystemManagerの「メインメニュー」画面で[リストア]ボタンをクリックすると、「リストア」画面が表示されます。

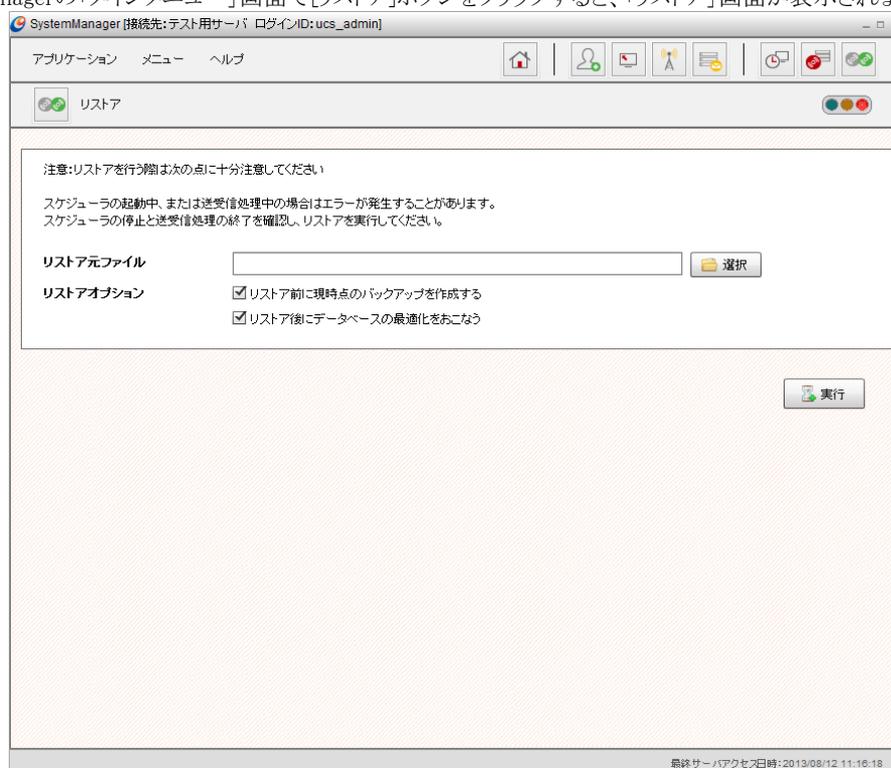


図 7-2 リストア実行画面

¹ 「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

2. 以下の項目を入力し、[実行]ボタンをクリックします。

表 7-2 項目入力内容(リストア)

項目名	内容
リストア元ファイル	リストアするバックアップファイルを指定します。 ¹ 「バックアップ」機能で作成したバックアップファイルを指定してください。 [選択]ボタンをクリックすると、[ファイル選択]ダイアログが表示されます。 ※ SystemManagerを別端末から操作している場合は、[選択]ボタンは表示されません。フォルダパスを直接入力してください。 ※ 利用中のU/Cサーバと異なるバージョンで作成されたバックアップファイルは使用できません。
リストアオプション	
リストア前に現時点のバックアップを作成する	チェックすると、リストア実行前に現時点のバックアップを行います。 バックアップファイルは、「%UCS_HOME%\Backup\YYYYMMDDHHMM (実行時刻)」で作成されます。 ²
リストア後にデータベースの最適化を行う	チェックすると、リストア実行前にデータベースの最適化を行います。

3. リストアが実行されます。リストア実行中は画面からの操作ができません。[ログアウト]ボタンをクリックして画面からログアウトするか、リストアが終了するまでそのままお待ちください。

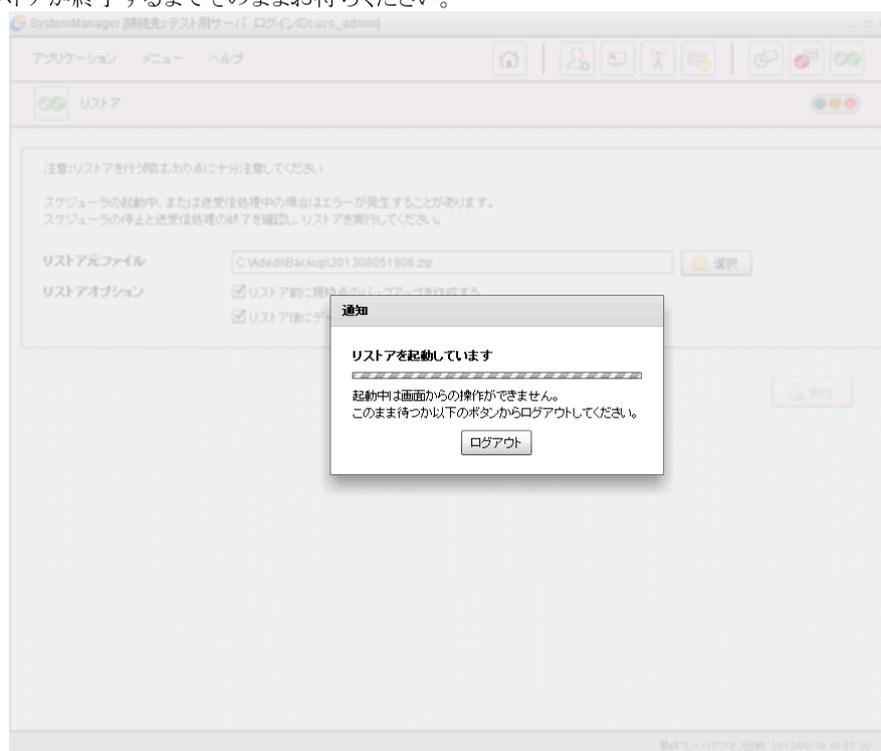


図 7-3 リストア実行画面(リストア起動中)

¹ リストア元のバックアップファイルは作成したファイル名のまま指定してください。ファイル名を変更すると、リストアに失敗することがあります。

² 「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

4. リストアが終了すると、以下の画面が表示されます。

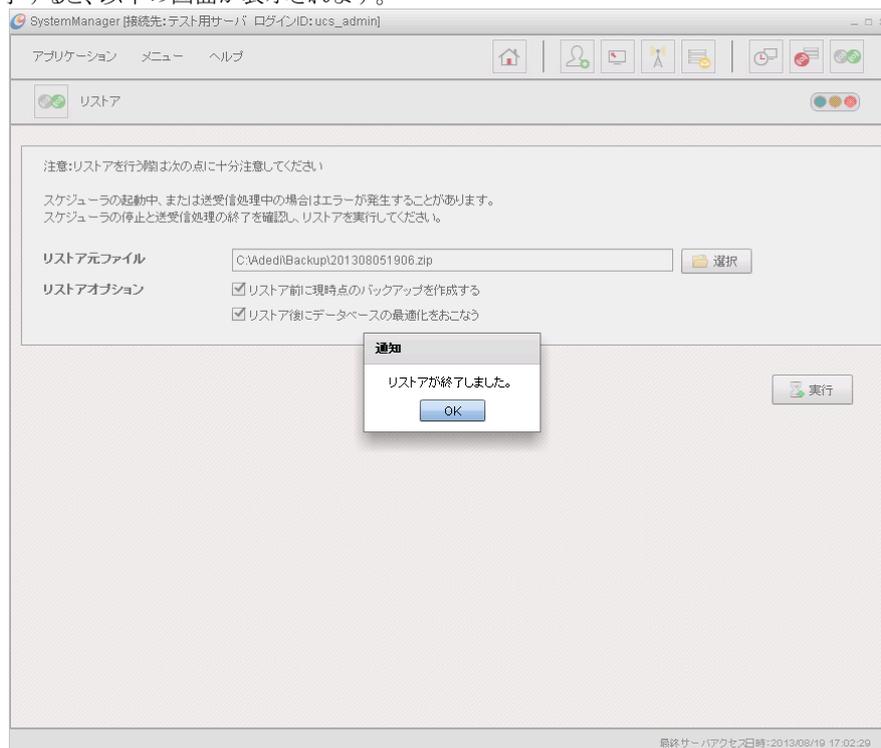


図 7-4 リストア実行画面(リストア終了)

7.2.2.リストア実行時の注意点

リストアは業務システムや広告取引EDIシステム側のデータと同期が取れなくなることがありますので、実行する場合は十分に注意してください。

7.3. クリーンアップ

保管期間を過ぎた実績情報、業務データファイル、ログファイルの削除、及びデータベースの最適化処理を行います。クリーンアップはスケジューラより自動で実行されます。また、スケジュールの登録はSystemManagerから行います。

7.3.1.クリーンアップを実行するには

1. クリーンアップのスケジュールを登録します。詳しくは「3.8.システムスケジュール設定」を確認してください。
2. システムスケジュールを起動します。詳しくは「5.スケジュールの起動と停止」を確認してください。

7.3.2.クリーンアップの削除対象

保存日数はSystemManagerの「3.4ユーザー設定」にて登録された「送信データ保存日数」「受信データ保存日数」「トランザクション保存日数」を参照します。

ユーザスケジュールによるトランザクション、送受信データ及びスケジュール状況は、更新日時が保存日数を超えたタイミングでクリーンアップによる削除対象となります。

システムスケジュールのトランザクションとログファイルの保存期間は90日間としています。これはシステムの内部に保持しており、変更が行えません。

7.4. 不要な送受信データの削除

通常、送受信データは保管期間が過ぎると、クリーンアップされてU/Cサーバ上からは削除されますが、テスト用データや、リカバリ後に不要になったデータ等を直ちに削除する場合は以下の方法で行います。

7.4.1. 不要な送受信データを削除するには

TaskManagerの「送受信データ」画面から不要な送受信データを削除できます。

1. 不要な送信または、受信データを選択します。複数選択することもできます。

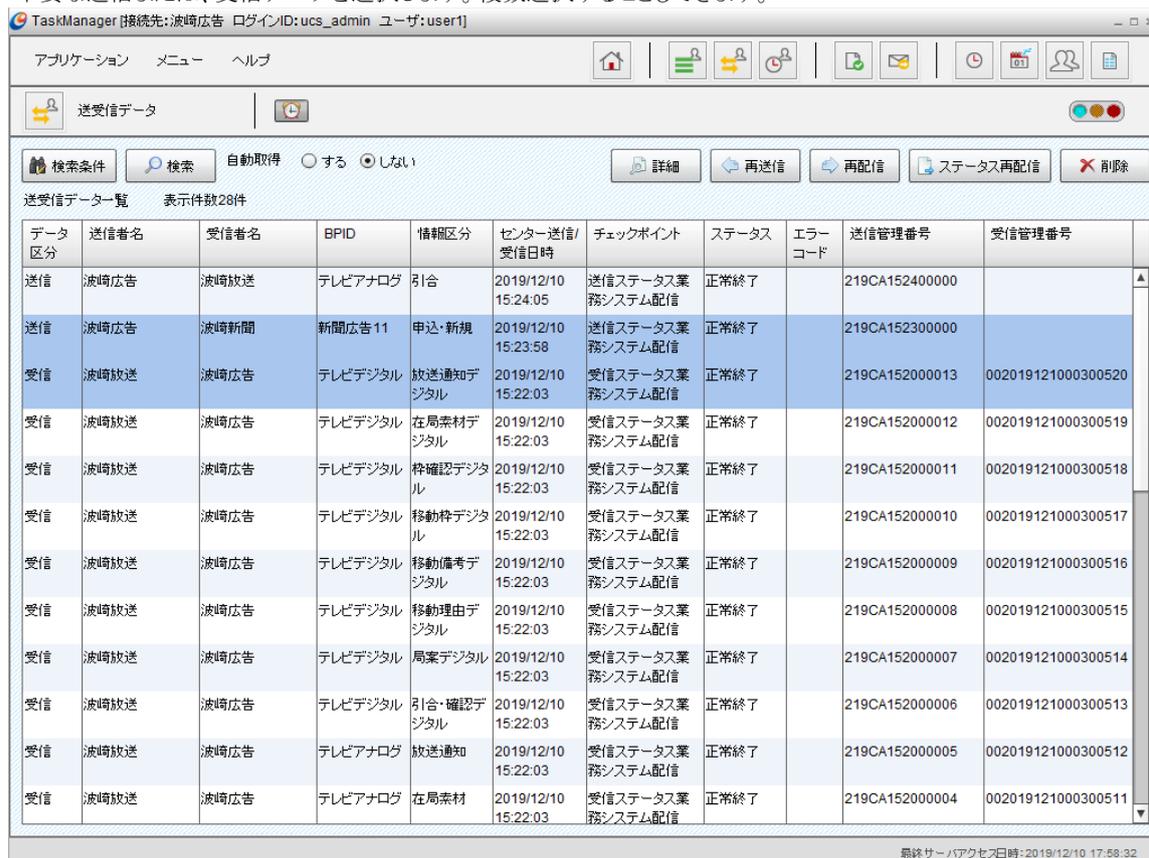


図 7-5 送受信データ一覧画面 (削除選択)

2. 「削除」ボタンをクリックします。データ(レコード)と関連する物理ファイルが削除されます。

7.4.2. 不要データの削除に関する注意事項

実行中の送受信処理で使用しているデータの削除やバックアップ、クリーンアップなどが実行中にデータの削除はしないでください。予期しないエラーが発生することがあります。

「データ(削除)を元に戻す」といった機能はありませんので、削除する場合は慎重に行ってください。

7.5. スケジュールの抑止

特定の送受信スケジュールを一時的に実行させたくないという時に「抑止」を使用します。抑止の解除も行えます。抑止は「スケジュール状況」画面または、「スケジュール設定」画面で行います。「スケジュール設定」画面からスケジュール抑止、抑止解除を行う手順は、「4.7.5.登録されているスケジュール情報の抑止をするには」、「4.7.6.登録されているスケジュール情報の抑止解除をするには」を確認してください。

7.5.1. スケジュール状況でスケジュールの抑止を行うには

予定日時	処理	抑止	ステータス	実行開始日時	実行終了日時	トランザクションID
2019/12/10 15:18	スケジュール送信		正常終了	2019/12/10 15:18:00	2019/12/10 15:18:05	2019121000000091
2019/12/10 15:20	スケジュール受信		正常終了	2019/12/10 15:20:00	2019/12/10 15:20:03	2019121000000093
2019/12/10 15:22	スケジュール受信		正常終了	2019/12/10 15:22:00	2019/12/10 15:22:04	2019121000000096
2019/12/10 15:23	バッチスケジュール展開		正常終了	2019/12/10 15:23:00	2019/12/10 15:23:02	2019121000000098
2019/12/10 15:24	バッチ休日展開		正常終了	2019/12/10 15:24:00	2019/12/10 15:24:02	2019121000000100
2019/12/10 18:30	指定プログラム実行					
2019/12/11 15:18	スケジュール送信					
2019/12/11 15:22	スケジュール受信					
2019/12/11 15:23	バッチスケジュール展開					
2019/12/11 15:24	バッチ休日展開					
2019/12/11 18:30	指定プログラム実行					
2019/12/12 15:18	スケジュール送信					
2019/12/12 15:22	スケジュール受信					
2019/12/12 15:23	バッチスケジュール展開					
2019/12/12 15:24	バッチ休日展開					
2019/12/12 18:30	指定プログラム実行					
2019/12/13 15:18	スケジュール送信					
2019/12/13 15:22	スケジュール受信					
2019/12/13 15:23	バッチスケジュール展開					
2019/12/13 15:24	バッチ休日展開					

図 7-6 スケジュール状況画面

1. スケジュールが開始状態であれば、 をクリックしてスケジュールを停止します。

2. 一覧に表示されている非抑止スケジュール情報を選択し、[抑止]ボタンをクリックし[スケジュール抑止]ダイアログを表示します。スケジュール情報を複数選択することも可能です。

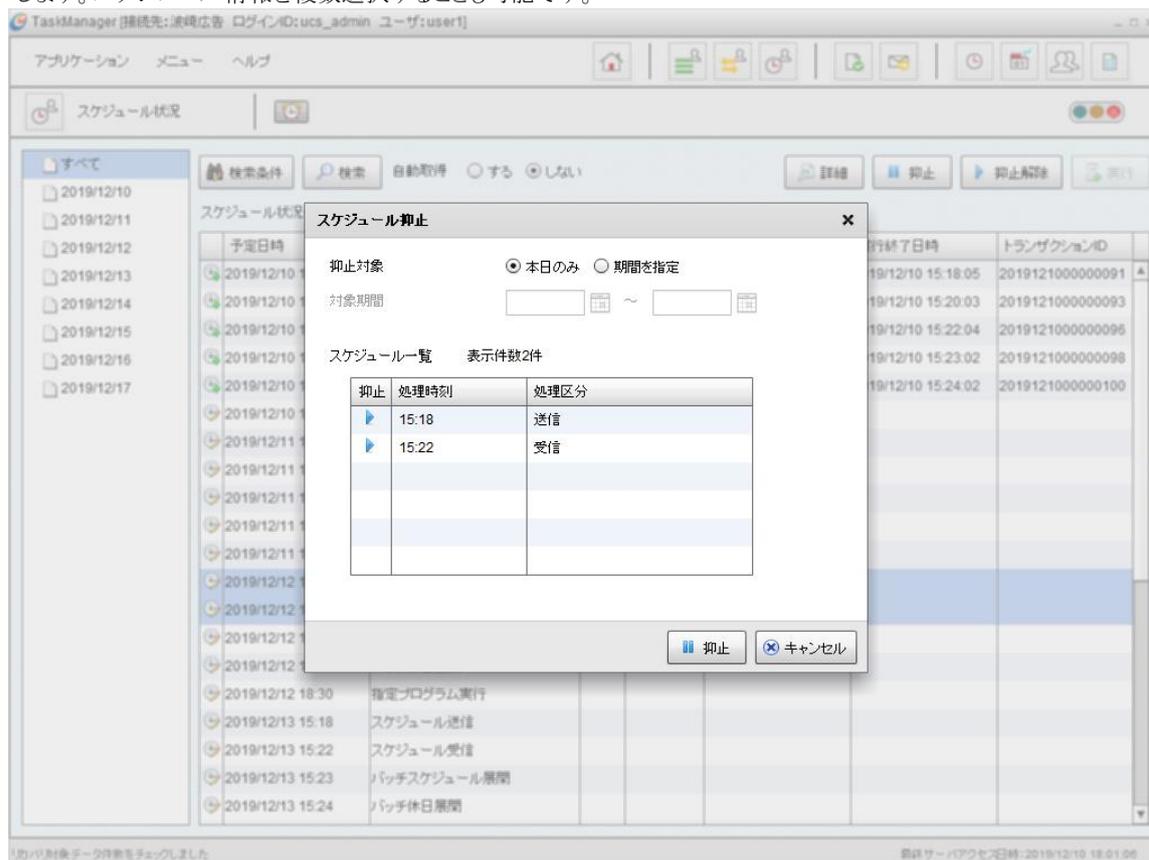


図 7-7 スケジュール抑止ダイアログ

3. 項目を入力します。

表 7-3 項目入力内容

項目名	内容
抑止対象	どちらか選択してください。 「本日のみ」: 本日のみ抑止します。 「期間を指定」: 抑止期間を指定します
対象期間	「抑止対象」で「期間を指定」とした場合、入力可能になります。 選択したスケジュールを本日から指定の日まで抑止します。

4. 入力した内容で抑止する場合は、[抑止]ボタンをクリックします。抑止をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

5. 一覧の「抑止」に「○」が表示されます。

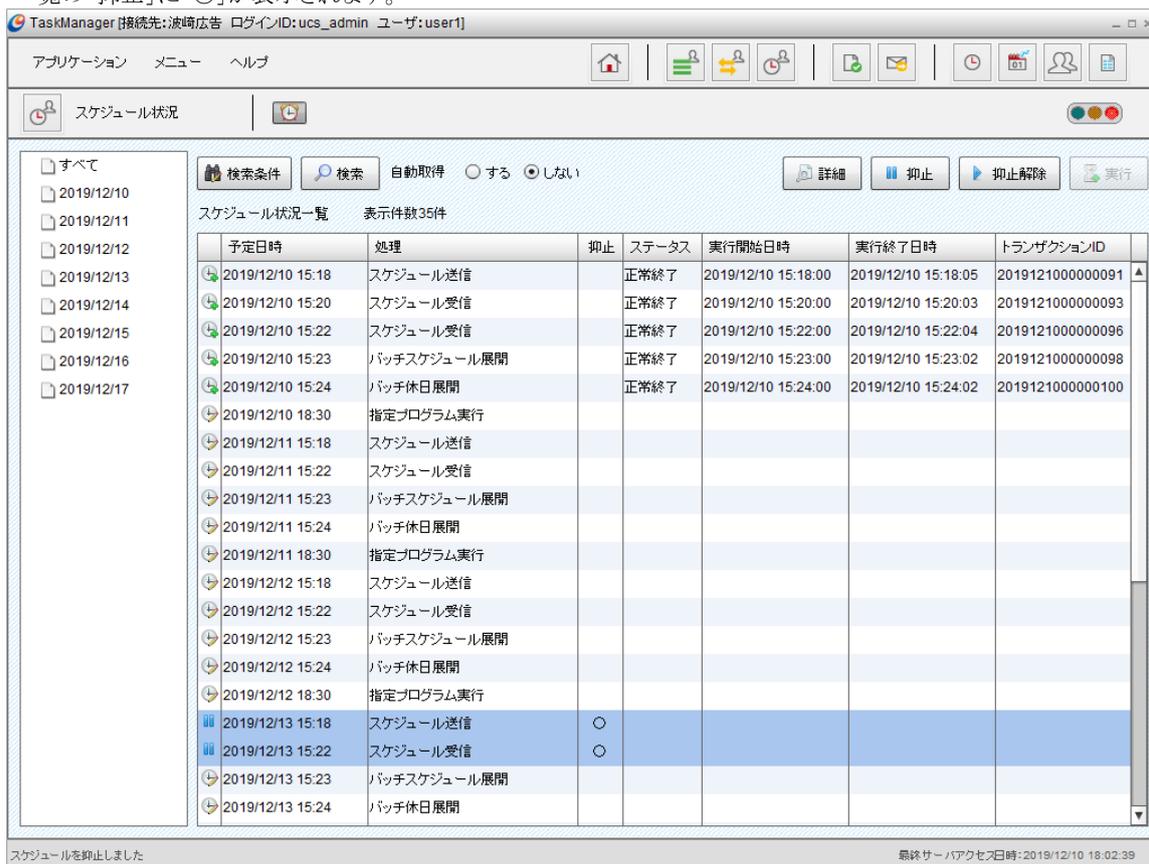


図 7-8 スケジュール状況画面(スケジュール抑止)

6.  ボタンをクリックしてスケジュールを開始します。

7.5.2.スケジュール状況でスケジュールの抑止解除を行うには

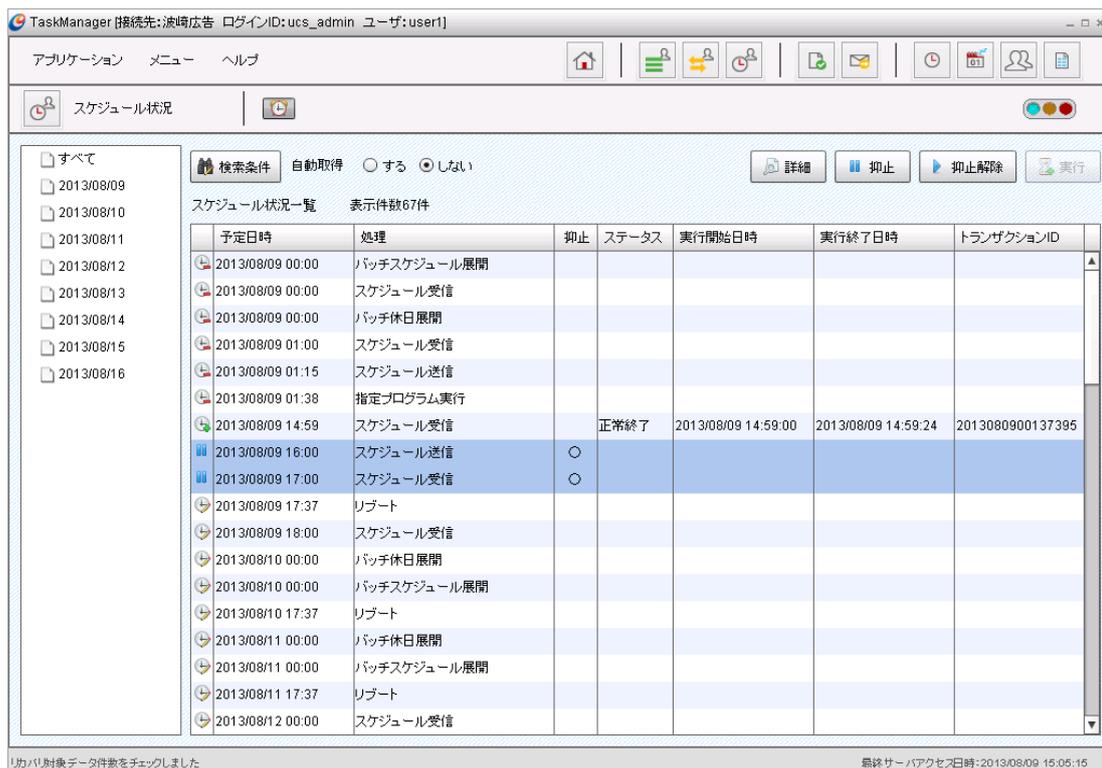


図 7-9 スケジュール状況画面(スケジュール抑止解除選択)

1. スケジュールが開始状態であれば、 をクリックしてスケジュールを停止します。
2. 一覧に表示されている抑止を解除したいスケジュール情報を選択し、[抑止解除]ボタンをクリックすると[スケジュール抑止解除]ダイアログが表示されます。スケジュール情報を複数選択することも可能です。

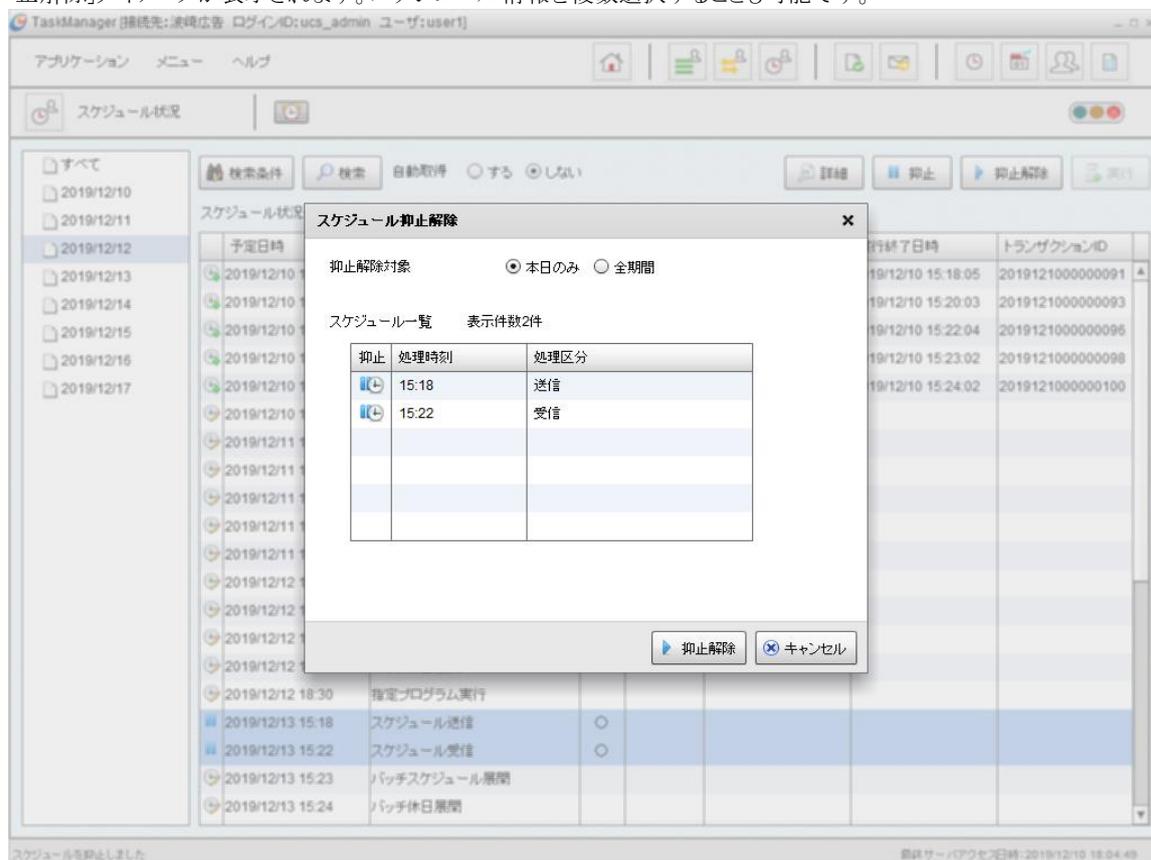


図 7-10 スケジュール抑止解除ダイアログ

- 項目を入力します。

表 7-4 項目入力内容

項目名	内容
抑止解除対象	どちらか選択してください。 「本日のみ」:本日のみ抑止を解除します。 「全期間」:全期間抑止を解除します。

- 入力した内容で抑止を解除する場合は、[抑止解除]ボタンをクリックします。抑止解除をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。
- 一覧の「抑止」が空白で表示されます。

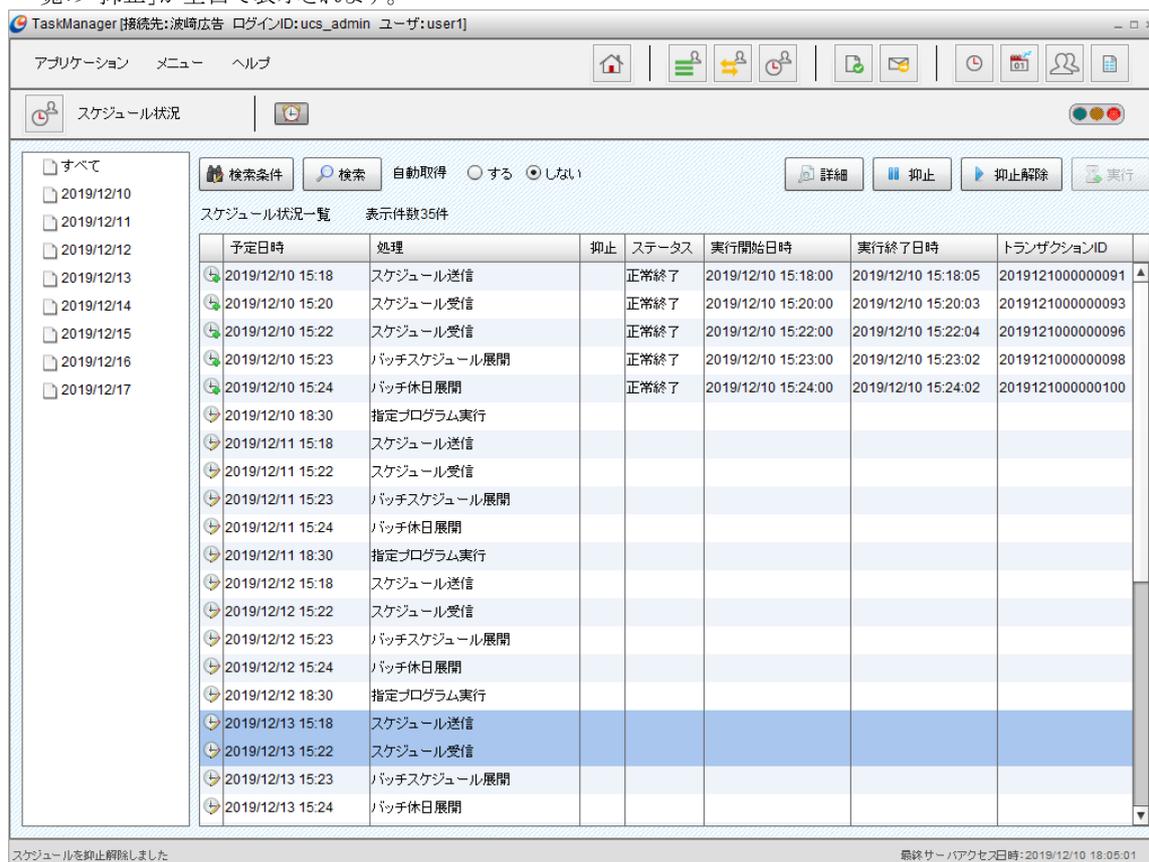


図 7-11 スケジュール状況画面

-  ボタンをクリックしてスケジュールを開始します。

7.6. イベントログ出力

U/CサーバはWindowsのイベントログにエラー情報を出力します。

7.6.1. イベントログ出力情報について

イベントログには以下の様なエラー情報が出力されます。

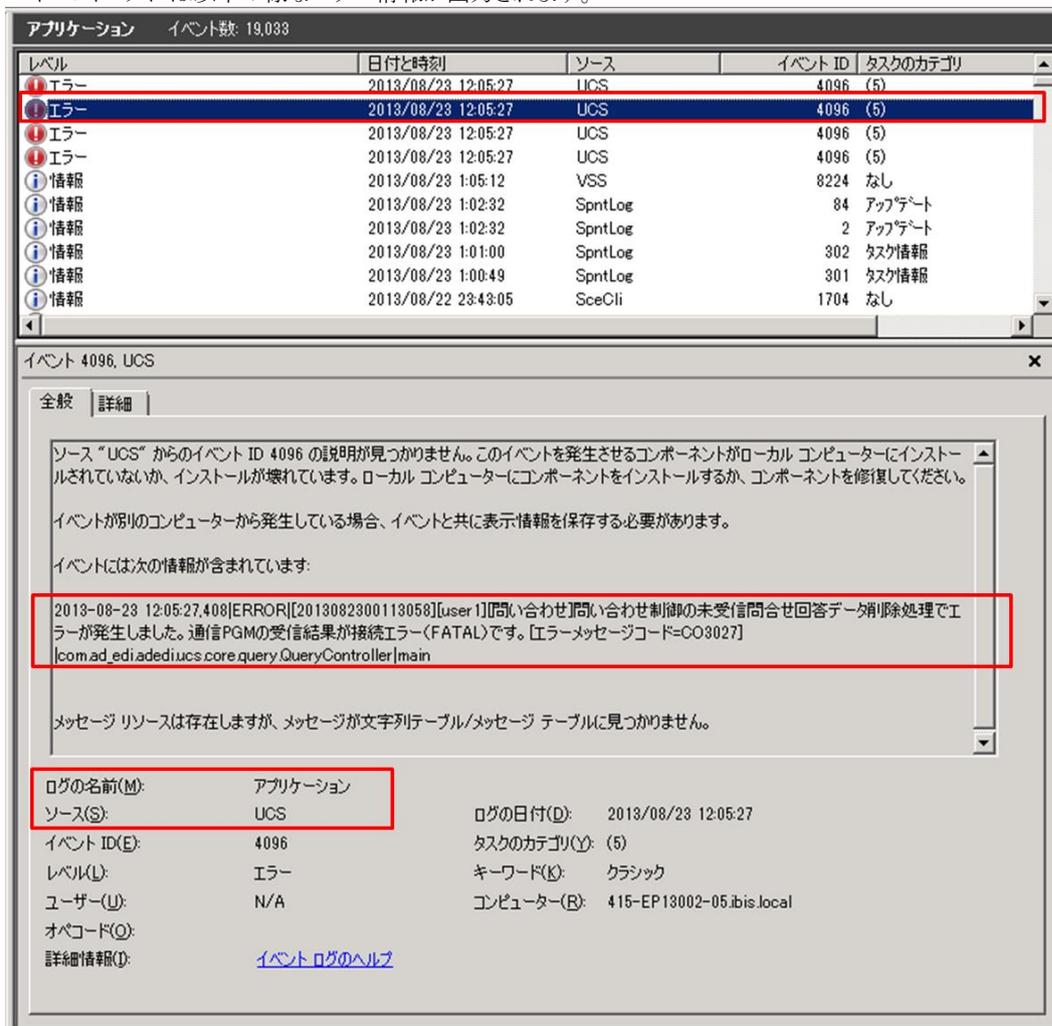


図 7-12 イベントログ出力イメージ

ご利用社様にて用意された運用ツールを用いてイベントログを検知する場合は、以下項目からU/Cサーバのエラーメッセージを検知可能です。

表 7-5 イベントログ検知項目

検知項目	項目の内容
ソース	UCS
ログの名前	アプリケーション
レベル	エラー

7.6.2. イベントログメッセージ集

イベントログに出力されるエラーメッセージについては、別紙「U/Cサーバ イベントログメッセージ集」を確認してください。

8. ユーザとログインIDの関係

8.1. ユーザの定義

U/Cサーバで送受信を行う際のメールボックスの単位です。
ユーザを登録するとユーザごとに送受信フォルダが作成されます。
また、ユーザごとに送受信のスケジュール管理ができます。

8.2. ログインIDの定義と種別

SystemManager・TaskManagerにログインする際のIDです。
ログインIDごとに権限が登録できます。権限は「管理者」、または「一般利用者」となります。

各権限で利用可能な操作については以下の表を確認してください。

表 8-1 ログインID権限別操作内容

操作内容	権限	管理者	一般利用者
SystemManager			
ログイン		○	×
ユーザ設定		○	×
広告取引EDIシステムへの接続設定		○	×
メールサーバ設定		○	×
ログインID設定		○	×
システムスケジュール設定		○	×
バックアップ		○	×
リストア		○	×
TaskManager			
ログイン ¹		○	○
情報区分設定		○	△(参照のみ可)
パートナー設定		○	△(参照のみ可)
スケジュール設定		○	×
休日設定		○	×
トランザクションの処理結果照会		○	○
送受信データの処理結果照会		○	○
スケジュール状況照会		○	○
データのリカバリ処理		○	×
問合せ選択受信		○	△(問合せ処理のみ可)
特定ファイル送信		○	×

○…可能 ×…不可能 △…一部可能

¹ 「管理者」、「一般利用者」ともTaskManagerでログイン可能なユーザに制限はありません。

9.メッセージリファレンス

9.1.画面出力エラーメッセージ

SystemManagerまたはTaskManagerの画面から実行した操作に対し、サーバ側でエラーが発生した場合に表示されるメッセージです。

表 9-1 画面出力エラーメッセージ

エラーコード	メッセージ	対応
1	接続先のサーバでエラーが発生しました。	—
2	サーバでのチェック処理に失敗しました。	—
3	対象のレコードが既に削除されています。	最新の情報を取得してください。
4	対象のレコードが更新されています。	最新の情報を取得してください。
5	権限がありません。	操作の権限がありません。管理者権限のログインIDで実行しなおしてください。
6	サーバのセッションが切れています。再度ログインしてください。	一度ログアウトし、再度ログインしなおしてください。
7	ユーザが削除されています。	TaskManagerからログイン中のユーザが、削除されています。社内のシステム担当者へ確認してください。
8	スケジューラが起動中または処理が起動中のため削除できません。	削除対象ユーザのスケジューラが起動中です。TaskManagerからスケジューラを停止してから、削除してください。
9	《テーブル名》に関連データが存在するため削除できません。 関連データも削除してよろしいですか？	削除対象ユーザに関連する実績データ(トランザクション、送受信データetc)が存在します。全て削除する場合は[はい]を、削除しない場合は[いいえ]をクリックしてください。
10	必要なマスタが削除されています。	—
11	処理の起動に失敗しました。	U/Cプロセスが停止しています。 U/Cサーバを起動させた後、再度実行してください。
12	リストア処理が実行中です。しばらく経ってから操作してください。	リストア実行中は画面からの操作が一切できません。しばらく経ってから操作してください。
13	スケジュールが適用されていません。	スケジュール適用処理が一度も起動されていません。システムスケジュールを起動して、スケジュール適用処理を行ってください。
14	休日が適用されていません。	休日適用処理が一度も起動されていません。システムスケジュールを起動して、休日適用処理を行ってください。
15	同じ処理区分である処理が実行中のため実行できません。	しばらく経ってから再度起動してください。
16	リポート処理が実行中です。起動後に操作してください。	起動後に操作してください。
99	接続エラー	—
101	サーバへの接続に失敗しました。	接続先設定で設定内容に間違いがないか確認してください。
102	サーバからの応答が一定時間を越えたためタイムアウトが発生しました。	—
103	利用不可となっている機能呼び出したためエラーが発生しました。	—

10001	ログインIDまたはパスワードが間違っています。	ログインIDまたはパスワードが間違っているか、SystemManagerへのログイン権限がありません。入力内容を確認してください。
10002	SystemManagerとUCSのバージョンが一致しません。 マニュアルのメッセージリファレンスをご確認ください。	SystemManagerとU/Cサーバのバージョンが一致しない場合にはログインできない仕様となっております。両者のバージョンが一致する状態でログインしなおしてください。
10101	同一のユーザIDが既に登録されています。	重複したユーザIDは登録できません。入力内容を確認してください。
10102	初期マスタの作成に失敗しました。	ユーザID登録時に必要な初期マスタの登録に失敗しました。該当ユーザIDを削除し、再度登録しなおしてください。
10103	ユーザフォルダの作成に失敗しました。	ユーザID登録時に作成されるユーザフォルダが作成できませんでした。該当ユーザIDを削除し、再度登録しなおしてください。
10104	メール通知先に指定されたログインIDが存在しません。	最新の情報を検索して、再度登録しなおしてください。
10105	デフォルト値(UC_HOME)が設定されていません。	—
10401	同一のログインIDがすでに登録されています。	重複したログインIDは登録できません。
10402	指定されたロールが存在しません。	権限の設定が不正なため、登録または更新できませんでした。
10403	システムログインID(ucs_admin)のロールは変更できません。	システムログインIDの権限は「管理者」以外に変更できません。
10404	システムログインID(ucs_admin)は削除できません。	システムログインIDは削除できません。
10501	スケジュールの削除に失敗しました。	—
10502	処理区分の異なるデータが存在するため、更新できませんでした。	—
10503	同一の起動時刻がすでに登録されています。	同一処理について同一起動時刻のスケジュールは登録できません。入力内容を確認してください。
10601	バックアップの起動に失敗しました。	—
10602	バックアップ先のフォルダが存在しません。	指定したフォルダが存在するか確認してください。
10701	指定されたファイルが存在しません	指定したファイルが存在するか確認してください。
10702	スケジュール起動中のためリストアが実行できません。	しばらく経ってから、再度起動してください。
10703	リストアの処理に失敗しました。	—
10704	環境変数(UCS_HOME)が取得できませんでした。	—
20001	ログインIDまたはパスワードが間違っています。	ログインIDまたはパスワードが間違っています。入力内容を確認してください。
20002	指定されたユーザが存在しません。	接続先で指定されているユーザが存在しません。接続先設定を確認してください。
20003	TaskManagerとUCSのバージョンが一致しません。 マニュアルのメッセージリファレンスをご確認ください。	TaskManagerとU/Cサーバのバージョンが一致しない場合にはログインできない仕様となっております。両者のバージョンが一致する状態でログインしなおしてください。
20101	指定された送受信データは再送信できません。	指定された送受信データのステータスが処理中またはエラーのため、再送信できません。
20102	指定された送受信データは再配信できません。	指定された送受信データのステータスが処理中またはエラーのため、再配信できません。

20103	指定された送受信データはリカバリ送信できません。	指定された送受信データのステータスまたはチェックポイントがリカバリ送信対象外です。
20104	指定された送受信データはリカバリ配信できません。	指定された送受信データのステータスまたはチェックポイントがリカバリ配信対象外です。
20105	指定された送受信データはステータス再配信できません。	指定された送受信データのステータスが処理中のため、ステータス再配信できません。
20106	指定された送受信データは削除出来ません。	指定された送受信データのステータスが処理中のため、削除できません。
20107	指定されたスケジュールが存在しません	最新の情報を取得して、再度処理を実行してください。
20108	指定された送受信データが存在しません。	最新の情報を取得して、再度処理を実行してください。
20109	再送信処理の起動に失敗しました。	—
20110	再配信処理の起動に失敗しました。	—
20111	リカバリ送信処理の起動に失敗しました。	—
20112	リカバリ配信処理の起動に失敗しました。	—
20113	ステータス再配信処理の起動に失敗しました。	—
20114	送受信データの削除に失敗しました。	送受信データの実データの削除に失敗しました。
20115	環境変数(UCS_HOME)が取得できませんでした。	—
20116	指定のフォルダにTSVファイルを出力できません。	%UCS_HOME%\Outputフォルダが存在するか確認してください。 ¹
20201	指定されたトランザクションが存在しません。	最新の情報を取得してください。
20301	指定されたユーザスケジュールが存在しません。	最新の情報を取得してください。
20302	指定された実行スケジュールが存在しません。	最新の情報を取得してください。
20303	スケジュールの起動に失敗しました。	—
20304	過去のスケジュールが指定されたため更新できませんでした。	起動時刻が過去のスケジュールは更新できません。
20305	指定されたスケジュールは既に更新済みです。	最新の情報を取得してください。
20401	問い合わせ処理に失敗しました。	—
20402	指定したスケジュールが存在しません	最新の情報を取得して、再度処理を実行してください。
20403	受信処理の起動に失敗しました。	—
20501	指定されたファイルが存在しません。	指定したファイルが存在するか確認してください。
20502	指定されたスケジュールが存在しません。	最新の情報を取得して、再度処理を実行してください。
20503	送信処理の起動に失敗しました。	—
20601	同一の標準企業コードがすでに登録されています。	重複した標準企業コードは登録できません。入力内容を確認してください。
20602	同一の自社企業コードがすでに登録されています。	重複した自社内企業コードは登録できません。入力内容を確認してください。
20603	指定されたフォルダにエクスポートできません。	指定したフォルダが存在するか確認してください。
20604	指定されたファイルが存在しません。	指定したファイルが存在するか確認してください。
20605	インポートファイルのフォーマットが不正です。	インポートファイルのフォーマットに誤りがないか確認してください。

¹ 「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

20606	インポートファイルに更新できないデータが含まれています。	インポートファイルの内容に誤りがないか確認してください。 指定されたインポートファイル内に、標準企業コードと自社内企業コードが、既に登録されているパートナー情報と複数一致する行があるため、更新対象のパートナー情報を特定できません。
20801	指定された時刻のスケジュールは既に登録されています。	同一処理について同じ時刻のスケジュールを登録できません。
20802	指定された処理区分は存在しません。	－
20901	指定された日付は既に休日登録されています。	重複した日付の休日は登録できません。入力内容を確認してください。
20904	国民の休日は削除できません。	国民の休日は削除できません。 休日設定を解除したい場合は「休日設定」画面で、営業日、非営業日の切り替えを行ってください。

9.2. 送受信・システムスケジュールメッセージ

「トランザクション」画面、または「送受信データ」画面でステータスが「エラー」または「警告」の場合に表示されるメッセージです。各メッセージが表示された場合の対応方法を記述しております。

対応方法の記述が特にならない場合や記述内容に不明な点がある場合にはサポートデスクまでお問い合わせください。

9.2.1. エラーステータスメッセージ

表 9-2 エラーステータスメッセージ

エラーコード	メッセージ	対応方法
C1001	レコード長の検索に失敗しました。	集信データファイルの情報区分またはBPIDが不正です。該当のファイルを確認してください。
C1002	集信データのファイルサイズが不正です。	該当のファイルを確認してください。
C1003	送信データの登録処理に失敗しました。	—
C1004	ヘッダ識別子が不正です。	該当のファイルを確認してください。
C1005	標準ヘッダに受信者企業コードまたは送信者企業コードが設定されていません。	該当のファイルを確認してください。
C1006	標準ヘッダで指定された企業コード変換設定が不正です。	該当のファイルを確認してください。
C1007	標準ヘッダで指定された情報区分が使用不可です。	「情報区分設定」画面で使用可否設定を確認してください。
C1008	標準ヘッダのデータ作成日時が設定されていません。	該当のファイルを確認してください。
C1009	送信データのフォーマットが不正です。	送信データに、標準フォーマットに定義されている文字属性と合致しない項目がありました。該当のファイルを確認してください。
C1010	送信者コードの標準企業コード変換処理に失敗しました。	送信者のパートナー情報が登録されていないか不正です。「パートナー設定」画面で登録しなおしてください。
C1011	受信者コードの標準企業コード変換処理に失敗しました。	受信者のパートナー情報が登録されていないか不正です。「パートナー設定」画面で登録しなおしてください。
C1012	センターとの接続に失敗しました。	「通信設定」画面で設定内容を確認してください。
C1013	データの送信に失敗しました。	—
C1014	指定されたファイルが存在しません。	特定ファイル送信で指定されたファイルが存在しませんでした。指定したファイルを確認してください。
C1015	指定されたファイルへのアクセスに失敗しました。	特定ファイル送信で指定されたファイルが存在しませんでした。指定したファイルを確認してください。
C1016	標準ヘッダ情報の取得に失敗しました。	—
C1017	リカバリ送信対象データの取得に失敗しました。	該当データの実ファイルが存在するか確認してください。
C1018	フラットファイルのデータサイズが不正です。	該当のフラットファイルを確認してください。

C1019	再送信対象データの取得に失敗しました。	該当データの実ファイルが存在するか確認してください。
C1020	受信者または送信者のパートナー情報が登録されていません。	「パートナー設定」画面で登録情報を確認してください。
C1021	フラットファイルが存在しません。	該当のフラットファイルが存在するかどうかを確認してください。
C2001	センターとの接続に失敗しました。	「通信設定」画面で設定内容を確認してください。
C2002	データの受信に失敗しました。	—
C2003	センターとの接続に失敗しました。	「通信設定」画面で設定内容を確認してください。
C2004	データの受信確定処理に失敗しました。	—
C2005	レコード長の検索に失敗しました。	不正なフォーマットのデータを受信しました。該当データの内容を確認してください。
C2006	ヘッダ識別子が不正です。	不正なフォーマットのデータを受信しました。該当データの内容を確認してください。
C2007	受信データの登録処理に失敗しました。	—
C2008	送信者コードの自社内企業コード変換処理に失敗しました。	送信者のパートナー情報が登録されていないか不正です。「パートナー設定」画面で登録しなおしてください。
C2009	受信者コードの自社内企業コード変換処理に失敗しました。	受信者のパートナー情報が登録されていないか不正です。「パートナー設定」画面で登録しなおしてください。
C2010	リカバリ配信対象データの取得に失敗しました。	該当データの実ファイルが存在するか確認してください。
C2011	U/Cヘッダ情報の取得に失敗しました。	—
C2012	ファイルサイズが不正です。	不正なフォーマットのデータを受信しました。該当データの内容を確認してください。
C2013	同一の受信管理番号が複数登録されています。	—
C2014	再配信対象データの取得に失敗しました。	該当データの実ファイルが存在するか確認してください。
C2015	指定されたデータの受信に失敗しました。	—
C2016	U/Cヘッダで指定された情報区分が使用可能ではありません。	「情報区分設定」画面で使用可否設定を確認してください。
C2017	U/Cヘッダに受信者企業コードまたは送信者企業コードが設定されていません。	不正なフォーマットのデータを受信しました。該当データの内容を確認してください。
C2018	受信者または送信者のパートナー情報が登録されていません。	「パートナー設定」画面で登録情報を確認してください。
C2019	受信データの保存に失敗しました。	—
C2020	受信済みのデータを再受信しました。	既に受信済みのデータを受信しました。該当データを確認してください。
C2021	再配信対象ファイルの移動に失敗しました。	—
C3001	センターとの接続に失敗しました。	「通信設定」画面で設定内容を確認してください。

C3002	問合せ要求データの送信に失敗しました。	—
C3003	センターとの接続に失敗しました。	「通信設定」画面で設定内容を確認してください。
C3004	問合せ結果データの受信に失敗しました。	—
C3005	一定時間内に問合せ結果データが受信できなかったため、処理を終了しました。	—
C3006	センターとの接続に失敗しました。	「通信設定」画面で設定内容を確認してください。
C3007	問合せ結果データの受信確定処理に失敗しました。	—
C3008	センター内で問合せの処理に失敗しました。	—
C4001	センターとの接続に失敗しました。	「通信設定」画面で設定内容を確認してください。
C4002	ステータスメールの受信に失敗しました。	—
C4003	センターとの接続に失敗しました。	「通信設定」画面で設定内容を確認してください。
C4004	ステータスメールの受信確定処理に失敗しました。	—
C4005	センター内で送信データの処理に失敗しました。	広告取引EDIシステム内の処理でエラーとなりました。サポートデスクまでお問い合わせください。
C5101	バックアップ実行情報の取得に失敗しました。	バックアップ実行時に必要な設定が取得できませんでした。
C5102	同名のバックアップファイルが既に作成されています。	バックアップ作成形式が「新規」で設定されている場合に、同名のバックアップファイル(日付:YYYYMMDDHHMM.zip)が既に作成されています。 手動起動の場合はしばらく待ってから再度実行してください。
C5103	既存のバックアップファイルの削除に失敗しました。	バックアップ作成形式が「上書き」で設定されている場合に、前回分のバックアップファイルの削除に失敗しました。
C5104	バックアップ一時フォルダの作成に失敗しました。	一時フォルダを作成できなかったため、バックアップが失敗しました。
C5105	データベースのバックアップに失敗しました。	—
C5106	ユーザフォルダのバックアップに失敗しました。	—
C5107	バックアップフォルダの圧縮に失敗しました。	—
C5108	バージョンファイルの取得に失敗しました。	—
C5201	レコードの削除に失敗しました。	—
C5202	ファイルの削除に失敗しました。	—
C5203	データベースの最適化処理に失敗しました。	—

C5204	ファイルの削除およびデータベース最適化処理に失敗しました。	—
C5301	休日展開処理でレコードの更新に失敗しました。	—
C5401	スケジュール展開処理でレコードの更新に失敗しました。	—
C5501	リストア実施前にエラーが発生しました。 リストア元ファイルの解凍エラーです。	リストア元のファイルが不正です。U/Cサーバのバックアップ処理で作成されたファイルを指定してください。指定したファイルが正しいことを確認して、再度実行してください。
C5502	リストア実施前にエラーが発生しました。 リストア対象ファイルにバックアップファイルが含まれていません。	リストア元のファイルが不正です。指定したファイルが正しいことを確認して、再度実行してください。
C5503	リストア実施前にエラーが発生しました。 リストア対象ファイルにユーザフォルダが含まれていません。	リストア元のファイルが不正です。指定したファイルが正しいことを確認して、再度実行してください。
C5504	リストア実施前にエラーが発生しました。 データベースのバックアップに失敗しました。	—
C5505	リストア実施前にエラーが発生しました。 ユーザフォルダの削除に失敗しました。	ユーザフォルダの削除に失敗しました。ユーザフォルダの状態を確認してください。
C5506	リストア実施前にエラーが発生しました。 データベース使用中ユーザの切断に失敗しました。	リストア処理中にエラーが発生したため処理が中断されています。 フォルダが不完全な状態である可能性があります。ユーザフォルダの状態を確認してください。
C5507	リストア実施前にエラーが発生しました。 既存データベースの削除に失敗しました。	リストア処理中にエラーが発生したため処理が中断されています。 U/Cサーバは正常運用ができない状態です。
C5508	データベースのリストアに失敗しました。	リストア処理中にエラーが発生したため処理が中断されています。 U/Cサーバは正常運用ができない状態です。
C5509	トランザクションの再登録処理に失敗しました。	リストア処理中にエラーが発生したため処理が中断されています。 U/Cサーバは正常運用ができない状態です。
C5510	ユーザフォルダのリストアに失敗しました。	リストア処理中にエラーが発生したため処理が中断されています。 U/Cサーバは正常運用ができない状態です。
C5511	不要レコードのステータス更新処理に失敗しました。	リストア後の処理に失敗しました。 マスタの内容と、実績データに問題がないことを確認してください。
C5512	データベースの最適化処理に失敗しました。	リストア後の処理に失敗しました。 マスタの内容と、実績データに問題がないことを確認してください。 スケジュールからクリーンアップを起動し、データベースの最適化を行ってください。
C5513	不要レコードのステータス更新処理に失敗しました。	リストア後の処理に失敗しました。 マスタの内容と、実績データに問題がないことを確認してください。
C5514	スケジュール展開処理に失敗しました。	リストア後の処理に失敗しました。 スケジュールからスケジュール展開処理を起動してください。

C5515	リストア実施前にエラーが発生しました。 リストア対象ファイルにバージョンファイルが含まれていません。	リストア元のファイルが不正です。 異なるバージョンのU/Cサーバで取得したバックアップファイルではリストアを実行することができません。
C5516	リストア実施前にエラーが発生しました。 リストア対象ファイルのバージョンファイルの読み込みに失敗しました。	—
C5517	リストア実施前にエラーが発生しました。 リストア対象ファイルのバージョンファイルからバージョン情報を取得できませんでした。	—
C5518	リストア実施前にエラーが発生しました。 当バージョンと異なるバージョンのバックアップファイルを使用してリストアを実施することはできません。	リストア元のファイルが不正です。 異なるバージョンのU/Cサーバで取得したバックアップファイルではリストアを実行することができません。
C5601	リポート実行プログラムが存在しません。	—
C5602	リポート実行プログラムの起動に失敗しました。	—
C6001	指定プログラムが存在しません。	スケジュールで指定されている実行プログラムが存在しません。「ユーザスケジュール設定」画面で設定内容を確認してください。
C6002	指定プログラムの起動に失敗しました。	スケジュールで指定されている実行プログラムが起動できませんでした。指定されているプログラムが正しいことを確認してください。
C6003	指定プログラムがタイムアウトしました。	プログラムの処理時間がタイムアウト値に設定された秒数を超過しました。 プログラムの処理結果を確認し、タイムアウト値を調整してください。
C9001	取引データ転送プログラム(集信)が存在しません。	スケジュールで指定されている取引データ転送プログラム(集信)が存在しません。「ユーザスケジュール設定」画面で設定内容を確認してください。
C9002	取引データ転送プログラム(集信)の起動に失敗しました。	指定されている取引データ転送プログラム(集信)が起動できませんでした。指定されているプログラムが正しいことを確認してください。
C9003	取引データ転送プログラム(集信)内で一部エラーが発生しました。	取引データ転送プログラム(集信)がエラーを返しました。一部正常データありです。
C9004	取引データ転送プログラム(集信)内でエラーが発生しました。	取引データ転送プログラム(集信)がエラーを返しました。正常に集信できたデータはありません。
C9005	取引データ転送プログラム(集信)内で致命的なエラーが発生しました。	ファイル転送プログラムがエラーを返しました。処理続行不可能なエラーです。
C9006	既に配信済みのデータです。	既に配信済みのデータです。該当ファイルを確認してください。
C9007	配信対象ファイルが存在しません。	配信対象の実ファイルが配信フォルダに存在しませんでした。該当ファイルを確認してください。
C9008	取引データ転送プログラム(配信)が存在しません。	スケジュールで指定されている取引データ転送プログラム(配信)が存在しません。「ユーザスケジュール設定」画面で設定内容を確認してください。

C9009	取引データ転送プログラム(配信)の起動に失敗しました。	指定されている取引データ転送プログラム(配信)が起動できませんでした。指定されているプログラムが正しいことを確認してください。
C9010	取引データ転送プログラム(配信)内で一部エラーが発生しました。	取引データ転送プログラム(配信)がエラーを返しました。一部正常データありです。
C9011	取引データ転送プログラム(配信)内でFATALエラーが発生しました。	ファイル転送プログラムがエラーを返しました。処理続行不可能なエラーです。
C9012	ステータス配信プログラムが存在しません。	スケジュールで指定されている取引データ転送プログラム(配信)が存在しません。「ユーザスケジュール設定」画面で設定内容を確認してください。
C9013	ステータス配信プログラムの起動に失敗しました。	指定されている取引データ転送プログラム(配信)が起動できませんでした。指定されているプログラムが正しいことを確認してください。
C9014	ステータス配信プログラム内で一部エラーが発生しました。	取引データ転送プログラム(配信)がエラーを返しました。一部正常データありです。
C9015	ステータス配信プログラム内でFATALエラーが発生しました。	ファイル転送プログラムがエラーを返しました。処理続行不可能なエラーです。
C9016	ステータス配信対象に処理中ステータスのデータが含まれています。	「処理中」のデータはステータス再配信処理対象外です。
C9017	配信フォルダの排他処理に失敗しました。	別の処理が配信フォルダを使用していたため、業務システムへの配信処理ができませんでした。 しばらくしてから再度処理を実行してください。
C9018	取引データ転送プログラム(集信)がタイムアウトしました。	転送プログラムの処理時間がタイムアウト値に設定された秒数を超過しました。 転送プログラムの処理結果を確認し、タイムアウト値を調整してください。
C9019	取引データ転送プログラム(配信)がタイムアウトしました。	転送プログラムの処理時間がタイムアウト値に設定された秒数を超過しました。 転送プログラムの処理結果を確認し、タイムアウト値を調整してください。
C9020	ステータス配信プログラムがタイムアウトしました。	転送プログラムの処理時間がタイムアウト値に設定された秒数を超過しました。 転送プログラムの処理結果を確認し、タイムアウト値を調整してください。
C9098	データベースに接続できませんでした。	データベースへの接続に失敗しました。処理続行不可能なエラーです。
C9099	処理が異常終了しました。	処理が異常終了しました。

9.2.2. 警告ステータスメッセージ

表 9-3 警告ステータスメッセージ

エラーコード	メッセージ	対応
(なし)	フォーマットチェック警告あり	データのフォーマットチェックで警告がありました。データの中に標準フォーマットの文字属性に合致しない項目が存在します。該当のデータを確認してください。
(なし)	処理中ステータス更新	U/Cサーバ起動時に、「処理中」のまま強制終了してしまったトランザクションのステータスを「警告」に変更しました。
(なし)	送受信データ警告あり	同一トランザクションで処理した送受信データ内に警告ステータスのデータが含まれています。「送受信データ」画面から確認してください。
(なし)	EDIセンター接続時警告あり	広告取引EDIシステムヘデータが重複して送信されていました。最初に送信されたデータは正常に処理されています。
(なし)	自動リカバリ対象データ取得失敗	自動リカバリ対象のデータが取得できませんでした。未送信または未配信データが存在する場合は、画面からリカバリ処理を起動してください。
(なし)	バックアップワーニング	バックアップ処理中に作成される一時フォルダの削除に失敗しました。バックアップ先フォルダを確認してください。
(なし)	ステータスメール対象データ取得失敗	受信したステータスメールに対応するレコードの更新に失敗しました。

10.U/Cサーバの手動起動と停止

U/Cサーバを手動起動、手動停止するための方法を以下に記述します。

10.1.U/Cサーバの手動起動

U/Cサーバを起動するためには、「UIServer」サービス、「UcsLog」サービス、及び「UCController」プロセス¹、「ScheduleController」プロセス²を起動する必要があります。U/Cサーバを手動起動するための方法を以下に記述します。

10.1.1.サービスの起動

1. Windowsのスタート画面からコントロールパネルを開き、「管理ツール」から「サービス」を起動します。
2. 一覧で「UcsLog」サービスを選択します。右クリックメニューから「開始」をクリックします。

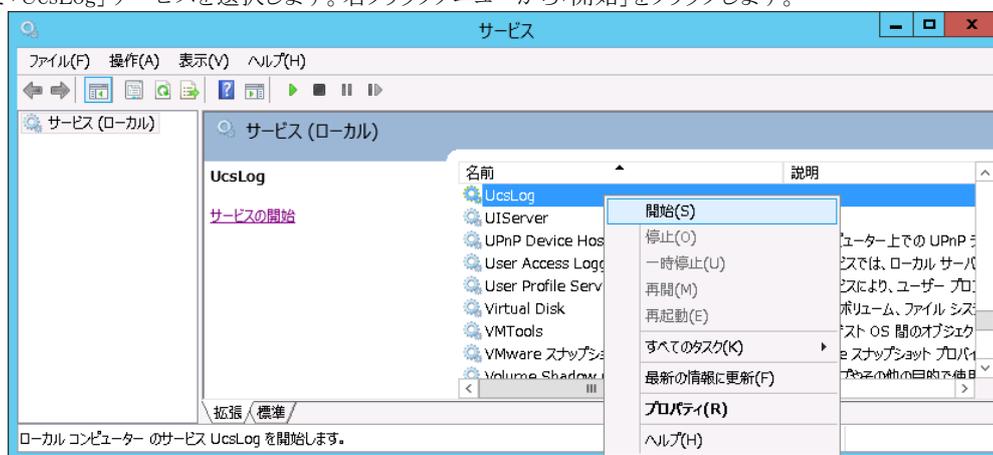


図 10-1 Windowsサービス画面

3. 正常に開始されている場合は、「UcsLog」サービスの状態が「実行中」となっています。
4. 一覧で「UIServer」サービスを選択します。右クリックメニューから「開始」をクリックします。

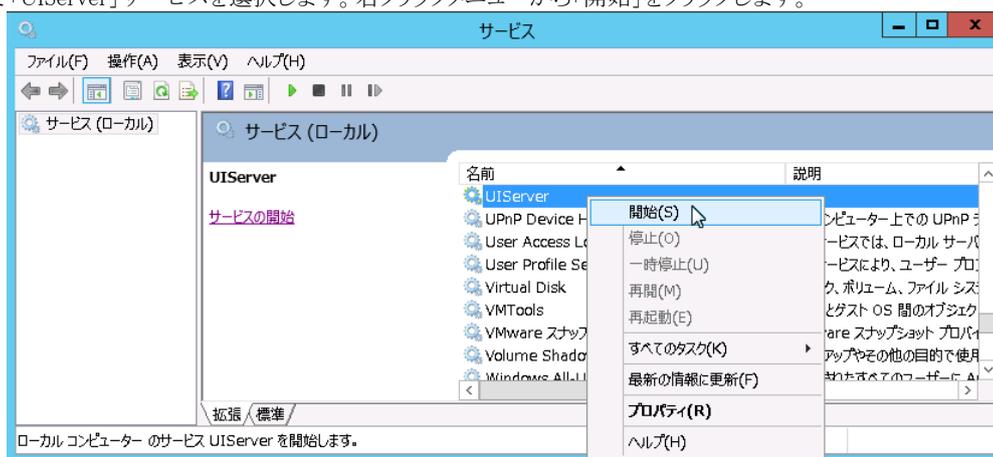


図 10-2 Windowsサービス画面

5. 正常に開始されている場合は、「UIServer」サービスの状態が「実行中」となっています。
以上でサービスの起動は終了です。

¹ 「UCController」プロセスはU/Cサーバ全体を管理する機能です。

² 「ScheduleController」プロセスはU/Cサーバのスケジュール起動を管理する機能です。

10.1.2.プロセスの起動

1. デスクトップ画面でキーボードのWindowsロゴキーを押しながらRキーを押し、[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスを開きます。
2. ダイアログボックスに「cmd」と入力してOKをクリックし、コマンドプロンプト画面を開きます。

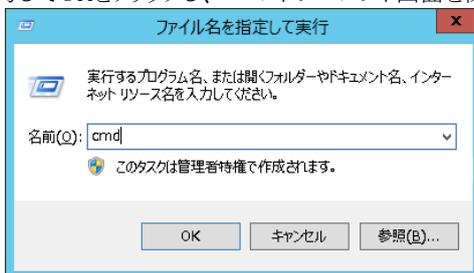


図 10-3 ファイル名を指定して実行ダイアログボックス

3. コマンドプロンプト画面で「%UCS_HOME%\¥UcsProgram¥bin¥ucs startup」と入力し、Enterを押して実行します。¹
4. 正常に起動した場合は「起動が完了しました」というメッセージが表示されます。
以上でプロセスの起動は終了です。

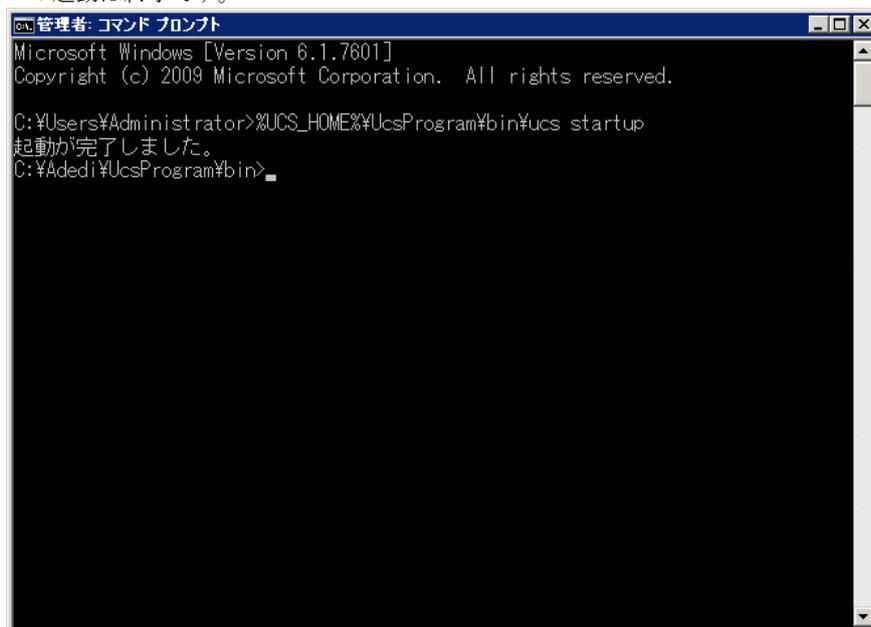


図 10-4 ucs startup実行例

¹ 「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

10.2.U/Cサーバの手動停止

U/Cサーバを停止するためには、「UIServer」サービス、「UcsLog」サービス、及び「UCController」プロセス、「ScheduleController」プロセスを停止する必要があります。U/Cサーバを手動停止するための方法を以下に記述します。

10.2.1.プロセスの停止

1. デスクトップ画面でキーボードのWindowsロゴキーを押しながらRキーを押し、[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスを開きます。
2. ダイアログボックスに「cmd」と入力してOKをクリックし、コマンドプロンプト画面を開きます。

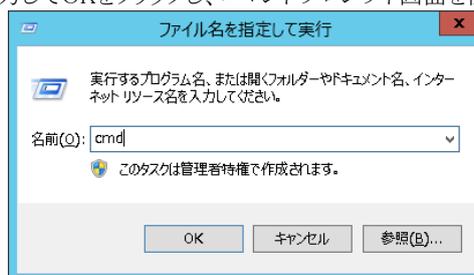


図 10-5 ファイル名を指定して実行ダイアログボックス

3. コマンドプロンプト画面で「%UCS_HOME%\¥UcsProgram¥bin¥ucs shutdown」と入力し、Enterを押して実行します。¹
4. 正常に停止した場合は「停止が完了しました」というメッセージが表示されます。
以上でプロセスの停止は終了です。

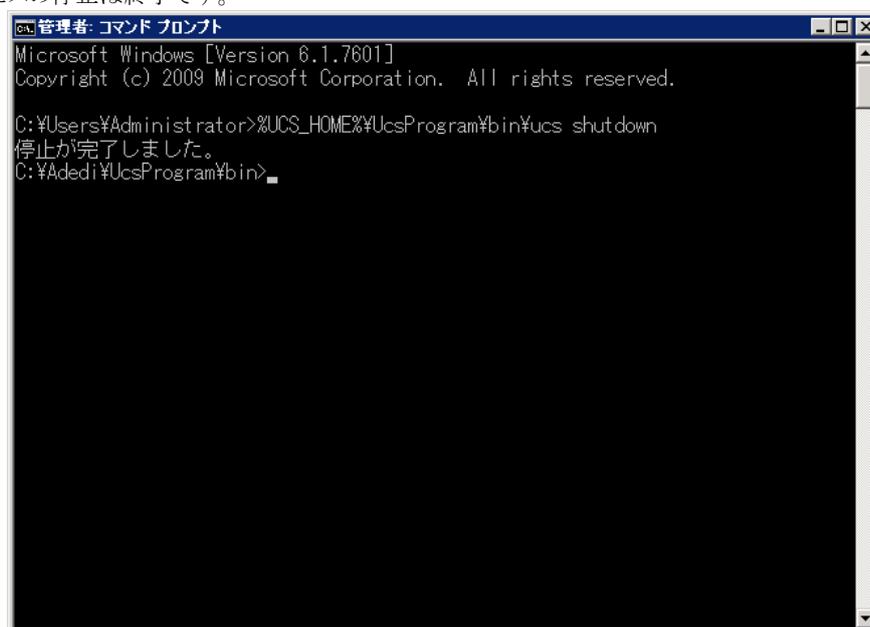


図 10-6 ucs shutdown 実行例

¹ 「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

10.2.2. サービスの停止

1. Windowsのスタート画面からコントロールパネルを開き、「管理ツール」から「サービス」を起動します。
2. 一覧で「UcsLog」サービスを選択します。右クリックメニューから「停止」をクリックします。

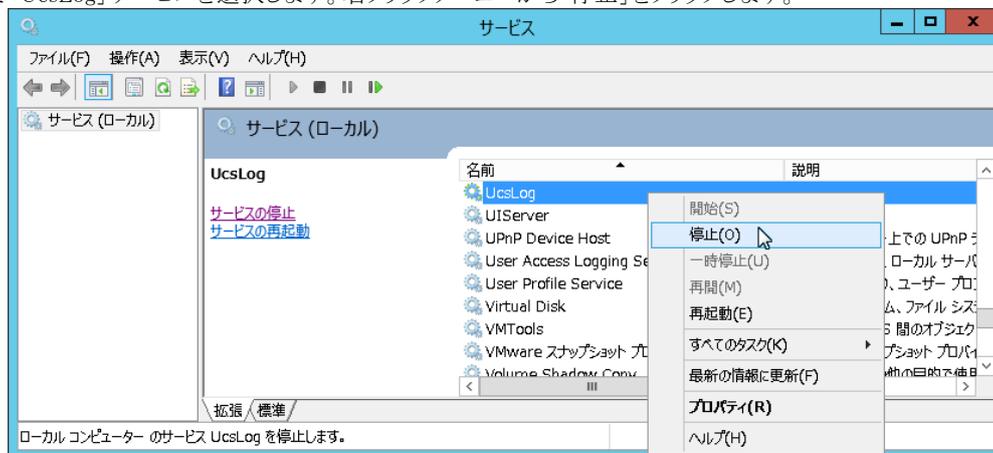


図 10-7 Windowsサービス画面

3. 正常に停止されている場合は、「UcsLog」サービスの状態が空白になっています。
4. 一覧で「UIServer」サービスを選択します。右クリックメニューから「停止」をクリックします。

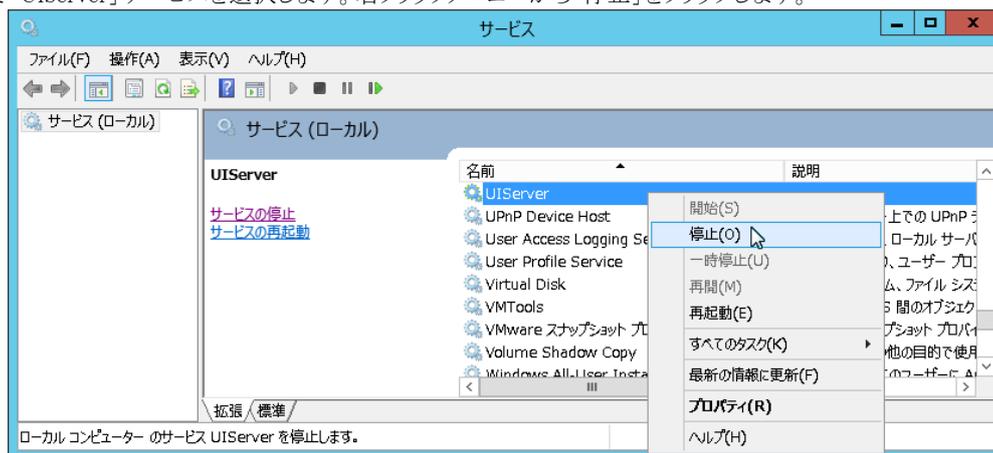


図 10-8 Windowsサービス画面

5. 正常に停止されている場合は、「UIServer」サービスの状態が空白になっています。
以上でサービスの停止は終了です。

11.コマンドでの送受信スケジュール実行

ユーザスケジュールに登録済みの送受信スケジュールを、「starttran」コマンドを使用して手動実行することができます。送受信スケジュールを緊急に実行したい場合、TaskManagerにログインすることなく処理を起動させることが可能です。

11.1.starttranコマンド

起動したいスケジュールを指定するには、以下の引数を指定する必要があります。内容は以下の通りです。

表 11-1 starttranコマンド引数

引数	説明
-user <ユーザID>	ユーザIDを指定します。
-task <send/ recv>	起動したい処理を指定します。
-time <hh:mm> ※ 24時間表記	起動したい処理のスケジュール実行時刻を指定します。 時刻を指定しない場合、登録済みのスケジュールの中で実行時刻が最も早いスケジュールが実行されます。

11.1.1.コマンドを実行するには

1. デスクトップ画面でキーボードのWindowsロゴキーを押しながらRキーを押し、[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスを開きます。ダイアログボックスに「cmd」と入力してOKをクリックし、コマンドプロンプト画面を開きます。

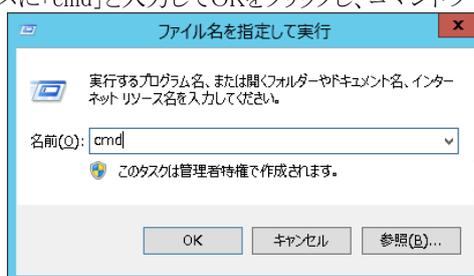


図 11-1 ファイル名を指定して実行ダイアログボックス

2. コマンドプロンプト画面で以下のコマンドを入力し、Enterキーを押して実行します。

`%UCS_HOME%\UcsProgram\bin\starttran -user <ユーザID> -task <send/recv> -time <hh:mm>`¹



図 11-2 送信スケジュール実行例

3. 処理が正常に起動した場合、コマンドプロンプト画面にメッセージは表示されません。メッセージが表示された場合は「11.1.3.エラーメッセージが表示されるときには」を確認してください。

¹ 「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

11.1.2.オプション機能を使用するには

starttranコマンドには、以下のオプション機能があります。内容は以下の通りです。

表 11-2 starttranコマンドオプション引数

引数	説明
-status	ステータス配信を行う場合に指定します。
-help	コマンドの使用方法を表示する場合に指定します。

11.1.2.1.ステータス配信を行うには

引数「-status」を指定した場合、ステータス配信を行うことができます。

コマンドプロンプト画面で以下のコマンドを実行してください。

```
%UCS_HOME%\UcsProgram\bin\starttran -user <ユーザID> -task <send/recv> -time <hh:mm> -status1
```



```
管理者: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 6.2.9200]
(c) 2012 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>%Adedi%\UcsProgram\bin\starttran -user AD1111 -task recv -time 15:00 -status
C:\Adedi%\UcsProgram\bin>
```

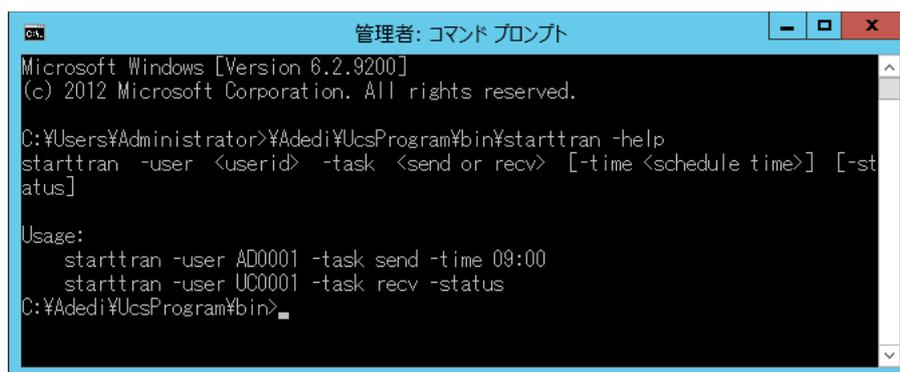
図 11-3 ステータス引数 実行例

11.1.2.2.コマンドの使用方法を確認するには

引数「-help」を指定した場合、コマンドの使用方法与使用例を確認することができます。

コマンドプロンプト画面で以下のコマンドを実行してください。

```
%UCS_HOME%\UcsProgram\bin\starttran -help
```



```
管理者: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 6.2.9200]
(c) 2012 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>%Adedi%\UcsProgram\bin\starttran -help
starttran -user <userid> -task <send or recv> [-time <schedule time>] [-status]

Usage:
    starttran -user AD0001 -task send -time 09:00
    starttran -user UC0001 -task recv -status
C:\Adedi%\UcsProgram\bin>
```

図 11-4 ヘルプ引数 実行例

¹ 「%UCS_HOME%」はU/Cサーバのインストールフォルダです。

11.1.3. エラーメッセージが表示される時には

コマンド実行の処理が正常に起動しない場合、コマンドプロンプト画面に以下のメッセージが表示されます。
対応方法に不明な点がある場合にはサポートデスクまでお問い合わせください。

表 11-3 starttranコマンド実行時のエラーメッセージ

メッセージ	対応方法
hh:mmで指定してください。	実行時刻が正しいフォーマットで入力されているかを確認してください。
00:00～23:59を指定してください。	実行時刻が00:00～23:59の範囲で指定されているかを確認してください。
sendかrecvのいずれかを指定してください。	タスクにsendまたはrecv以外が入力されていないかを確認してください。
指定されたユーザが見つかりませんでした。	指定されているユーザが存在しません。SystemManagerの「ユーザ設定」画面で、登録されているユーザを確認してください。
スケジュール設定に取引データ転送プログラムが存在しません。	指定されているスケジュールの取引データ転送プログラムが存在しません。TaskManagerの「ユーザスケジュール設定」画面で設定内容を確認してください。
指定したユーザのスケジュールが存在しませんでした。	指定時刻のスケジュールが登録されていません。 TaskManagerの「ユーザスケジュール」画面で登録されているスケジュールを確認してください。
JMX接続エラーのため送受信処理を実行できません。	U/Cプロセスが停止しています。 U/Cサーバを起動させた後、再度実行してください。
タスク実行中のため送受信処理を実行できません。	同一のタスクが実行中のため処理を起動できません。 先のタスクが終了したことを確認し、再度実行してください。
リストア実行中のため送受信処理を実行できません。	リストア実行中のため処理を起動できません。 リストアが終了したことを確認し、再度実行してください。
リポート実行中のため送受信処理を実行できません。	リポート実行中のため処理を起動できません。 リポートが終了したことを確認し、再度実行してください。